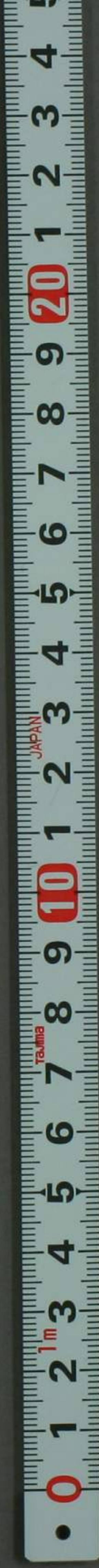


新撰
 小學地理書

訂正
 豐岡俊一郎編
 森孫一郎

五

ル 3
 3669



門 九三
號 669
卷

明 治 一 十 年 十 月 四 日 出 版

從三位西周先生序
稻垣千頴先生校閱

森 孫一郎 編
豐岡俊一郎

新 撰 小 學 地 理 書

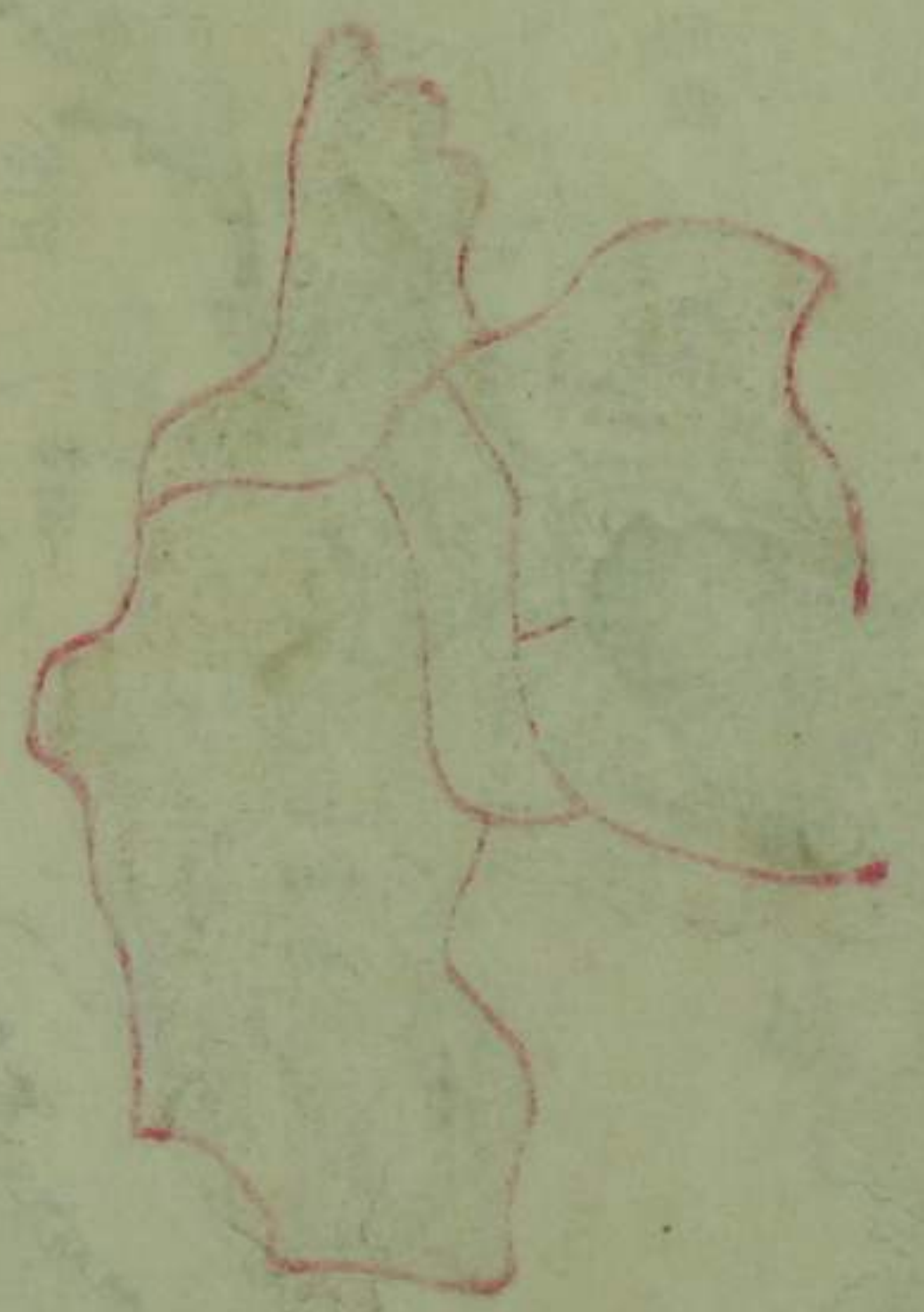
文 部 省
檢 定 濟 教 育 書 房 藏



新撰小學地理書卷之二

卷二

門 九三
號 669
卷



新撰小學地理書卷之二

稻垣千穎 校閱

豐岡俊一郎 同編
森 孫一郎



位置

畿内を殆ど本土の中央に在る地方にして之に屬する國五あり先、畿内の中央にあり河内を基として、其の位置を云ふときは、山城其の東北に連り、和泉其の西に接ぐ、其の西北に攝津にして、其の東南に大和なり、河内の大部及西方沿岸の地方を平野開き、河流通じ、地味極めて肥沃なり、然

地勢

小學地理書

卷之二

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

門 3
號 669
卷



新撰小學地理書

新撰小學地理書卷之二

稻垣千穎

校閱

森孫一郎

豐岡俊一郎 同編



位置

畿内を殆ど本土の中央に在る地方にして之を屬する國五あり先畿内の中央にある河内を基として其の位置を云ふときは山城其の東北に連り、和泉其の西に接ぐ其の西北に攝津にして其

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

畿内地圖



但馬

後丹

狹若

越前

美濃

丹波

近江

播磨

攝津

伊賀

伊勢

大坂

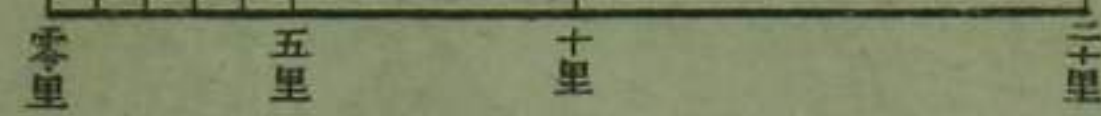
大和

淡路

紀伊



尺縮法里本日
一之分千八萬二十七百



ル依=表道國ノ布公年八十治明ハ表程里

燈臺 鑄道 港 都邑 府縣廳ノアル都會
 薄樺色 海面ヨリ凡五百尺以上地
 薄綠色 海面ヨリ凡五百尺以下地

百三十里餘	百四十三里餘	百四十三里餘	百四十三里餘
百三十一里餘	百五十五里餘	百五十五里餘	百五十五里餘
百六十一里餘	百六十五里餘	百六十五里餘	百六十五里餘
百七十一里餘	百七十五里餘	百七十五里餘	百七十五里餘
百八十一里餘	百八十五里餘	百八十五里餘	百八十五里餘
百九十一里餘	百九十五里餘	百九十五里餘	百九十五里餘
百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘
百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘
百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘
百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘	百三十一里餘

東京 京都 大阪 神戶 奈良 和歌山 高松 松山 富山 石川 福井 滋賀 長岡 新潟 山形 秋田 岩手 宮城 青森 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 奈良 和歌山 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口



山岳

れども其の他ハ大概山岳相連リ、殊小大和の南部ハ高山峻岳重リ聳ゆ、又海岸ハ其の距離短シ、雖著名の港灣多シ、前ハ説きたる如ク、山城大和ハ畿内の山國なれど嶮岨あるもの少からむ、就中山城ハ比叡山あり、都富士と稱へて、人

吉野山の圖



江河

の知らざるものあり、又鞍馬山、愛宕山、鷲峯山あり、大和ハ葛城山殊小高く、大臺原山、山上嶽、及吉野山之小亞、河内の金剛山を、即ち大和の葛城山小して、飯盛、鷲尾の諸山と共小聳ゆ、和泉の槇尾、七越、攝津の箕面、神峯、武庫、摩耶、再度の諸峯を、又各其の國小名高く、攝津の淀川を、近江の琵琶湖より發する宇治川、及山城の賀茂、桂、木津の三川、或合せて下流小至りて、更小安治、木津、神崎の諸川小分る、河道廣大、舟運利便、畿内第一の大河なり、此の川小を三十石と

湖沼

稱ふる運船の往來ありて、昔時の其の名高かりしが、今の小蒸氣船絶間なく、旅客貨物を漕遞せ、又大和の、大和川、吉野川、北山川、十津川あり、此の諸流を、水勢急激にして、兩岸の風景甚幽美なり、畿内への湖沼の大なるものなり、惟山城の巨椋の池、河内の狭山の池あるのみあり、巨椋の池を、宇治川の要害を防ぐ爲に、豊太閤の穿ちけしものにして、狭山の池は、灌漑に便せん爲に、崇神天皇の鑿らせ給ひしものなり、

港灣及岬

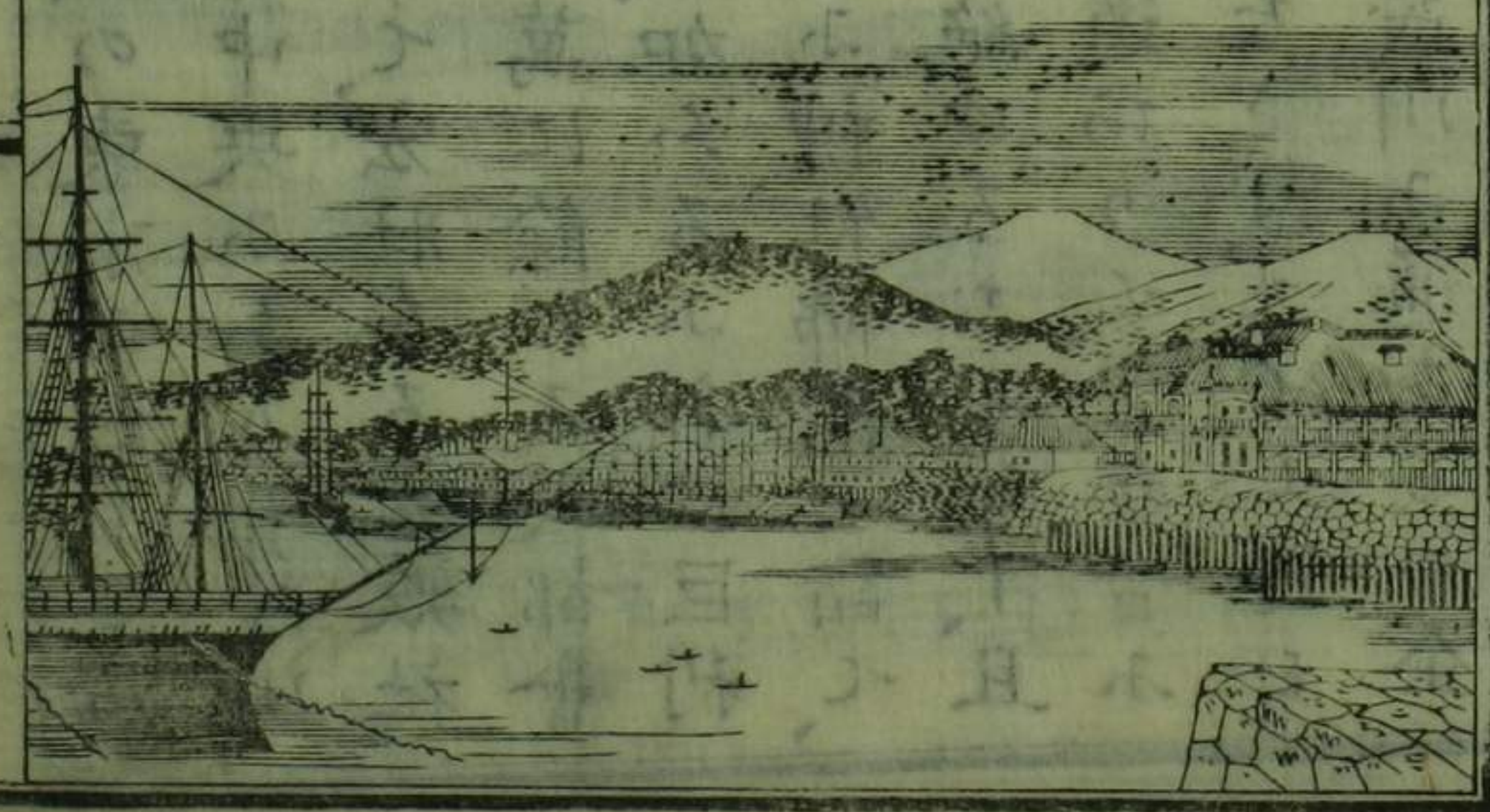
畿内を西方の一部のみ海に面すれば、岬港共

都會

京都

甚多からざれども、和泉の堺、岸和田を、古より名高く、攝津の神戸、兵庫の近世殊に著名あり、和泉の和泉岬を、和泉の黒崎、觀音崎と相對し、燈臺の光赫あり、此の對岬の中を大阪灣、又茅渚の海と稱ふ、京都は、桓武天皇の延暦以降、歷朝の帝都ありて、

神戸海岸遠景の圖

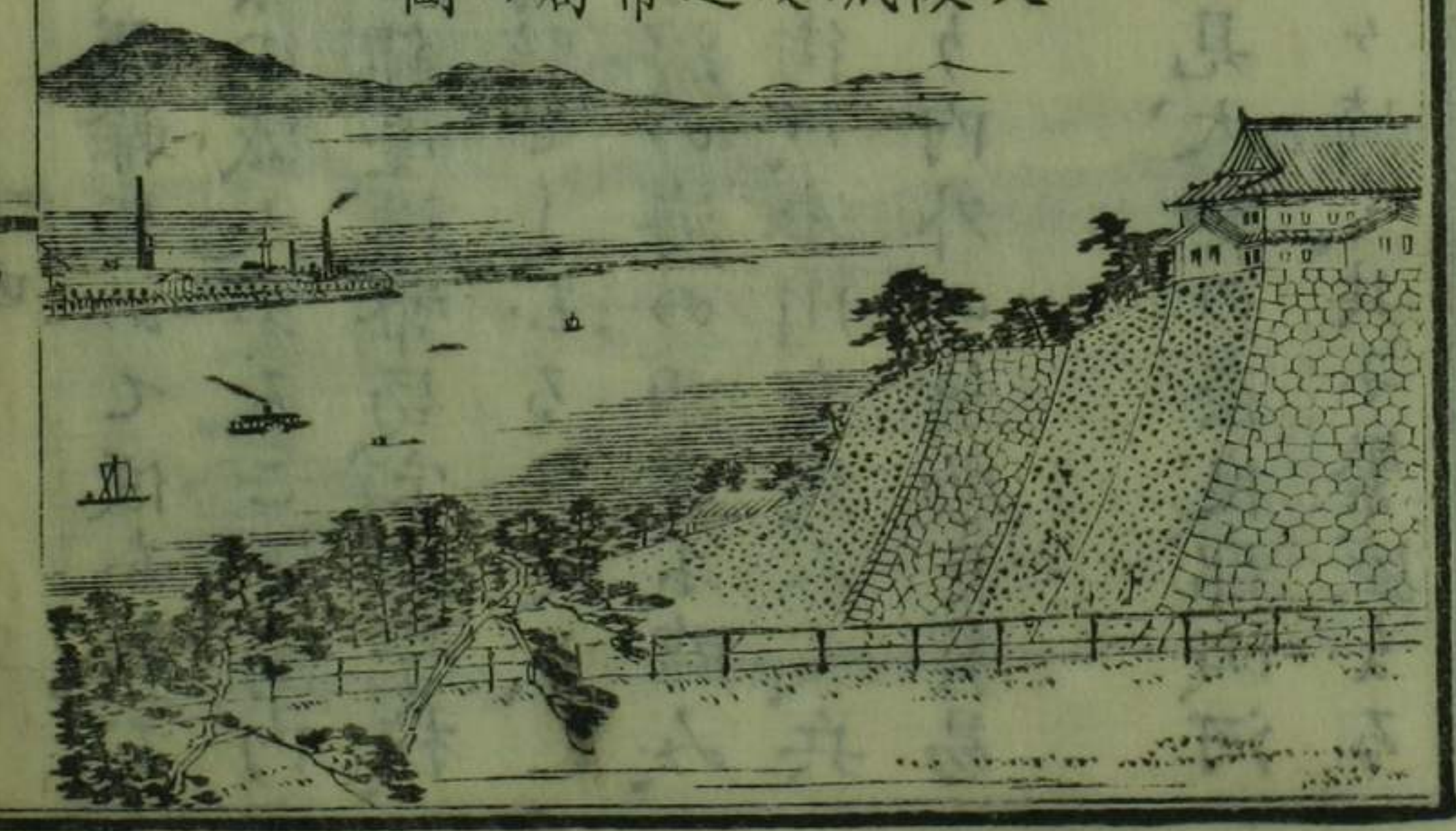


明治元年遷都の時より、武藏の東京に對して、西
 京と呼ぶ、其の位置を山城の中央にあり、賀茂川
 其の間を流る、市街整正にして、宏壯ある宮殿社
 寺學校等ありて、人口二十四萬に餘れる大都會
 あり、都下山水の風景に富み、加ふるに名社巨刹
 の多きこと海内一と稱せ、故に神社佛閣に詣て、
 名所舊蹟を尋ぬるもの、陸續絶ゆることあり、且
 大阪、神戸及大津に通じ、鐵道ありて、繁華昔に
 及むねども、尚甚しき衰態なき、まゝして近日
 近江の琵琶湖を開疏して、賀茂川に通じ、るの企

大阪

あるが、以て、其の舊觀に
 復すること蓋し遠きに
 何らざるべし、
 大阪は三府の一にして、
 茅渚の海に臨み、淀川に
 跨り、山陽山陰兩道の咽
 喉に當り、人口凡三十餘
 萬有りて、東京に亞する
 大都會あり、市街清潔に
 して、溝渠四通し、加ふる

大阪城及造幣局の圖



神戸

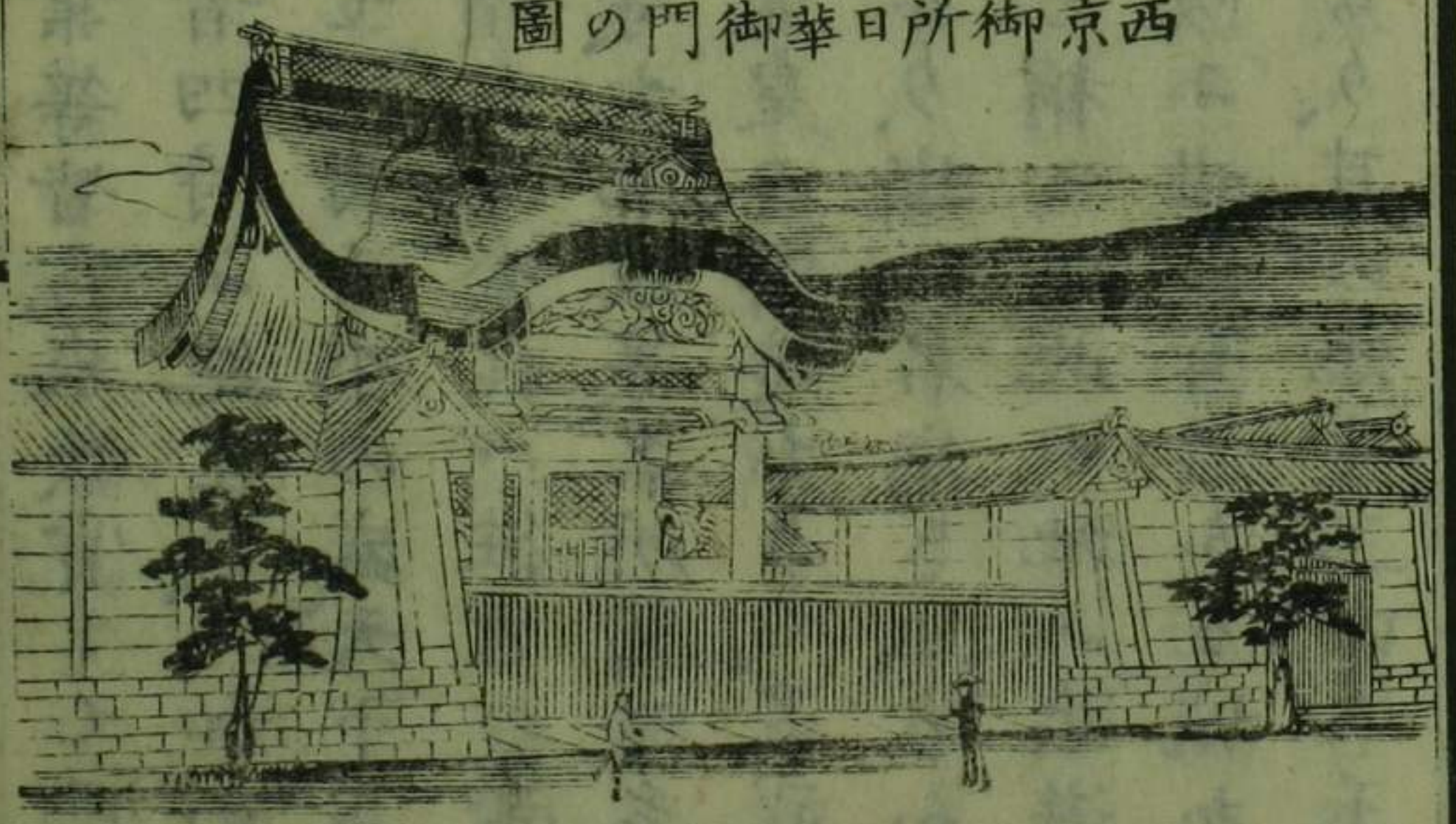
小鐵道東西に達し、水陸の運輸極めて便かれど、豪商富家軒を列ねて、商業の盛大なること海内一と稱せべし、又宏壯なる鎮臺、造幣局、官廳、學校、神社、佛閣ありて、人目を驚駭せしむるに足る、神戸を五港の一ふして、茅渚の海の西岸に臨み、兵庫縣廳の在る所あり、市街は、湊川を夾みて、兵庫と相連り、船舶灣口に湊り、内外の貨物を貿易し、頗繁盛を致す、此の他和泉の堺、山城の伏見、大和の奈良、郡山、河内の枚方、攝津の西の宮、尼ヶ崎を、共繁盛なる

其の他の都會

名所

都邑なり、殊に奈良の奈良縣廳の在る所あり、京都ハ、禁裏御所、二條の城を始めとして、名所古蹟數多く、指屈せべし、らば、中にも東山を、賀茂川に臨み、樹翠み水清く、名社巨刹其の間に隱見し、風景畫けるが如し、而して西山之に讓らば、其の

西京御所日華御門の圖



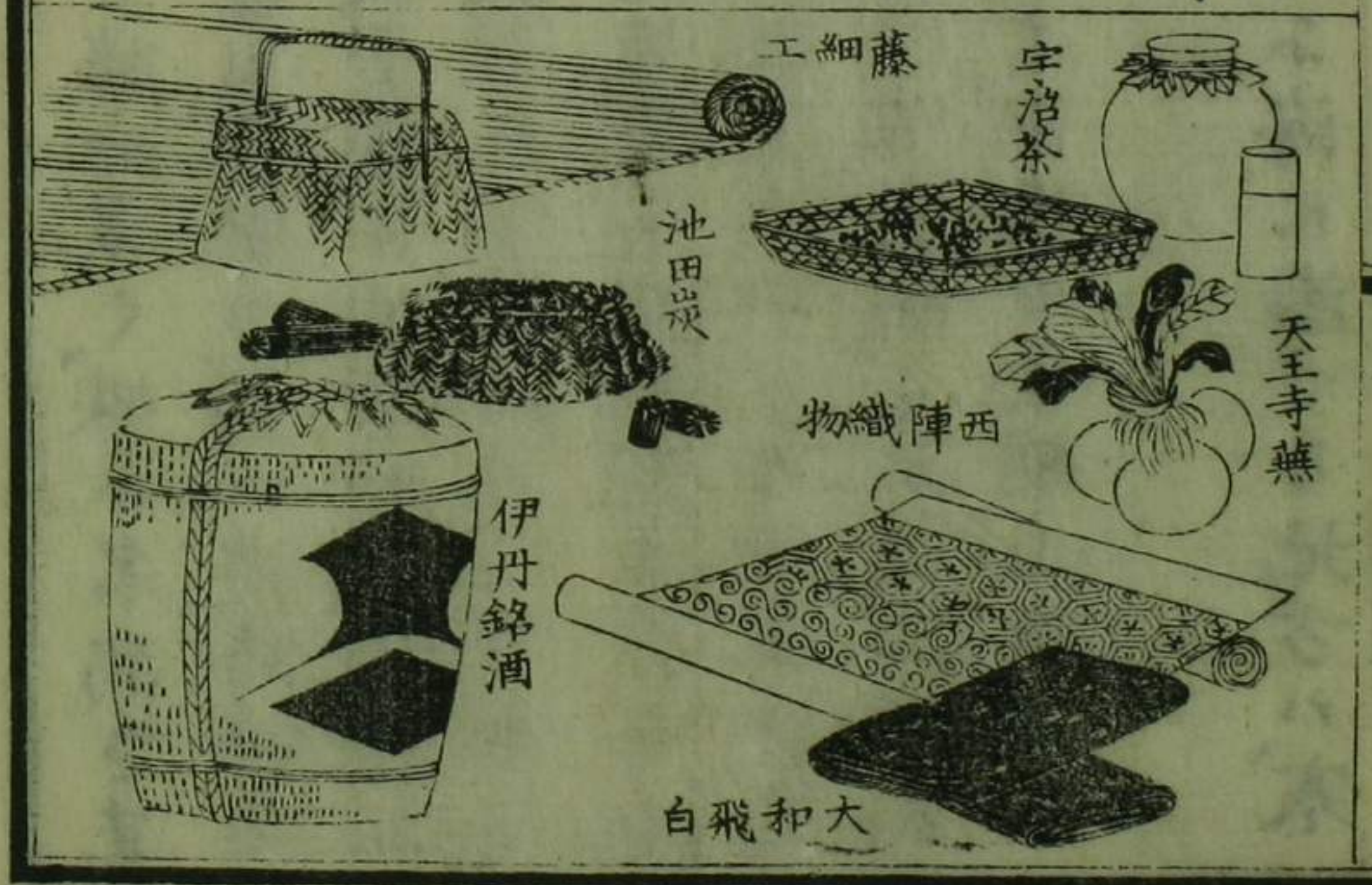
他嵐山の櫻花、高雄の紅葉等皆古來歎賞して已まざる所なれど、遊人賽者四時ふ絶えぬ、大和の吉野の櫻花の名所にして、一目千本の盛、天下ふ雙なく、且南朝時代の舊蹟あり、奈良の往古の帝都ありて、春日の社、東大寺、大佛殿等、名所舊蹟多し、大和の畝傍山の神武天皇の御陵ありて、多武峯の藤原鎌足を祀る所あり、斯く名高き地方あれば、春和の候の、大和廻と稱へて、此の地ふ來遊するもの多し、攝津の、大阪ふ世に有名なる城あり、豊太閤の築きしものなり、其の他生玉、四天王

氣候

寺を始として著名なる勝地多く、殊ふ名高き箕面の瀧を、紅葉の勝處兼ね、須磨の浦の淡路嶋の對し、白沙青松相連り、風景佳なる名所あり、傍に聳ゆる鷓越一の谷を源平の古戰場ありて、湊川の神社を楠公が祀れるなり、又近來開きたる諏訪山の温泉の、生田の社の上ふありて眺望甚絶佳なれども、尚有馬ふの一步を譲る、其の山續たる摩耶山赤松氏の故墟を、河内の金剛山の千早城址と共ふ名高し、
氣候を概中和ありて、殊ふ海に瀕せる地方の寒

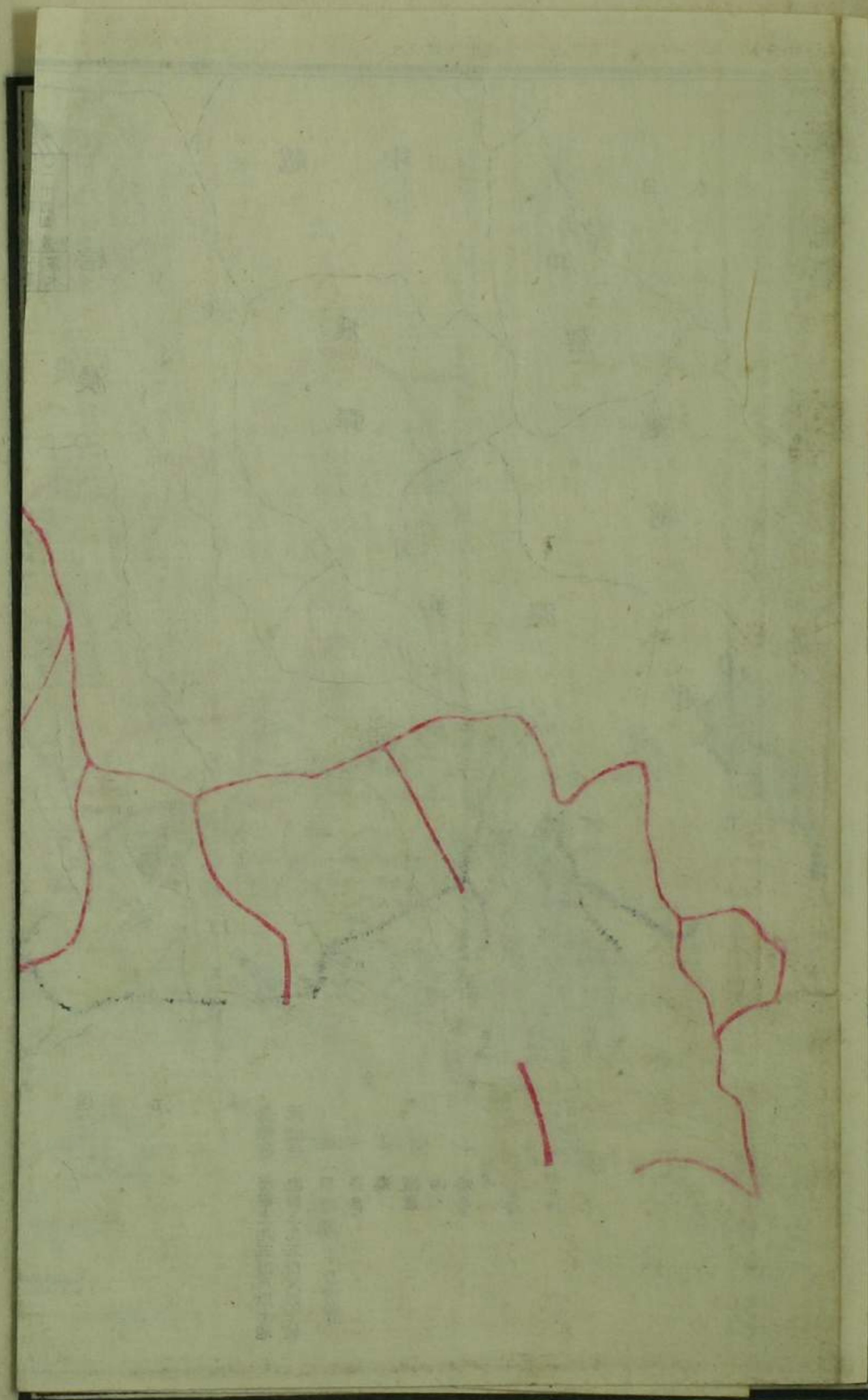
物産

暑共も甚しくもらざれど、山城を冷暖時に變じ、陰晴常あらば、冬時叡山嵐と稱する風吹きて、最寒冷を覺ゆ、其の他山間も、一般も寒強し、京都の織物、繡物、漆物も、品位高尚もして、其の名海外も高く、又大和の大和飛白、奈良晒、河内和泉



附説

の木綿もハ、皆有名の國産あり、殊も山城の宇治茶、攝津の灘、伊丹酒も、世も譽れ高く、淀川の鯉、吉野川の鮎、神戸の女牛もハ、又人の賞むる處あり、其の他池田炭、天王寺蕪、奈良漬、吉野紙、吉野葛、藤細工、鯨細工、一貫張、薄雪、昆布等、又著名の産物あり、畿内地方ハ、神武天皇都を大和の橿原に奠め給ひしより、歷朝の都趾帝陵概も此の所も在れば、名所舊蹟も亦甚多く、且古より最早開きたる國あるが以て、田畝大も闢け都邑村落相望み、人口尤も稠密なり、



諸國を除きて外ハ、大抵平野遠く開き、河流縱横
 不貫通、灌溉極めて利あり、就中、武藏、上總、下總
 及常陸も、尤平廣ふして、東山道の上野、下野等不
 連り、一大平原成屯、之を阪東の平野、又關東の
 平野と名づく、又海濱を岬灣出入りて、名港良泊
 少らば、總べて本道ハ、全國中最低地多き部分
 ありて、肥壤沃地の稱あり、然れども、其の西北の
 國境を、高山峻岳連亘し、其の支脈、一を甲斐、伊
 豆、小幡り、遠く海入りて、數多の嶋嶼をかほし、一
 を伊賀より伊勢、小豆り、志摩入りて、海上不散



東海道

第三 東海道

位置

全道

位置

諸國

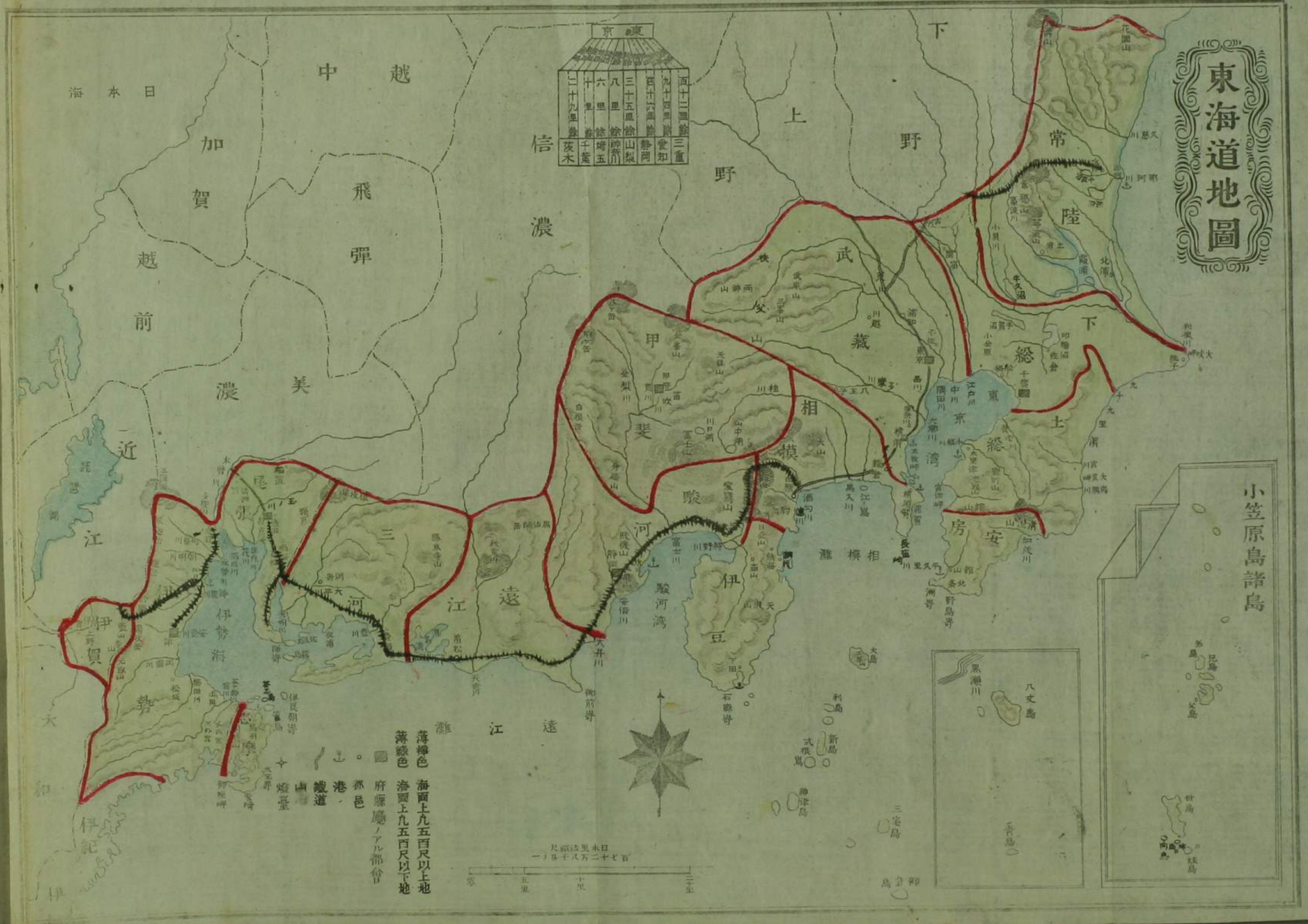
位置

地勢

畿内の東一帯、太平洋の岸に沿ひ多る諸國を東海道と稱す、其の國名を既に前章に掲げたれども、今又其の位置を示さん爲す、西の方より序を逐ひて列擧せれば、伊賀、伊勢、尾張、三河、遠江、駿河、相模、武藏、下總、常陸、そして志摩、伊勢の南端より東に突出し、尾張と内海を隔て、甲斐と駿河の北を擁し、伊豆と駿河の南に延ぶ、上總と下總の南端に在りて、安房の更に其の西南に斗出せり、全道外洋に面せるを以て、甲斐、伊豆、志摩、伊賀の

諸國を除きて外は、大抵平野遠く開き、河流縦横に貫通し、灌溉極めて利あり、就中武藏、上總、下總及常陸も尤平廣にして、東山道の上野、下野等も連り、一大平原を成す、之を阪東の平野、又關東の平野と名づく、又海濱を岬灣出入りて、名港良泊少らば、總べて本道は、全國中最低地多き部分にして、肥壤沃地の稱あり、然れども其の西北の國境を、高山峻岳連亘し、其の支脈、一も甲斐、伊豆に蟠り、遠く海に入りて、數多の嶋嶼をなす、一も伊賀より伊勢に亘り、志摩に入りて、海上に散

東海道地圖



東海道

第三 東海道

位置

全道

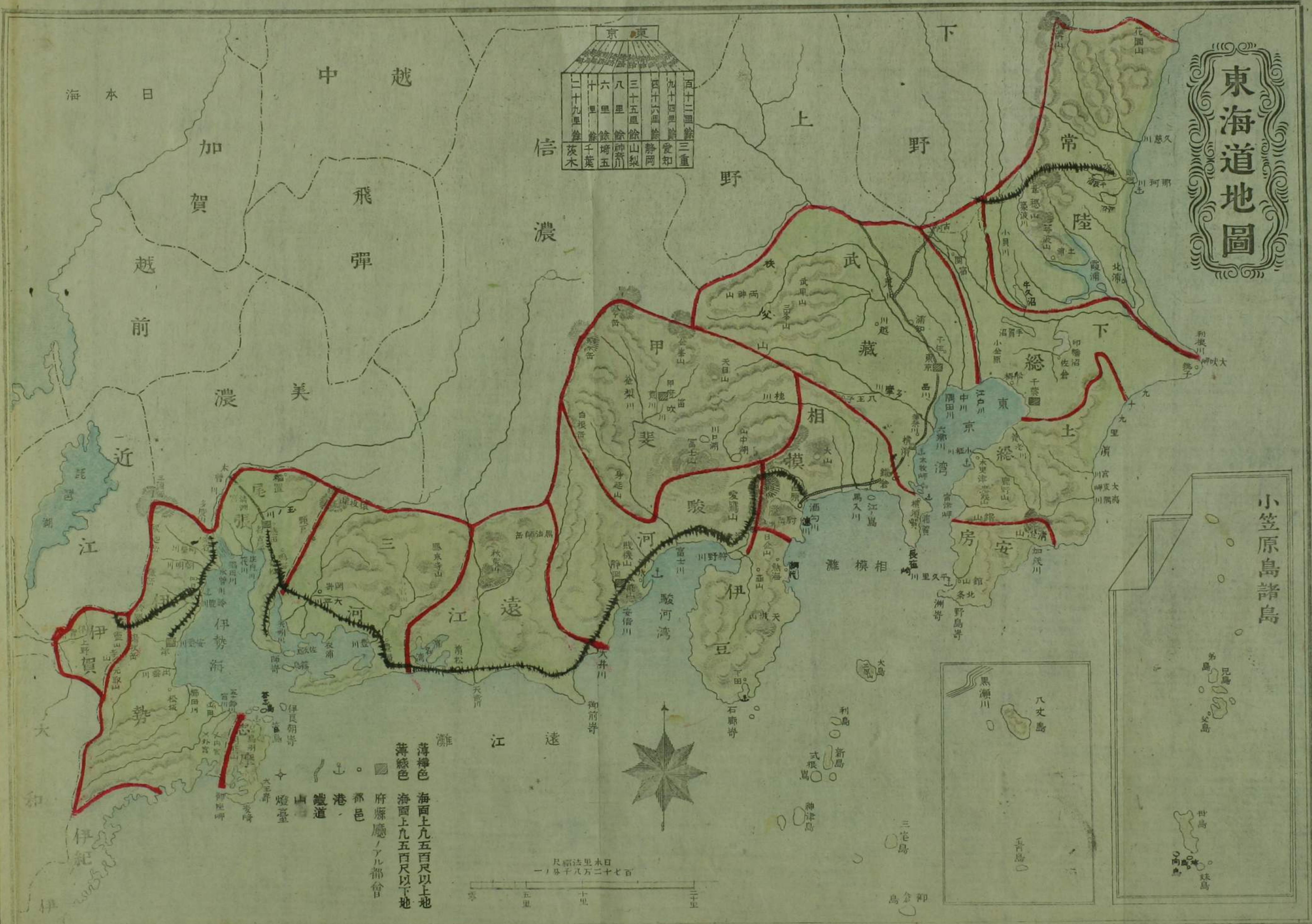
位置

諸國

位置

畿内の東一帯、太平洋の岸に沿ひ多る諸國を東海道と稱す、其の國名を既に前章に掲げたれども、今又其の位置を示さん爲し、西の方より序を逐ひて列擧すれば、伊賀、伊勢、尾張、三河、遠江、駿河、相模、武藏、下總、常陸、而して志摩は伊勢の南端より東に突出し、尾張と内海を隔て、甲斐と駿河の間に在り、伊豆は駿河の南に在り、上總と下總の間に在り、

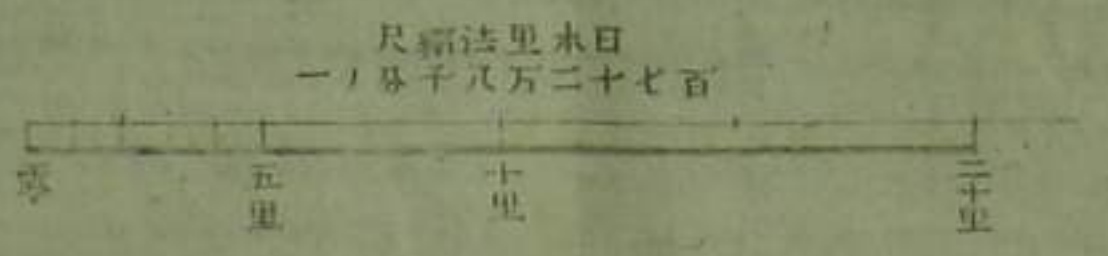
東海道地圖



小笠原島諸島



薄青色 海面上九五百尺以上地
 薄綠色 海面上九五百尺以下地
 府縣廳ノアル都會
 郡邑
 鐵道
 港
 燈臺

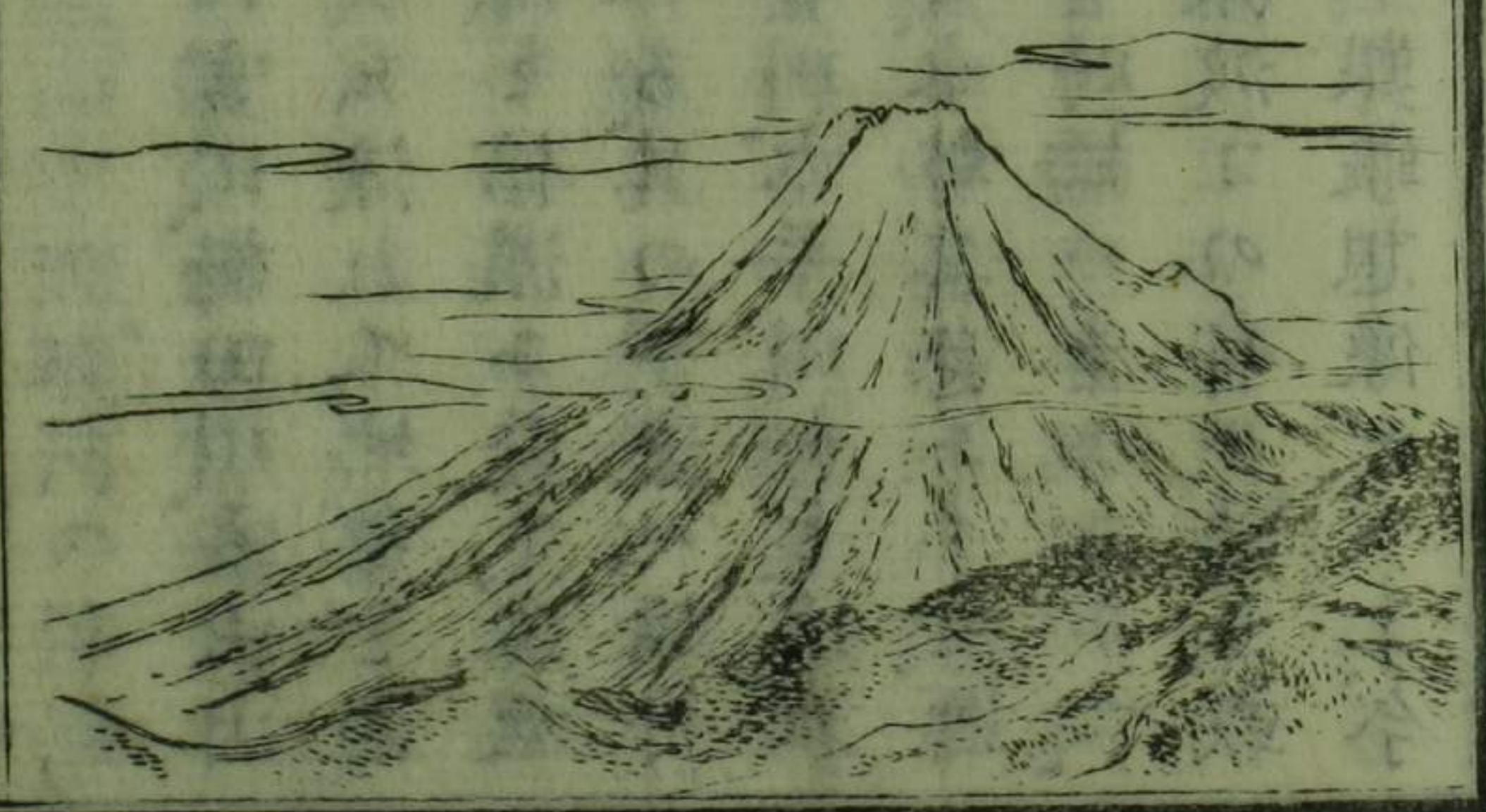


山岳

布す、前小説きたる高山峻岳中にて、殊不著名かるものを擧げん、先伊勢にてハ南方に聳ゆる朝熊山、西方近江の境ハ史上ハ名高き鈴鹿山、又鎌岳、錫杖岳あり、三河ハ猿投、鳳來寺、遠江ハ秋葉、黒法師の諸山あり、駿河ハ名に高き富士の山、高一萬二千尺餘、氷雪四時消ゆることハ、山形扇を倒懸せる如く、其の觀の美麗なる、天下の共ハ稱する所あり、其の他龍爪、愛鷹山、何れども稱するハ足るものなり、甲斐ハ素より山國

あれど、峻嶮かるもの少あらず、其の中金峯、八岳、白根山、おど、尤高し、相摸も、旅客の絶嶮と稱ふる箱根あり、又大山といふあり、伊豆ハ天城山、武藏ハ秩父山、安房ハ清澄山、鋸山あり、上總の鹿野山、又高く、常陸の筑波も、葦穂、八溝と共ハ其の名

富士山の圖



江河

高し、江河を伊賀小伊賀川、伊勢に宮川、櫛田川、雲出川、
 あり、雲出川を此の國の中央に流れて、地勢を南
 勢北勢に分ちり、木曾川を源を信濃に發し、美濃
 と尾張の間を流れて、海に入る、其の下流に、頗舟
 楫の利あり、三河小矢矧川、豐川、太平川あり、遠江
 小天龍、大井あり、此の兩川を、水勢甚急にして、運
 漕の便利少く、殊小大井を、昔時橋は素より小て、
 舟も筏もあかりしを、行旅渡丁の肩も跨り、或
 を蓮臺小駕して渡れり、其の艱難想像せべし、今

湖沼

日吾人車馬を驅りて、安然往來する處と成得る
 を、誠小 聖代の仁澤なり、駿河小安倍川、富士川
 あり、富士を海道一の急河なり、伊豆小狩野川、相
 摸小酒匂、馬入河あり、又武藏小荒川、江戸川、六
 郷川あり、荒川の下流を隅田川といふ、運漕の利
 極めて多く、上總小小櫃川、下總小利根川あり、
 利根は、阪東太郎として、阪東第一の大河にして、其の
 廣野小横流せり、
 全道中湖沼の大なるものを數ふれば、富士の八
 湖の中にして、甲斐の川口湖、山中湖、駿河の浮嶋

原野
岬港

沼相摸の蘆湖有名といふ、蘆湖を箱根山中にお
りて、水色清く山影之にお倒寫して、風景絶佳あり、
又下總にお印幡沼、手賀沼あり、常陸にお北浦霞ヶ浦、
涸沼の三湖あり、霞ヶ浦を、殊にお廣大にして、風色
も亦佳く、其の名殊にお著れたり、
遠江の三方原、下總の小金原、六方原頗大あり、
伊勢の四日市港、桑名港あり、共にお良泊にして、殊にお
四日市の、日時を期して、東京と瀛船の往來あり、
志摩を半嶋國にして、岬灣甚多く、御座、大王、麥崎
等の諸岬、其の名高く、又鳥羽港として有名の良泊

あり、尾張にお師崎、三河にお伊良胡崎、遠江にお御前崎
あり、伊良胡を海中にお突出せるおと尤長し、駿河
の清水港を東京と往來の瀛船上下して、良泊と
稱す、伊豆の南端を石廊崎といふ、其の下田港は、
相摸の浦賀と共にお古昔外國船の入泊せる所お
して、其の名著る、又横須賀港は、東洋第一の造船
所製鐵場ありて、相摸の國の名港あり、武藏の本
牧岬を燈臺あり、其の横濱港を、外國互市場の第
一たり、安房にお野嶋崎、上總にお富津、大東崎あり、常
陸の犬吠崎を、人の能く知る所にして、其の那珂

海灣

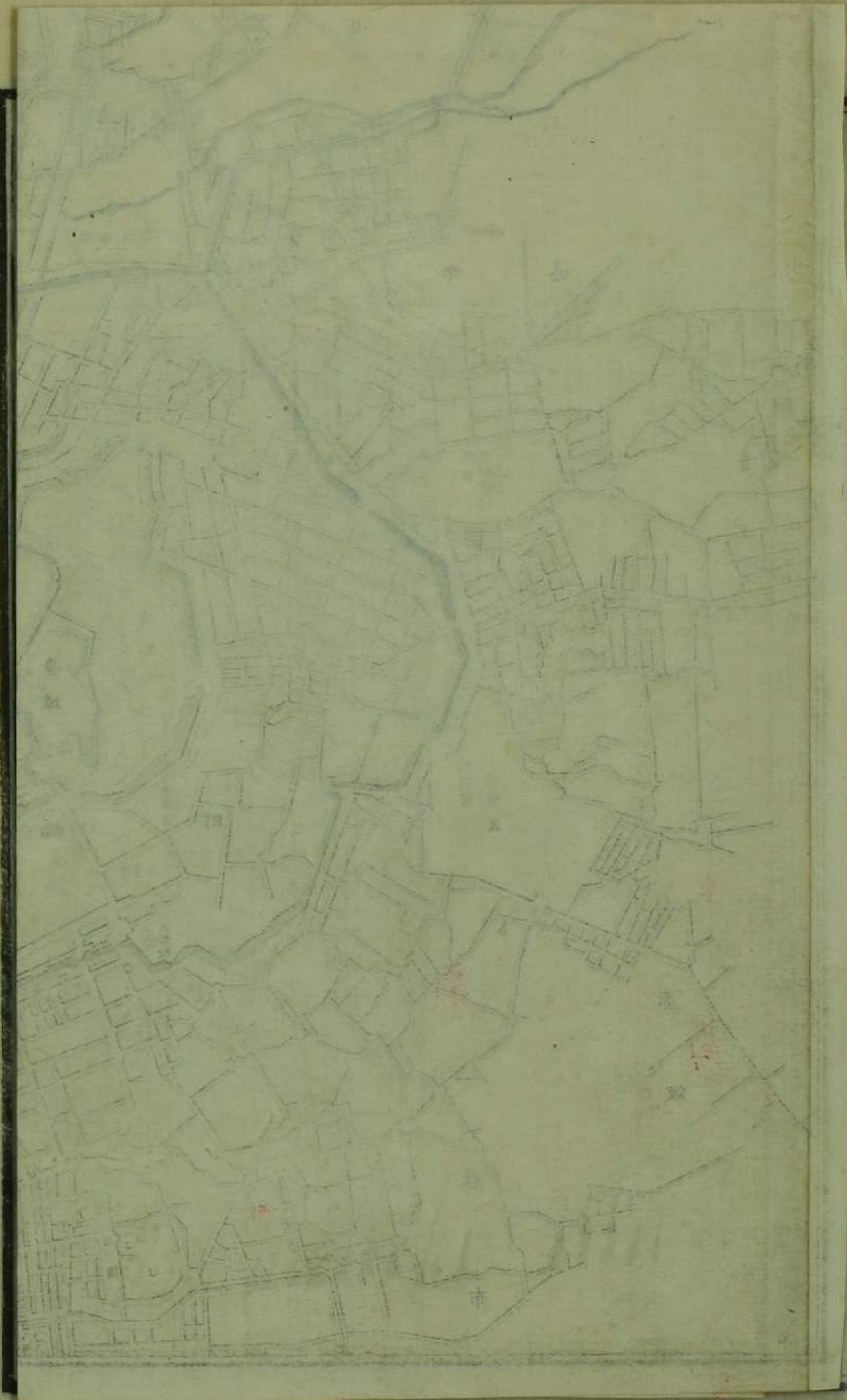
港も亦世に知られたり
志摩の岬と三河の伊良
胡崎も一の内海を擁
く之は伊勢の海と稱せ
衣の浦も尾張の海濱も
沿ひたる所あり、遠江の
濱名灣も昔時潮汐相通
せむ、一の大湖を爲した
りしも、明應年間地震の
爲し其の口崩れて入海

横須賀造船所之圖



嶋嶼

とあり、其の崩れたる口は今切と稱せ、灣中も
猪鼻引佐、細江等の入江ありて、風景清麗あり、駿
河より伊豆も沿ひて駿河灣あり、又伊豆の南端
より、志摩の岬端に至るまでを遠州灘といふ、風
浪暴くして、航客毎も之に艱む相摸灣も相摸も
沿ひたる處、東京灣を武藏上總の間あり、又上總、
下總も亘りたる一帯の海濱を九十九里濱と呼
ぶ、
志摩の岬端は、嶋嶼極めて多く、尾張も篠嶋、三河
も佐久嶋あり、伊豆も大嶋、利嶋、新嶋、式根嶋、神



多く、無数の街燈夜を照し、車馬の音晝夜絶えず、行人の往來織るが如し、又街市の間小ハ、縦横の溝渠ありて、隅田の河水を流通せ、故に水運の便を言を待たず、加ふるに鐵道の設ありて、南を新橋より横濱に連り、北を上野公園の麓より、東山道、上野の前橋に達し、一線を分れて東北に延びて、遂に青森に達せべし、又南方の線路を日ならず西京大阪に連絡すべし、故に他日の繁盛を更し、益大あるべし、都下公園の設多く、遊覽の地乏しあらざれば、春花秋月、遊人各所集集也。

都會

東京

津嶋、三宅嶋、御倉嶋、及八丈嶋あり、就中大嶋、八丈嶋、最大なり、其の名殊に著る、又八丈嶋の正南百八十里を隔て、小笠原嶋あり、八十九の嶋嶼より成れり、
東京を我の天皇の宮居、玉ふ所なり、我の國の大首府あり、位置を東京灣に枕み、隅田川に跨り、江戸川を帯び、東西三里、南北四里に亘り、人口大凡八十萬を包容、市街を皇居を中心として、大街小街各方に線出し、諸官省を始め、王侯の邸宅、學校、醫院、博物館、商社等の壯麗なるもの頗

多く、無數の街燈夜を照し、車馬の音晝夜絶えず、行人の往來織るが如し、又街市の間には、縦横の溝渠ありて、隅田の河水を流通、故に水運の便を言を待たず、加ふるに鐵道の設ありて、南を新橋より横濱に連り、北を上野公園の麓より、東山道、上野の前橋に達し、一線を分れて東北に延びて、遂に青森に達すべし、又南方の線路を日ならず西京大阪に連絡すべし、故に他日の繁盛を更に益大あるべし、都下公園の設多く、遊覽の地乏しあらざれば、春花秋月、遊人各所に群集す、

東京市街全圖



都會

東京

津嶋、三宅嶋、御倉嶋、及八丈嶋あり、就中大嶋八丈嶋最大にして、其の名殊に著る、又八丈嶋の正南百八十里を隔て、小笠原嶋あり、八十九の嶋嶼より成れり、

東京を我が天皇の宮居、玉ふ所にして、我が國の大首府あり、位置を東京灣に枕み、隅田川に跨り、江戸川を帯び、東西三里、南北四里、小巨り、人口大凡八十萬、其の包容を、市街を皇居を中心として



東京市街全圖



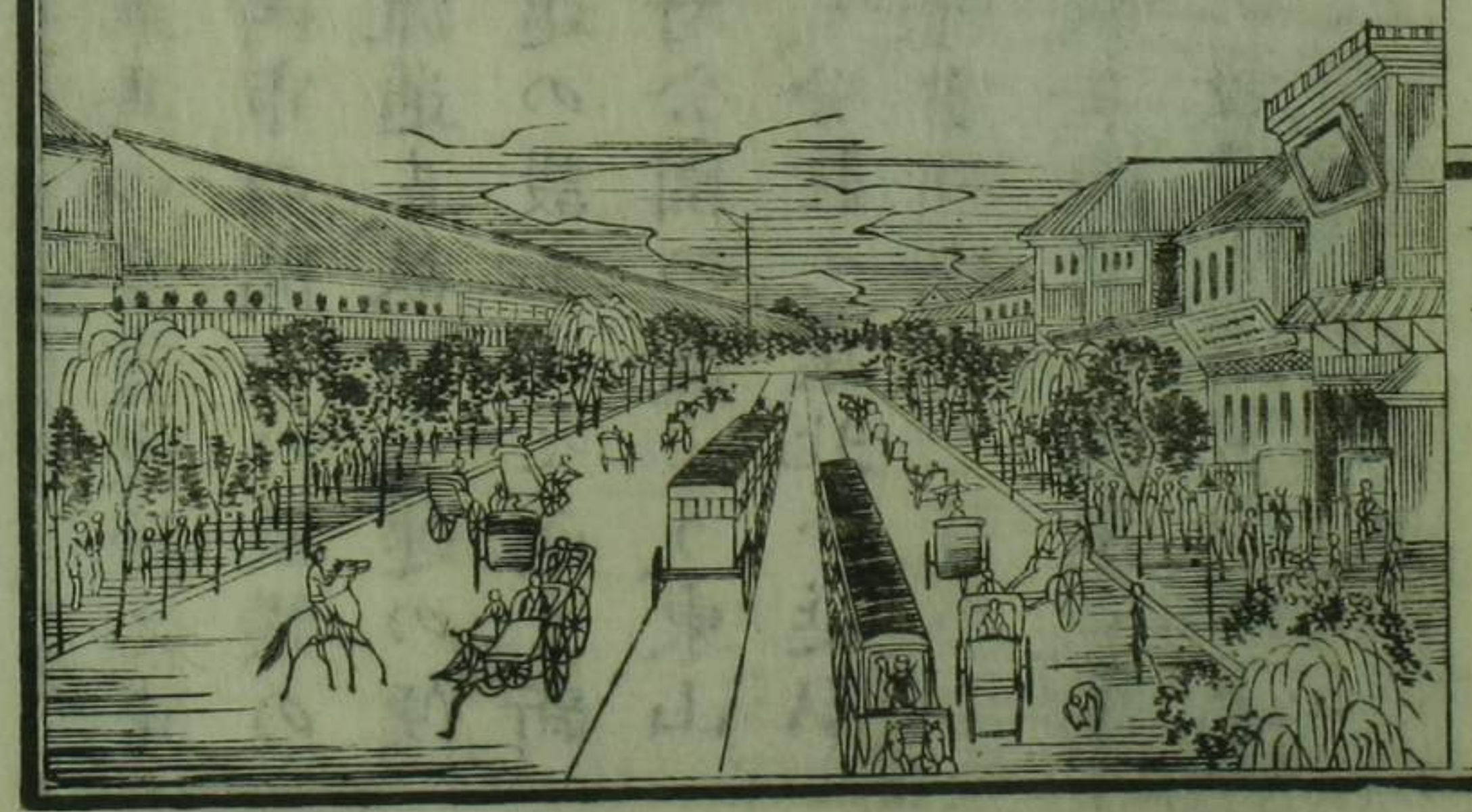
江戸市街全圖

津嶋三宅嶋御倉嶋及八丈嶋あり就中大嶋八丈



此の府江戸と稱して、今より三百年前まで、寂寞ある荒野の中、二、三の村落有り、に過ぎざりしが、天正の末年、徳川家康府を定め、とり、大に繁盛を致し、明治元年、天皇巡狩して、蹕を駐めて、東京と定め、玉ひ、竟、今日の帝都とをた

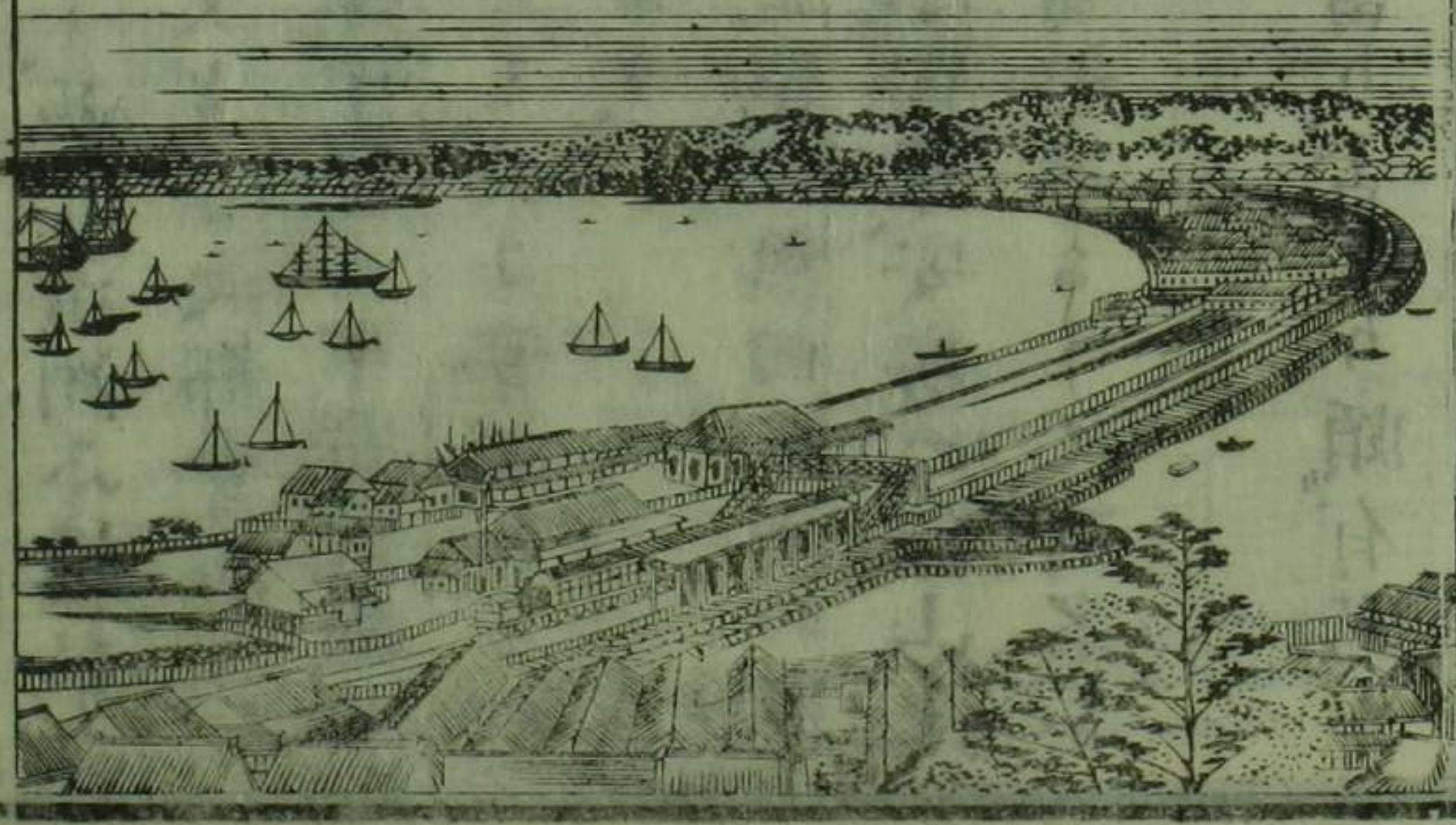
東京銀座通の圖



横濱

をたるなり、所京の賑わい、横濱も、又東京灣に臨み、外國互市場の良港あれば、外國人の居留せるもの多く、市街清潔なり、て、壯麗あり、外國と互市の為、小開きたる港に、此の外四個所あれども、此の港の盛あるに及ぶものなり、

横濱海岸通の圖



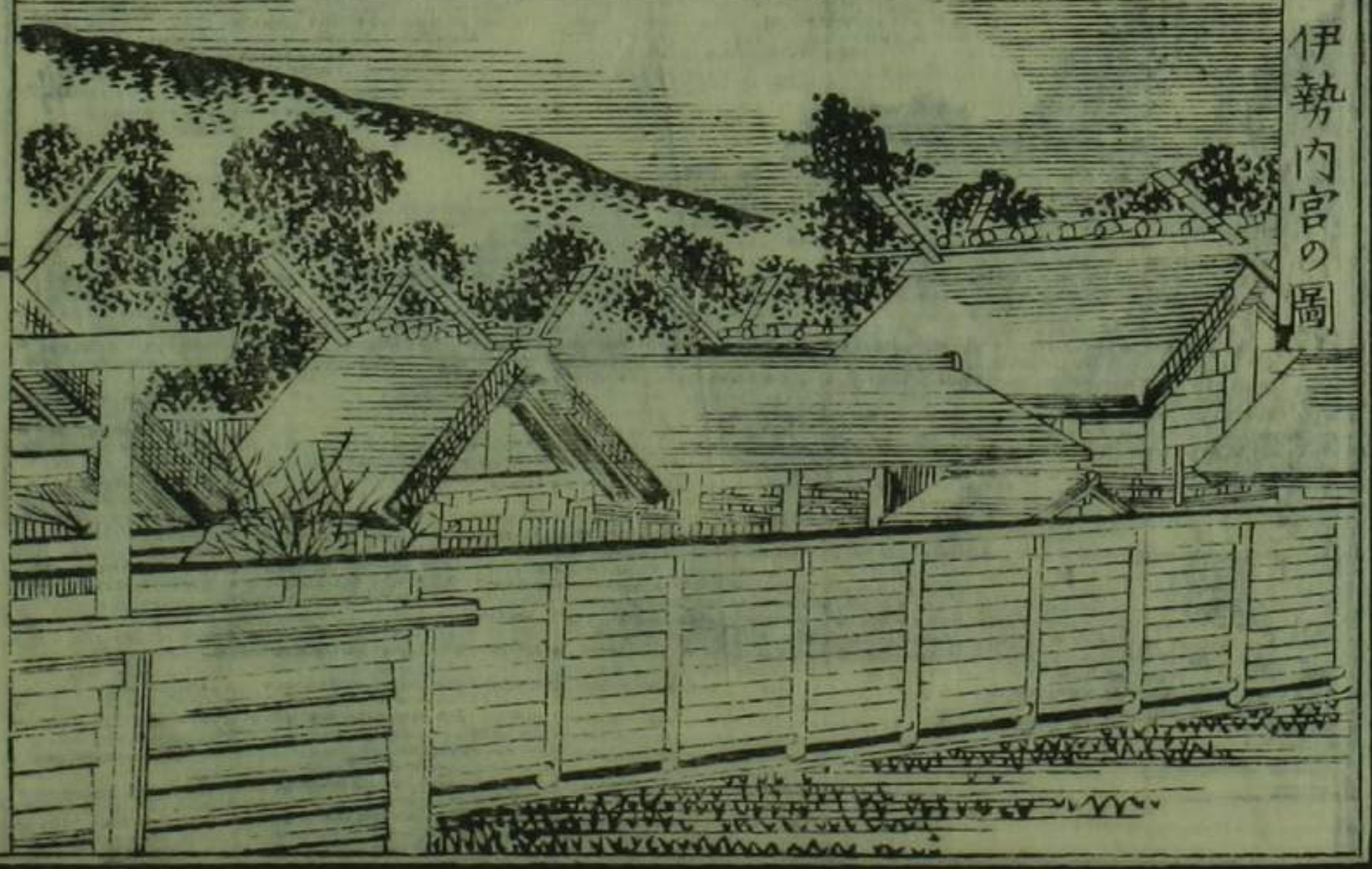
名古屋

其の他の都會

名所

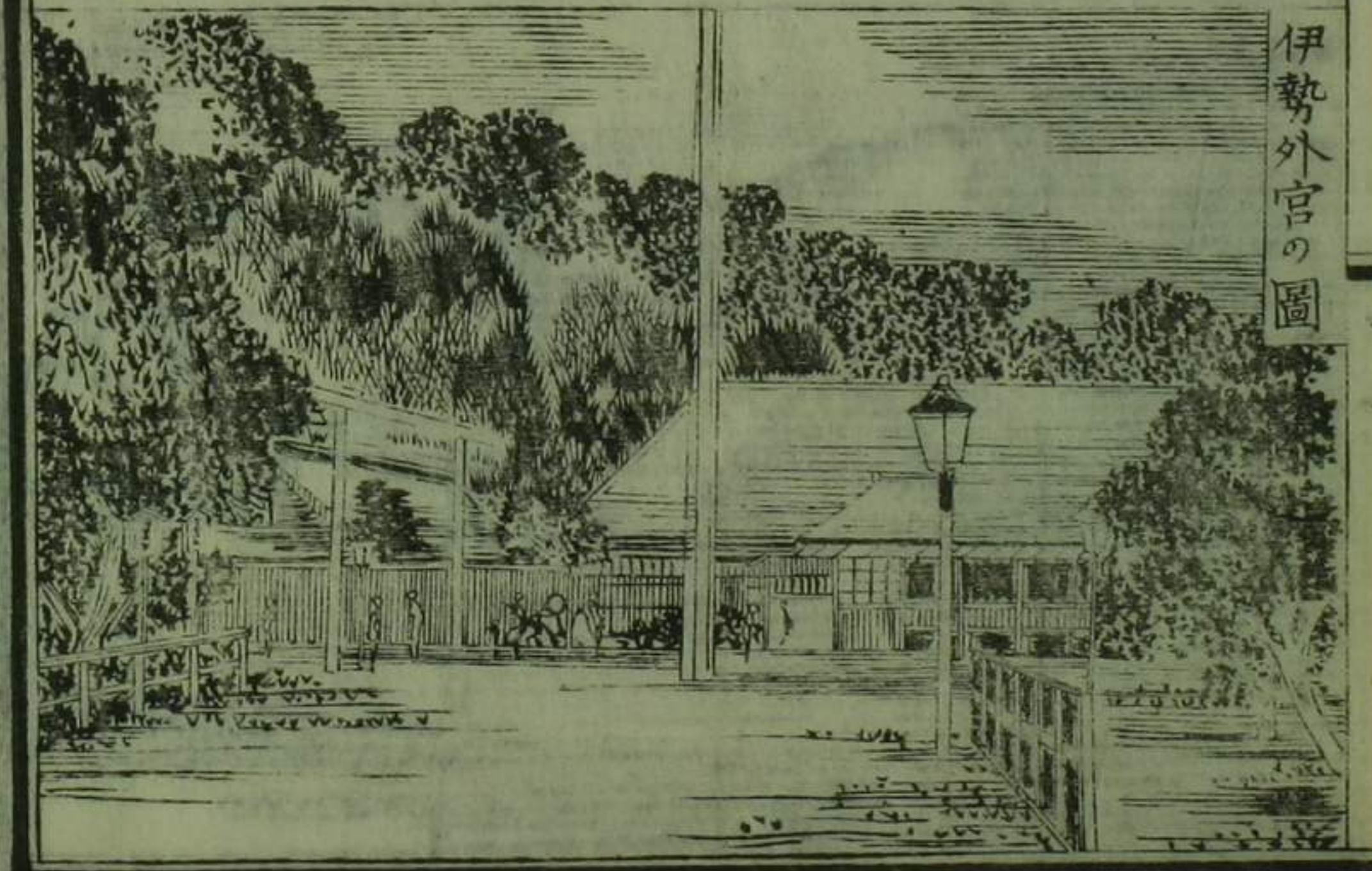
名古屋ハ尾張の熱田不接、西北清洲不續礼リ、市街繁盛人家稠密三府不次ぎる大都會あり、此の他駿河の静岡伊勢の津甲斐の甲府武藏の浦和下總の千葉常陸の水戸も共ニ繁盛ある都會ありて各縣廳の在る所あり、又伊賀の上野伊勢の山田尾張の熱田三河の岡崎豊橋遠江の濱松相摸の小田原安房の館山上總の木更津下總の銚子も皆繁華ありて有名ある都邑あり、本道を東西兩京の通路ニ當リ古より頗有名あり

る地ありて其の名所舊蹟亦畿内ニ亞ぎて多ク、伊勢ニハ内宮外宮の大祠あり五十鈴川の水聖王の時を得て清み尾張の熱田ニ古來有名の神社あり其の桶挾間も今川義元戦死の古戰場とて世ニ著る駿河も富士の麓あれば勝景の地殊



伊勢内宮の圖

多し、浮嶋原、清見瀉、田子の浦、三保の松原、白砂、青松相映、清見寺、久能山、浅間神社、往古より人の稱する勝區なり、相摸の箱根七湯、伊豆の熱海と並べ稱して紳士貴女の來遊するもの多し、熱海より近日離宮造築の擧ありとぞ又相摸

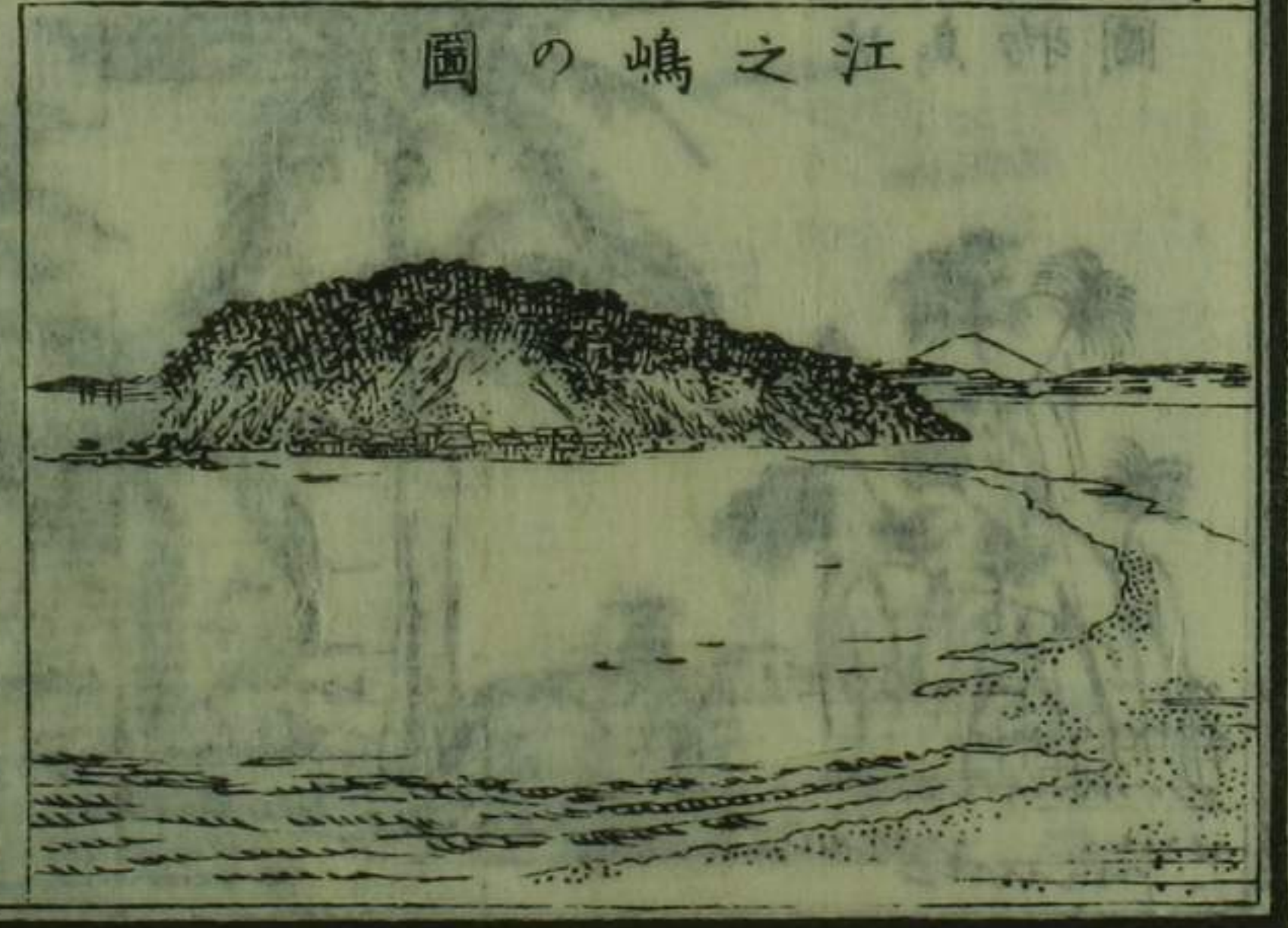


伊勢外宮の圖

氣候

の鎌倉、往時の大都會の跡あれむ之を問ふもの少らば、又金澤と江の嶋を、風光絶佳の所あり、其の他下總成田の不動堂、國府臺の古城址、上總の木更津の海邊殊々名高し、全道の地勢、前々説けるが如く、北々山を負ひ、南々海を受くる、由りて、氣候概中和、屬土、但伊豆七嶋の南に在るもの、及

江之嶋の圖



産物

小笠原群嶋を、炎熱烈しくして、芭蕉、椰樹、鳳梨、露兜樹、無菓花等の植物頗る繁茂せり、全道山海の産極めて多く、製造の品も亦盛あり、陶器は、尾張の瀬戸焼、七寶焼、伊勢の萬古焼、其名高く、絹布は、甲斐の郡内絹、武藏の秩父絹、八王

小笠原島の植物圖



州産

子織、尾張の鳴海絞、三河の木綿、下總の結城縞、紬織、鉦子縮等、世に著る、八丈嶋の八丈帛、殊に無類の絶品あり、伊賀の伊賀焼、伊勢の形紙、茶、津、綾子、尾張の米、大根、名古屋扇、遠江の推苜、濱名納豆、三河の石材、駿河の半紙、茶、竹器、甲斐の葡萄、柿類



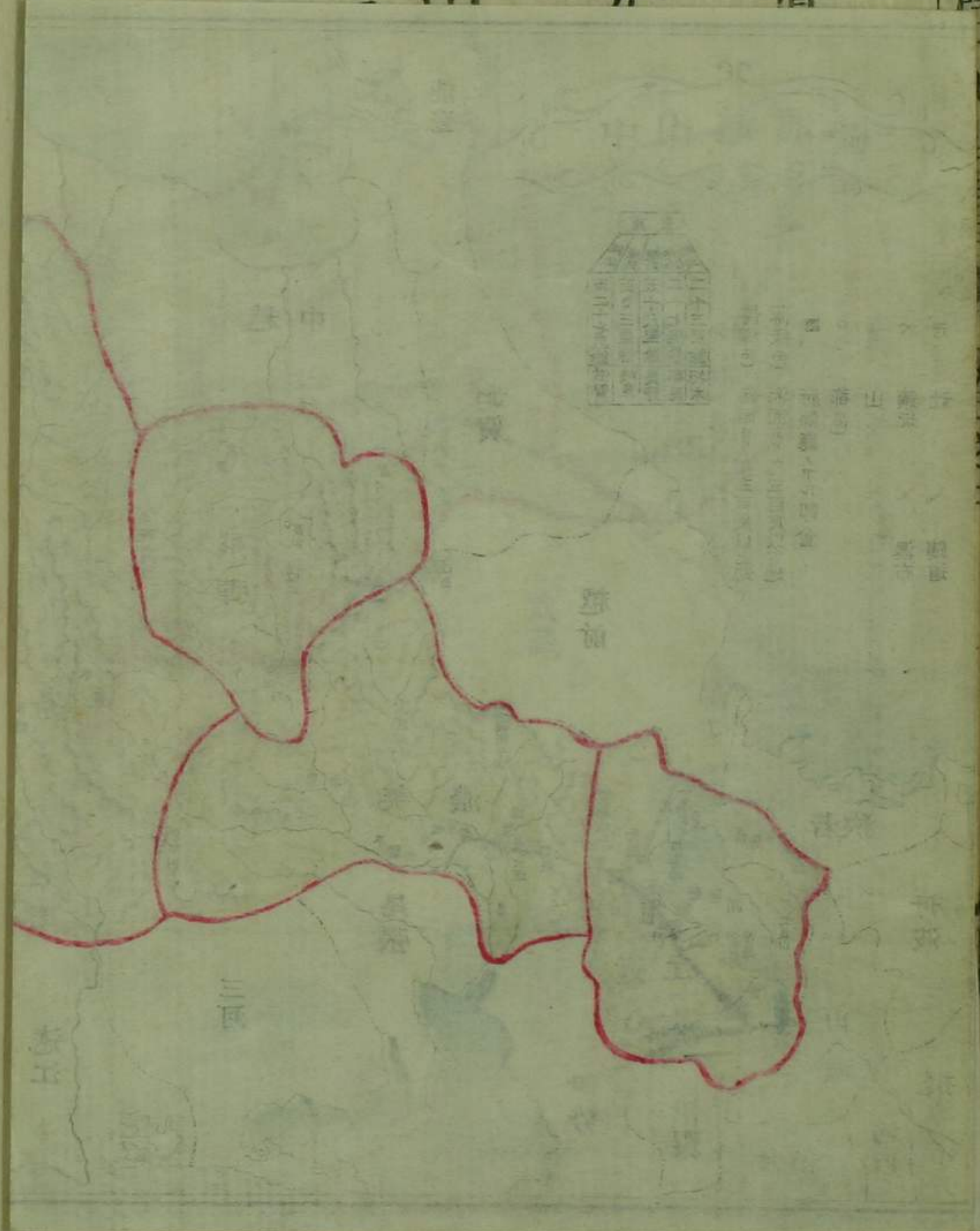
附説

相模の細工物、武藏の川口の鑄物、狹山の茶、淺草海苔、安房の房州砂、上總の茶、下總の味醂、醬油、炭、常陸の紙類、礦屬も、本道中の名産なり、漁業も、伊勢の海、九十九里濱、駿河灣、相模灣、最盛なり、鯛、鰈、鮒、鰯、蝦、鰻の類、著名とん、本道中、小東山道、近江の一部、或加へて、東海道五十三次と稱する宿驛あり、是れ東京より西京小達する大路なり、現今海路、汽船の便、或も昔時



の如く繁榮ならざれども、尚なほ行旅多くして、未衰態、或現をす、小至らざるあり、

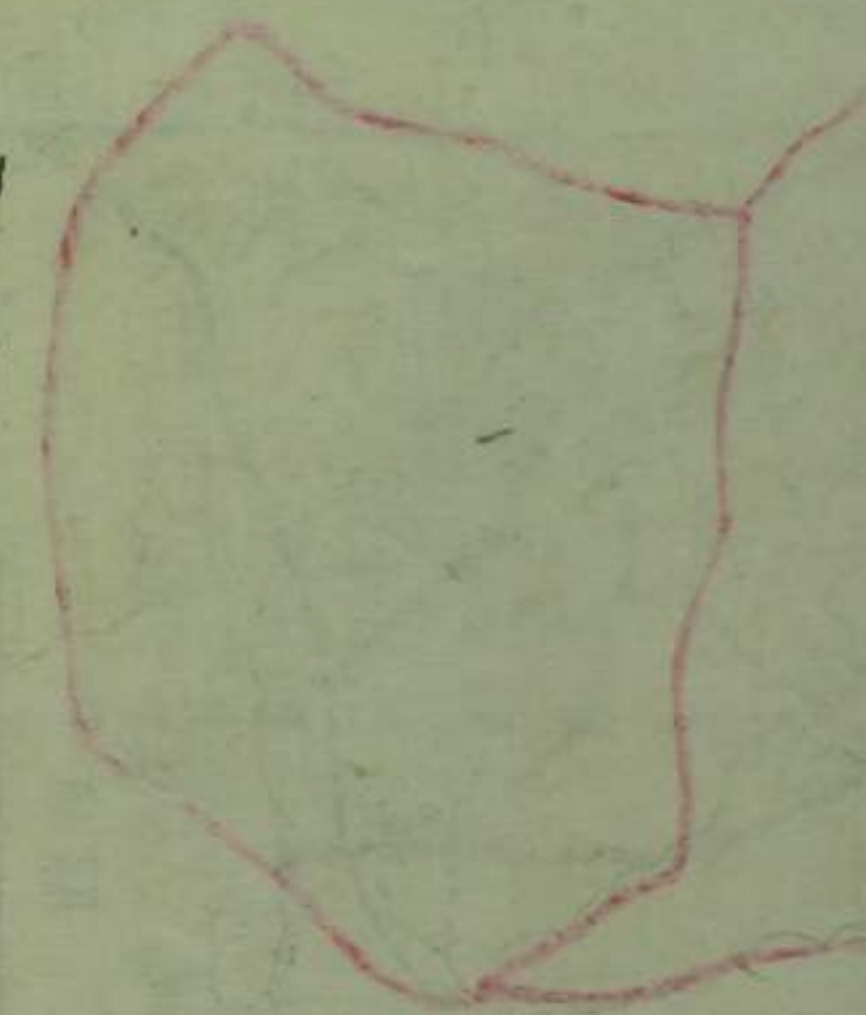
位置 區分 中山 地位



の 野 の り と り

山岳

南の小部と、近江と、越前と、盡く高地あり、其の山を峻峻とて重疊し、其の水は清冷とて急奔せり、但山嶽の間、往々平坦の地ありども、又皆高原あり、山を素より峻とて多し、殆ど枚舉し違へらば、今其の最著れたるものを擧ぐれば、近江に伊吹山、美濃に惠那山、大日岳、飛驒に乘鞍、三方崩嶽あり、位山を其の峰甚高あらざれども、其の名を却て他山よりも高し、信濃を殊に峻とて、御岳、浅間、國師山あり、中みも御岳を、富士山に並



第四 東山道

位置

畿内の東に隣り、東海道の北に亘れる一道あり、之を東山道と名く、

区分

東山道を地勢に従ひて之を二大部に分つとをを得、即ち一を中山道といひ、一を奥羽といふ、

中山道

位置

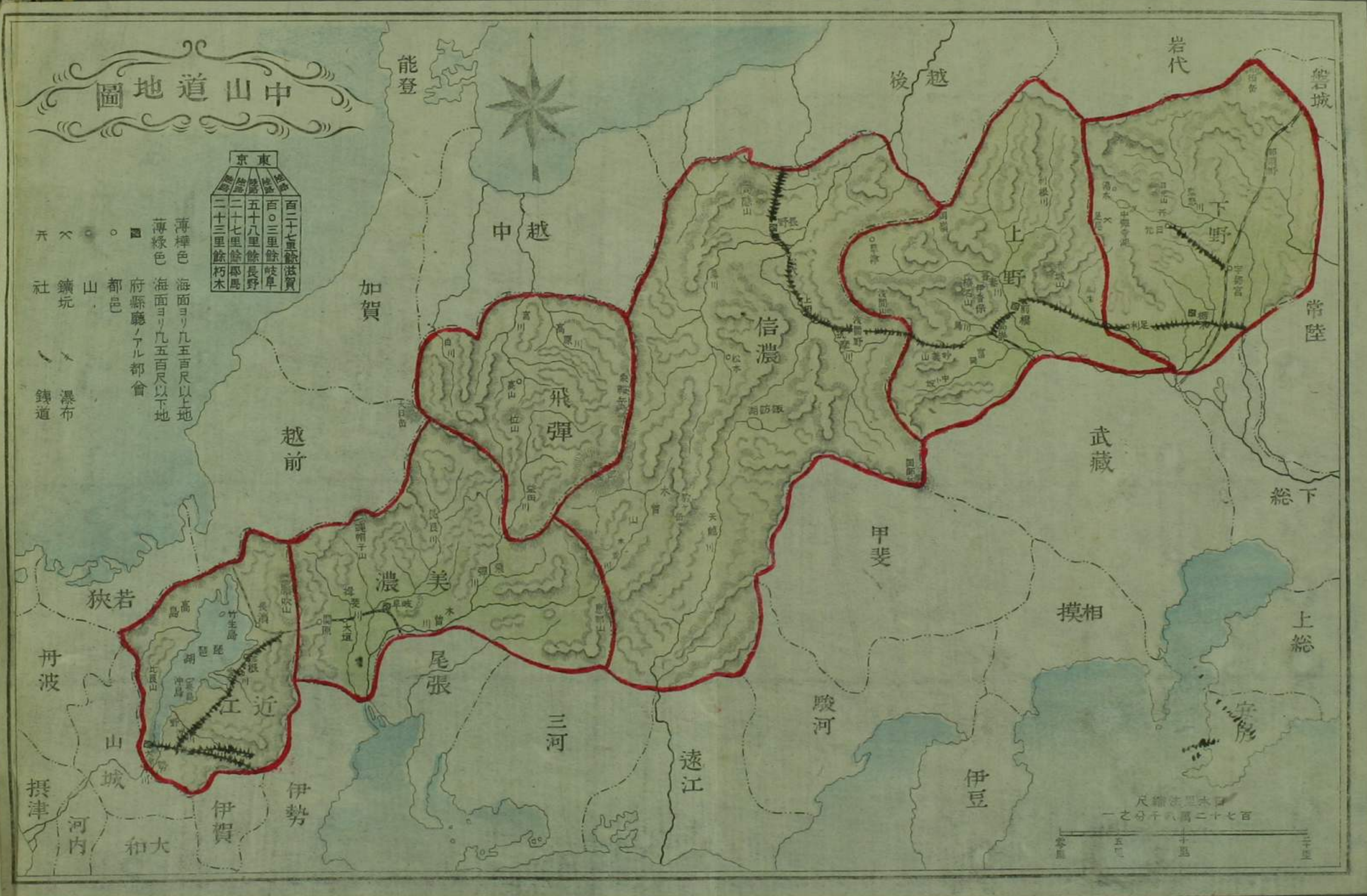
中山道の畿内の東北より、東海道の北に横をりて、海に接せざる部分あり、之に屬する國を西の方より列擧すれば、近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野の六州と云、

地勢

本道を我が國の脊梁に當れば、美濃、上野、下野の

山岳

南の小部と、近江と、越前多し、盡く高地あり、其の山を峻峻として重疊し、其の水は清冷として急奔せり、但山嶽の間、往々平坦の地ありども、又皆高原あり、
山を素より峻きもの多くして、殆ど枚擧げ違はらば、今其の最著れたるものを擧げれば、近江に伊吹山、美濃に惠那山、大日岳、飛驒に乘鞍、三方崩嶽あり、位山を其の峰甚高あらざれども、其の名を却て他山よりも高く、信濃を殊に峻きくして、御岳、淺間、國師山あり、中にも御岳を、富士山に並



第四 東山道

位置

畿内の東に隣り、東海道の北に亘れる一道あり、之を東山道と名く、

区分

東山道を地勢に従ひて之を二大部に分つとを得、即ち一を中山道といひ、一を奥羽といふ、

中山道

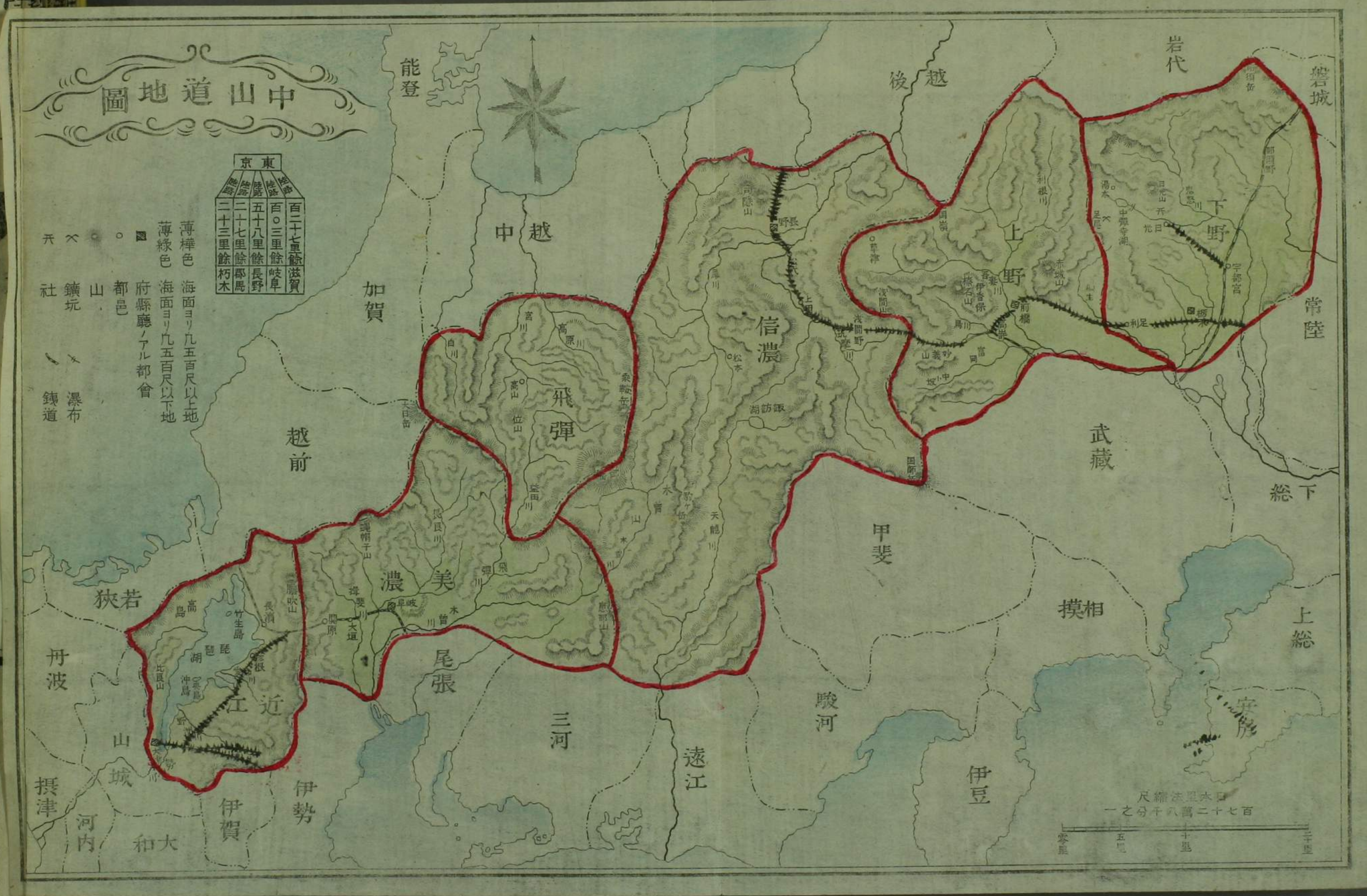
位置

中山道の畿内の東北より、東海道の北に横をりて、海に接せざる部分あり、之に屬する國を西の方より列擧すれば、近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野の六州と云、

位置

畿内の東に隣り、東海道の北に亘れる一道あり、之を東山道と名く、

第四 東山道



ぶべき高山あり峰の積
雪夏尚寒し、淺間を著名
の火山あり、山頂常に硫
烟吐く、又上野あり、赤
城榛名妙儀の三岳鼎立
して、妙儀の奇峰殊に珍
し、下野の那須岳も火山
の間高く、日光の諸山を
世の稱する所あり、

江河

江河も近江も、勢田川野

信州淺間山の圖

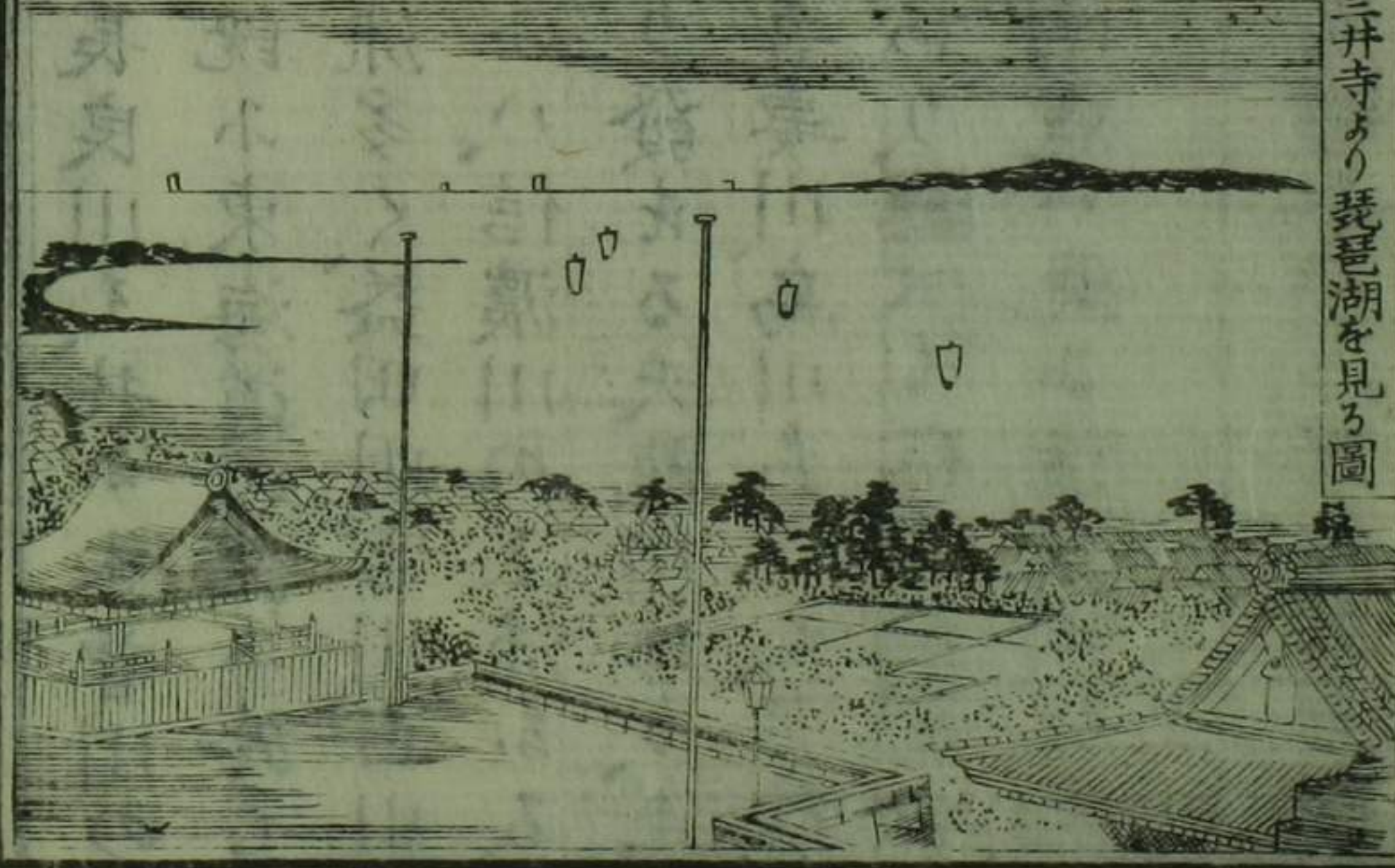


洲川あり、美濃の揖斐川、長良川も、共木曾川の
支流なり、此の木曾川を、既東海道の誌に於て
説きたり、飛驒ハ殊に急流多く、益田川、宮川、白川
も、皆舟楫の利少し、信濃あり、信濃川の上流ある、
犀川、筑摩川又諏訪湖より發する天龍川あり、上
野あり、利根川の支流の吾妻川、烏川ありて、下野
あり、其の上流の鬼奴川あり、總べて信濃飛驒の
山谷より流出づる水は、南或ハ北に注ぎて、大河
の源とあるもの多し、

湖沼

琵琶湖ハ、近江に在りて、周廻七十三里餘、我が國

第一の大湖あり、山嶺四面を圍繞して、岬灣出入す、中に竹生嶋、沖嶋等、數多の嶋嶼ありて、波光、山影と相映下、風色頗秀美なり、現今も汽船の往來絶えず、行旅、貨物を運輸せり、信濃の諏訪湖も、嚴冬の間堅氷が結びて、湖面鏡の如く、人馬其上



三井寺より琵琶湖を見る圖

都會

大津

其の他の都會

を渡る、又一奇と稱すべし、又下野の中禪寺湖も、日光山中の名湖ありて、風景極めて佳あり、近江の大津も、琵琶湖の西南岸にありて、滋賀縣廳のある所あり、東山道、東海道、北陸道より、西京へ入るもの、此の地を經過せざるをなく、且湖も汽船の便あり、陸も汽車の利あるを以て、市街頗繁華なり、美濃の岐阜、信濃の長野、上野の前橋、下野の宇都宮も、共々有名の都會ありて、各縣廳のある所あり、殊も前橋、宇都宮、東京と汽車の便が開き、

名區
勝地

此の他近江の彦根長濱美濃の大垣飛驒の高山、
信濃の松本上野の高崎桐生富岡下野の椽木等
を又繁盛なる都邑かり、此の中美濃の大垣、近
江の長濱とい、瀛車の往復あり、此の鐵道の一線
更北に延ひて、北陸道の越前敦賀不達す、
琵琶湖上の風景ハ、前ハ説きたる如く、到る處秀
美からざるハなけれども、殊ハ三井寺、唐崎、比良、
粟津、石山、瀬田、堅田、矢走の名所を、近江八景とて、
古來人の稱える處なり、美濃の養老の瀑を、此の
國の公園として、遊人常ハ群集を、又其の稻葉山

を、織田氏の古城趾あり、飛驒ハ昔籠の渡と唱
へ、難所あり、今ハ名のみ遺れり、信濃ハ木
曾の棧道とて、岨路ハ架きたる危棧あり、今
を改造して危きことあり、此ハ彼も、昭代の恩
澤あり、悦び、あらむや、又姨捨山の田毎の月、川
中嶋の古戰場を、此の國ハ名高き名所あれども、
善光寺の賽者多きハ及ぶ、信濃と上野との國
界ハ碓氷峠といふ山あり、日本武尊の古跡あり、
下野ハ、日光山ハ徳川家康の廟あり、殿堂の結
構壯麗なる天下に類あり、此の山中ハ中禪寺

位置を磐城を東海道に隣り陸前陸中と相續き



地勢

て、其の北に連り、岩代を、東山道に連りて、磐城の西に在り、羽前、羽後、其の北に續く、又陸奥を、本鳴の東北極に在る國ありて、陸中、羽後の北に横をれり、中山道より來る山脈、此の地の中央を通過し、其の支脈縦横に延出して、諸大川の分界を爲す、故に諸國大抵高峻ありて、山嶽極めて多し、然れども諸大川の近傍、及沿岸の地を、廣濶なる低地、又少あらば、殊に陸前の海邊は、頗る肥沃なり、海岸を東海道に如く、岬灣の出入甚多あらば

小學地理書

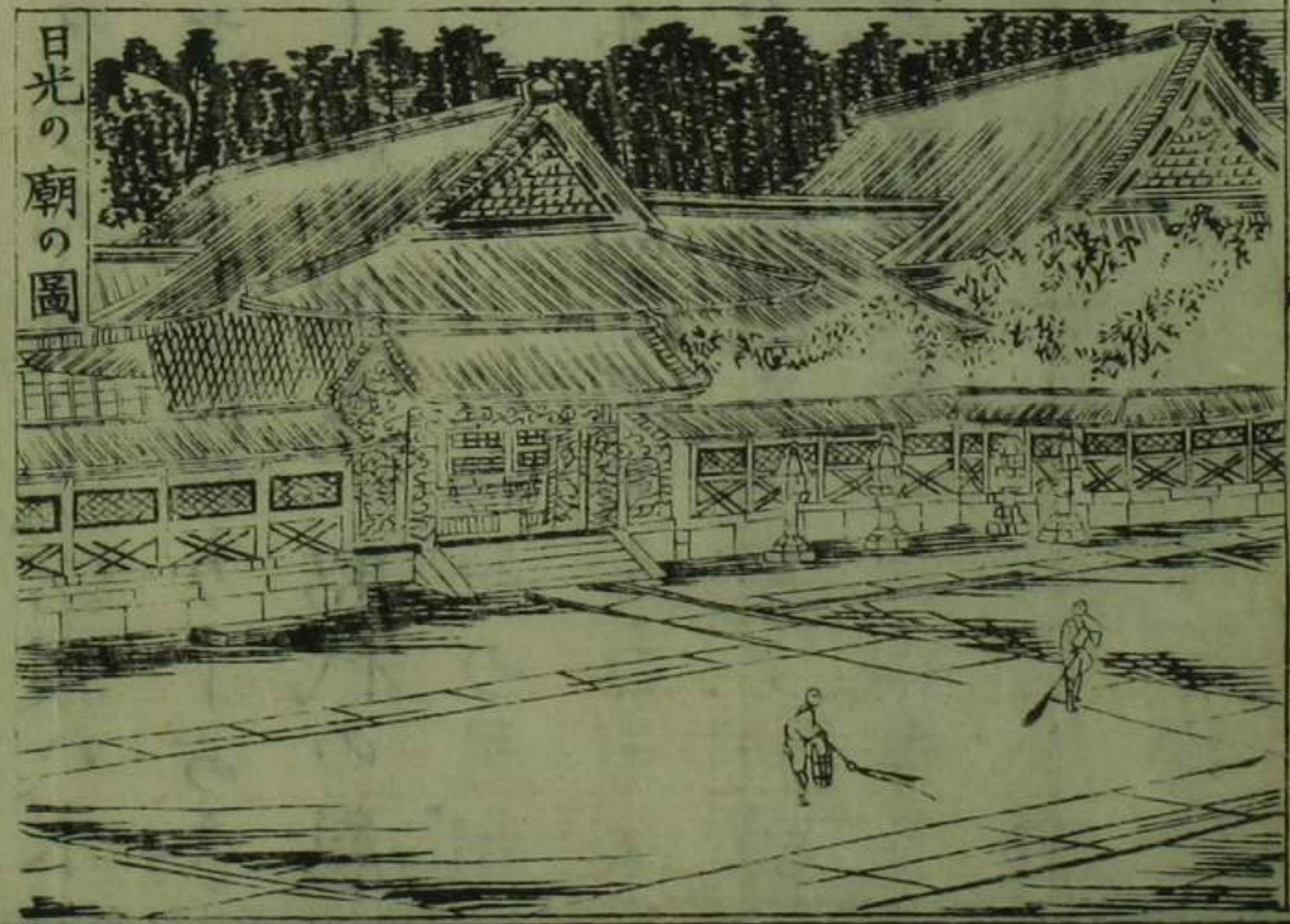
三十三



奥羽

位置

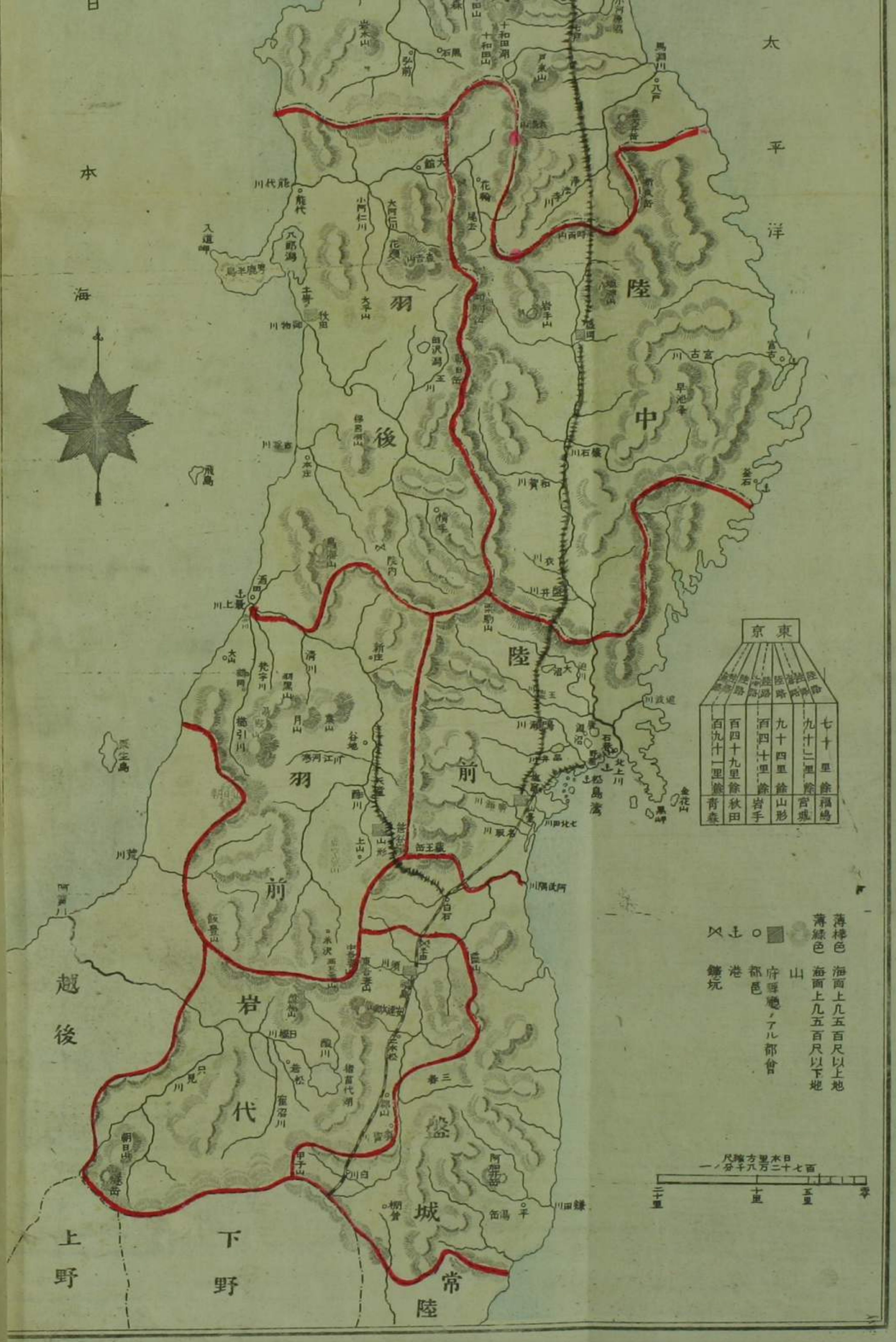
の湖華嚴の瀑裏見の瀑等ありて風景殊に絶佳なり、上野の伊香保、草津の温泉は良質なりて能く病を治すといふ、奥羽を中山道の東北に連りて、南東北の三面海に臨みたる地方をいふ、中七州列れり、其の位置を磐城を東海道に隣り、陸前、陸中と相續き



日光の廟の圖

地勢

て、其の北に連り、岩代を、東山道に連りて、磐城の西に在り、羽前、羽後に、其の北に續く、又陸奥を、本鳴の東北極に在る國ありて、陸中、羽後の北に横をれり、中山道より來る山脈、此の地の中央を通過し、其の支脈縦横に延出して、諸大川の分界を爲す、故に諸國大抵高峻にして、山嶽極めて多し、然れども諸大川の近傍、及沿岸の地を、廣濶なる低地、又少あらば、殊に陸前の海邊は、頗る肥沃なり、海岸を東海道に如く、岬灣の出入甚多あらば



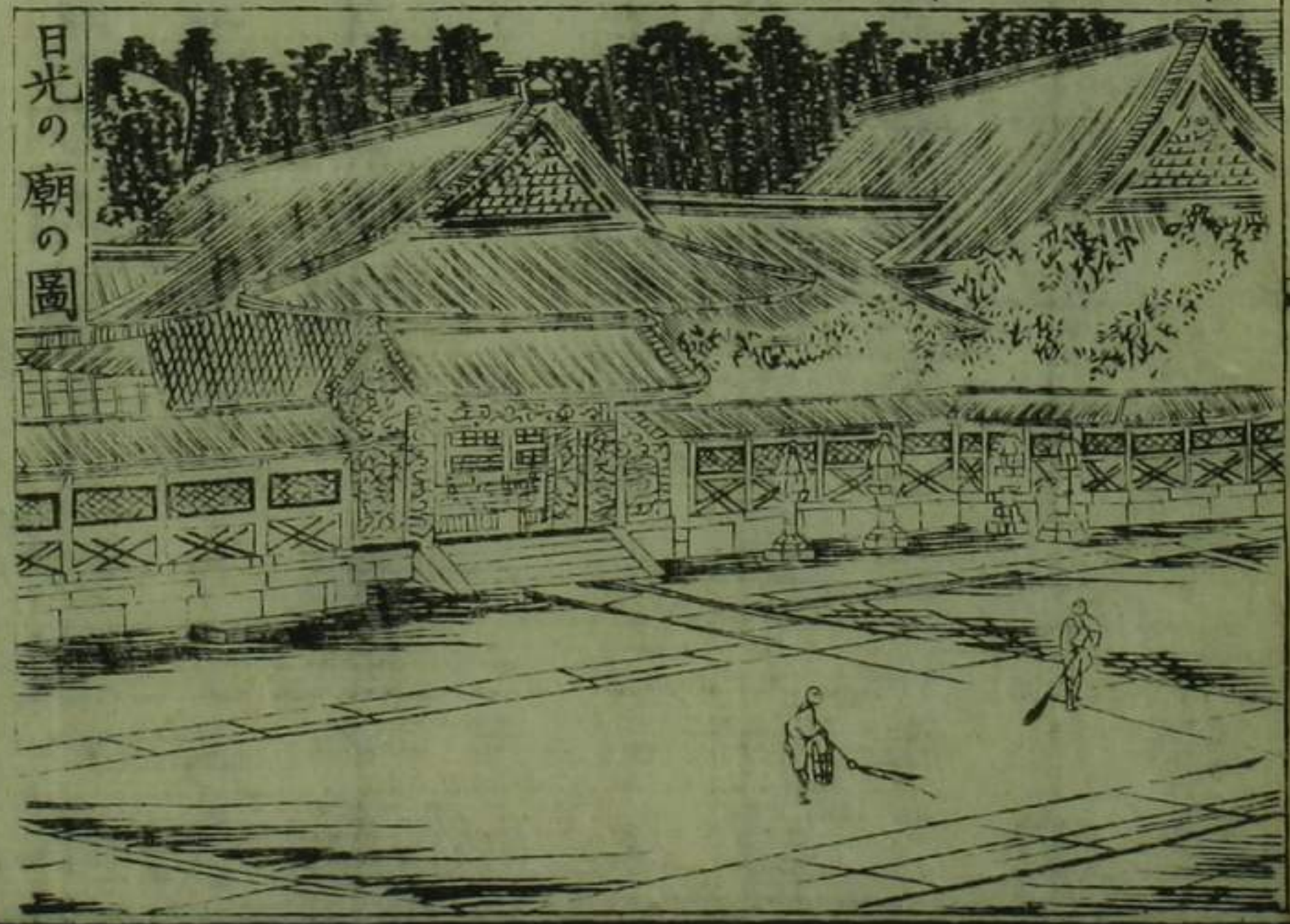
七十里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
九十二里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
九十四里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
九十四里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
百四十九里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘
百九十一里餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘	餘

薄緑色 海面上凡五百尺以上地
 薄緑色 海面上凡五百尺以下地
 山 府廳廳ノル都會
 都邑
 鑛坑
 港

尺法方里水日
 一ノ分千九万二十七百
 十 五 十 五

奥羽
位置

の湖華嚴の瀑裏見の瀑
 等ありて、風景殊に絶佳
 なり、上野の伊香保草津
 の温泉は良質なりて能
 く病疾治癒といふ、
 奥羽を中山道の東北
 に連りて、南東北の三面
 海に臨みたる地方をい
 ふ、中を七州列れり、其の
 位置を磐城を東海道に隣り、陸前陸中と相續き



日光の廟の圖

地勢

て、其の北に連り、岩代を東山道に連りて、磐城の
 西に在り、羽前、羽後、其の北に續く、又陸奥を本
 鳴の東北極に在る國ありて、陸中、羽後の北に横
 をれり、中山道より來る山脈、此の地の中央を通過し、其
 の支脈從黃河延出、者大川の分界を爲す、故

奥羽地圖



奥羽
位置

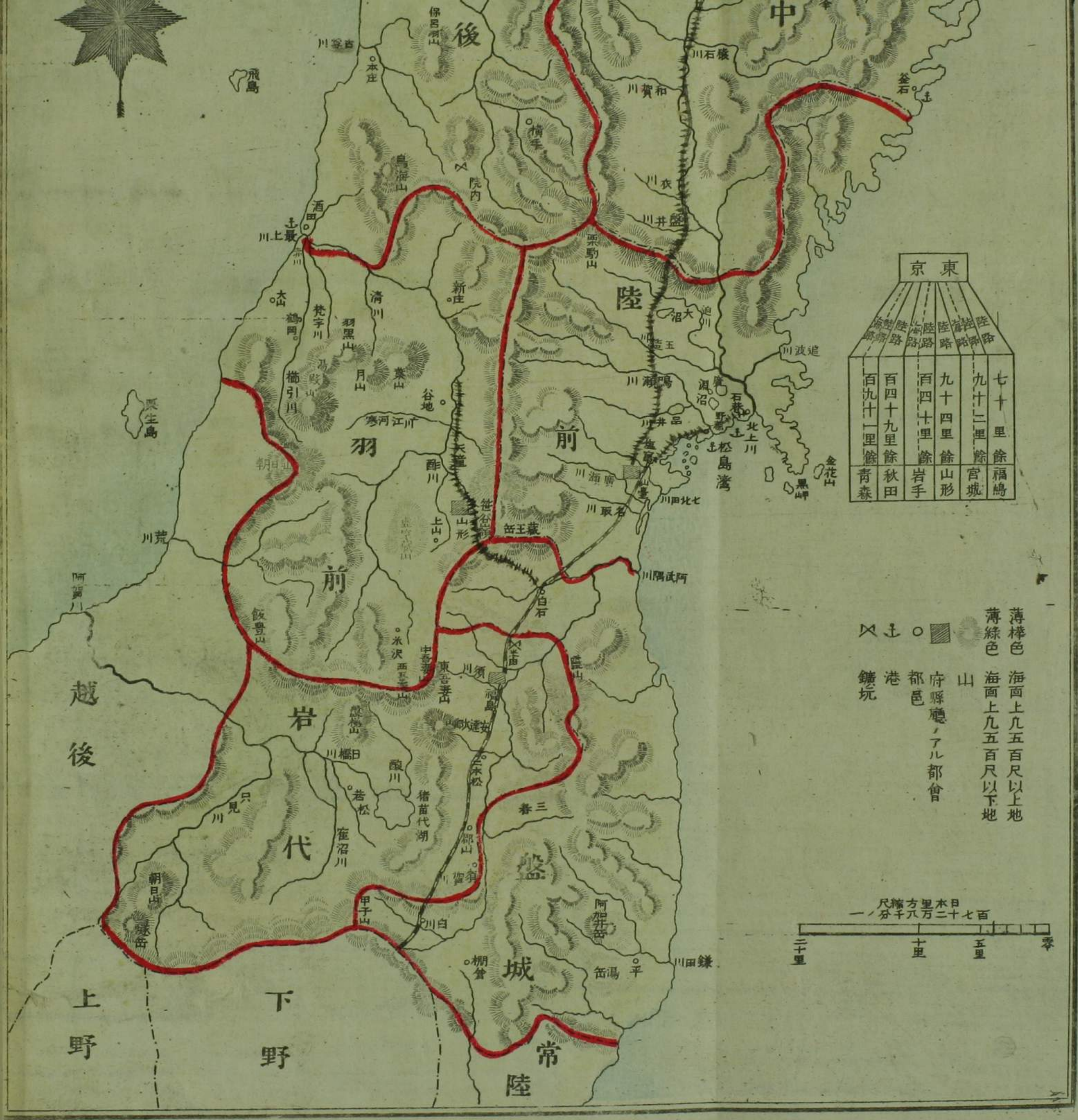
の湖華嚴の瀑、裏見の瀑等ありて、風景殊に絶佳なり、上野の伊香保、草津の温泉、良質にして能く病を治すといふ、奥羽を中山道の東北に連りて、南東北の三面海に臨みたる地方をいふ、中七州列れり、其の位置を磐城を、東海道に隣り、陸前



地勢

て、其の北に連り、岩代を、東山道に西に在り、羽前、羽後、其の北に嶺鳴の東北極に在る國ありて、陸中をれり、中山道より來る山脈、此の地の中の支脈、縦横に延出して、諸大川の

の湖華嚴の瀑裏見の瀑
 等ありて、風景殊小絶佳
 あり、上野の伊香保草津
 の温泉ハ良質ミテ能
 く病ヲ治スといふ、



奥羽地圖



日

本

海



の湖
等の
あり
の温
く病

山岳

山を磐城小関伽井山、靈山、八溝山、岩代小安達太郎山、磐梯山、燧岳あり、吾妻山を東西中の三峰並び、聳ゆ、陸前小藏王岳、栗駒山、篠谷嶺、陸中に朝日岳、岩手山、早池峰あり、共小峻嶮なり、陸奥の中央に八甲田山、又其の西小岩木山あり、恐山の著名の火山ありて、國の東北小聳えたり、又羽前小を朝日湯殿月山、羽黒の峰高く、羽後小を、鳥海森吉、大平の頂嶮し、川を前小いひし如く、山脈小劃られて、各流路成異小は、先磐城小は鎌田川、阿武隈川あり、阿武隈

江河

湖沼

を、岩代の東部流れて再び磐城小入り、頗巨流あり、陸中より陸前小亘れる北上川を、殊小著名の大河ありて、舟楫の利あるもの、奥羽中に唯此の一川あるのみなり、陸前の中央小、又鳴瀬川あり、此等の諸水を、皆太平洋小注ぐ、又陸奥小岩木川、馬淵川あり、羽前の最上川を、北上川と並べ稱へ、羽後の御物川之小亞ぐ、其の他古雪川、能代川等、皆此の國小著名なり、此の兩國の諸水の、馬淵川を除きて外、皆日本海小入る、湖沼、岩代の猪苗代湖、羽後の八郎瀉、尤大あり、

港灣及岬

其の他陸前の品井沼、廣淵沼、大沼、陸奥の小河原沼、十和田湖、十三瀉等名高し、岬の著名ある、陸奥の龍飛岬、大間岬、尻矢岬あり、皆本嶋極北の長岬あり、大間と龍飛と相對して一灣を擁せ、其の大間の方、野邊知灣といひ、龍飛の方、青森灣といふ、此の灣、臨みて青森港あり、要津なり、陸前の松嶋灣も、世に名高き勝地にして、黒崎長く之を抱き、此の灣、石の巻港、野蒜港あり、又羽後に入道岬あり、八郎瀉の前不出づ、最上河口の阪田港も、羽前の名港なり、

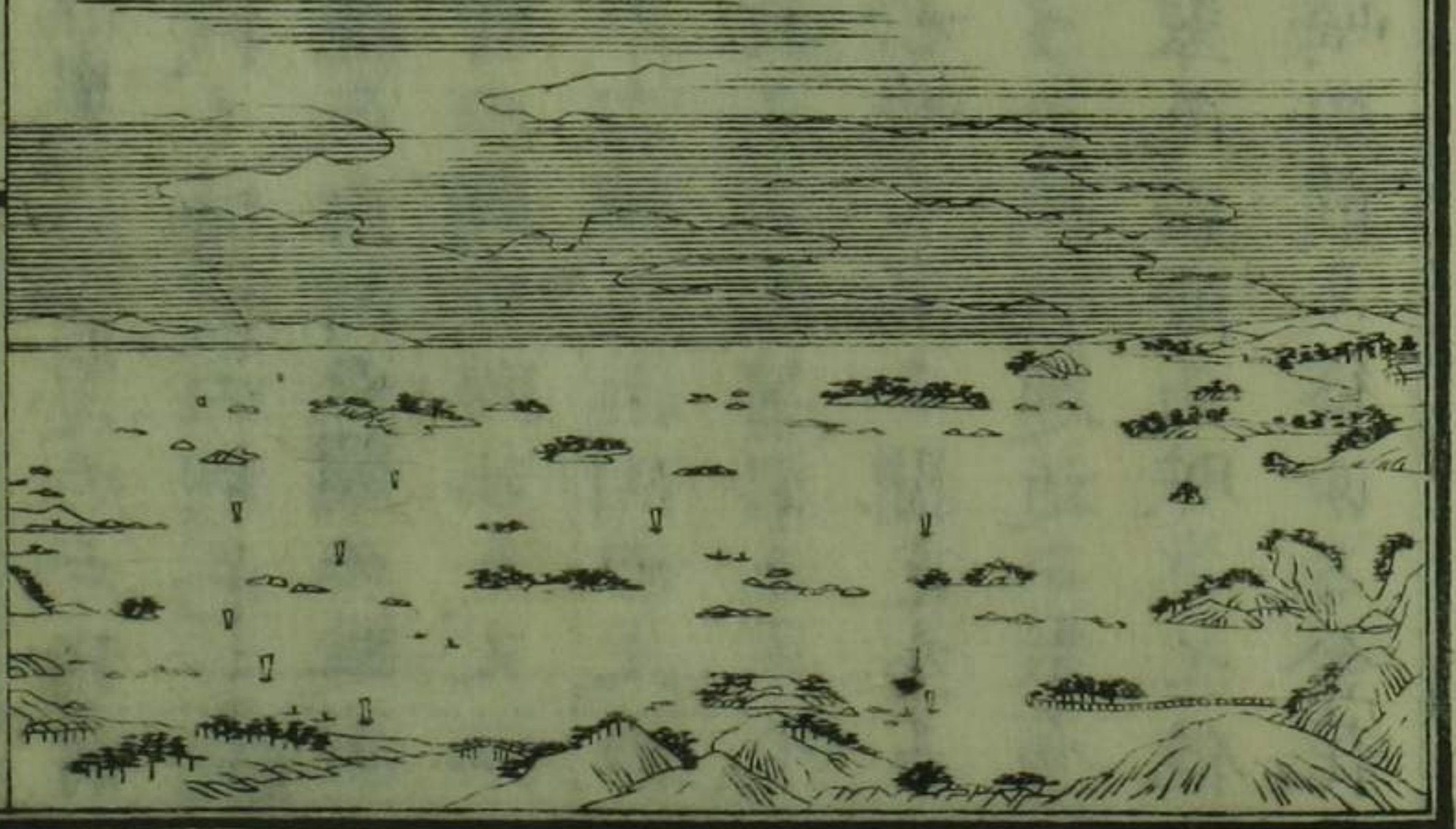
都會

仙臺

其の他の都會

然れども此の地方を、概して良港ふ乏し、陸前の仙臺を、奥羽第一の都會にして、宮城縣廳此に在り、岩代の福嶋、陸中の盛岡、陸奥の青森、羽前の山形、羽後の秋田も、各縣廳の在る處にして、樞要の都會なり、

陸前松嶋の圖



名所

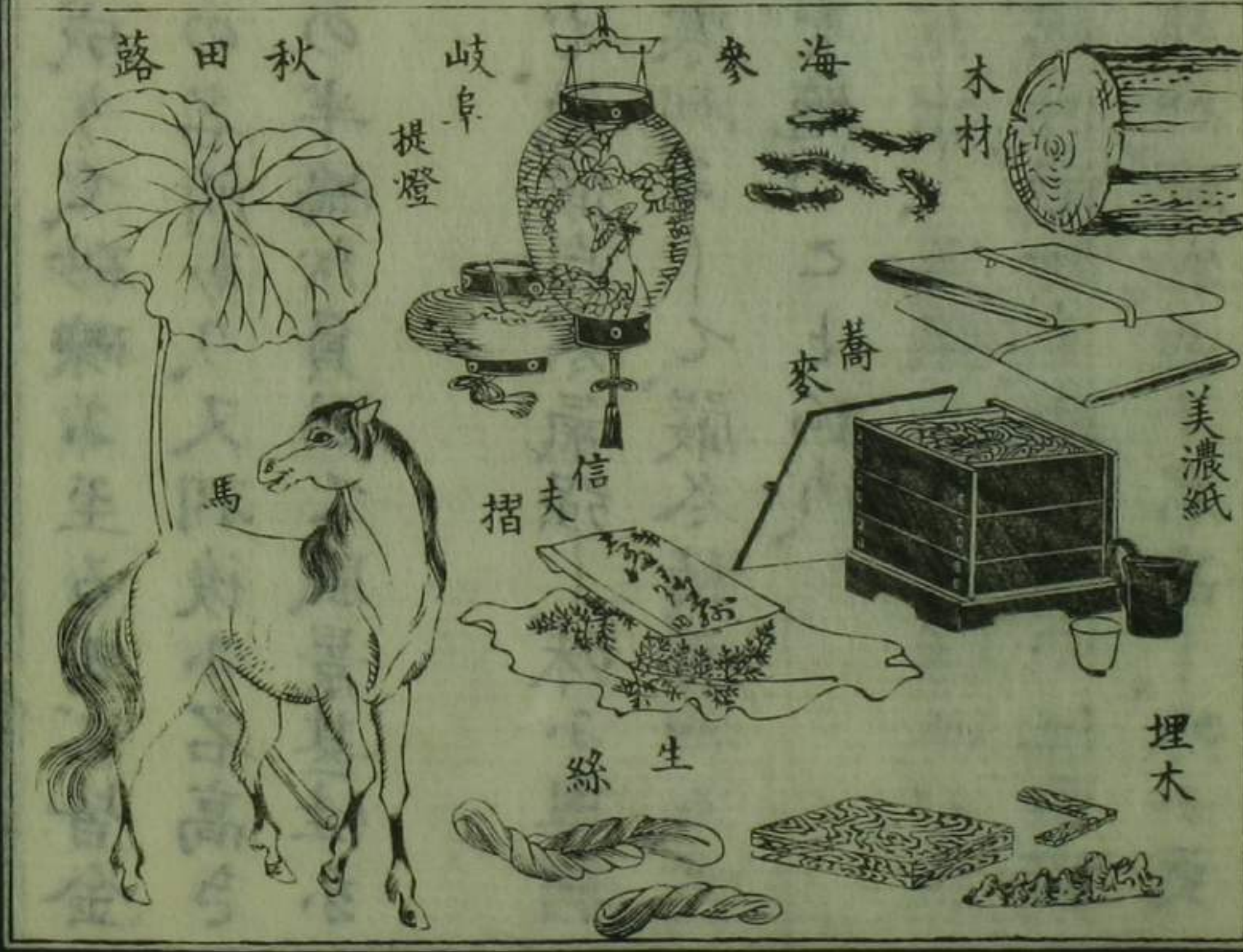
其の他、岩代の若松、二本松、陸奥の弘前、八の戸羽前
の米澤、鶴岡、羽後の酒田、能代を繁盛の都邑あり、
中山道より磐城へ入る古道も、白河の關の趾あり、
常陸と磐城の界も名古屋の關の跡あり、又仙
臺の近傍の宮城野、多賀城の古碑、北上川の上の
衣川、高館、平原の古城趾も、共へ古來著名ありて、
歌人詞客の賞むる所たり、松嶋を名へ聞えたる
我が國三景の一ありて、數多の嶋嶼遠近へ散布
し、此の嶋嶼悉く松を生じ、翠色、白波を映して佳
景筆詞を盡し難し、其の黒崎の前へ聳ゆる金花

氣候

山を、全山岩石より成りて、砂礫へ至るまで皆金
色を帯びて、亦陸中の名所あり、又羽後へ名高き
八郎瀉を、西へ男鹿の半嶋を負ひて、風景甚佳か
り、
全道大抵山國を、氣候自寒氣強し、殊へ奥羽
を、中山道より一層寒冽ありて、嚴冬積雪四五尺
餘へ及び、街道人跡を絶つことあり、
近江を、茶、晒布、縮緬を出し、美濃へ、美濃紙の良
品あり、又岐阜提燈、鑛物、織物を産む、其の他飛驒
の一位細工、信濃の生絲、織物、並へ名高く、殊へ更

産物

科の蕎麥を世に賞せらる上野下野を蠶桑の地にして多く精良の生絲織物を出せ又鑛物も少からず奥羽も牧畜の行る地方にして良馬を各地の名産なり又鑛物穀類に富み諸



附説

國殆之を産せざる處あり其の他岩代の生絲信夫摺陸前の海參埋木仙臺平陸中の生絲縮緬陸奥の木材魚類を皆有名の國産たり羽前を米澤庄内の織物最上の紅花第一にして羽後の材木塗物を精良の譽高く其の秋田落の名を更科の蕎麥譲らば前不言へる如く奥羽の地は長江大岳廣野多けれども人口の寡く土地未闢者ざるは眞不惜む蚤くさきど玉澤の渥き到らぬ隈もあらざれば近來文化日進の勢あり他日の繁華想ふ

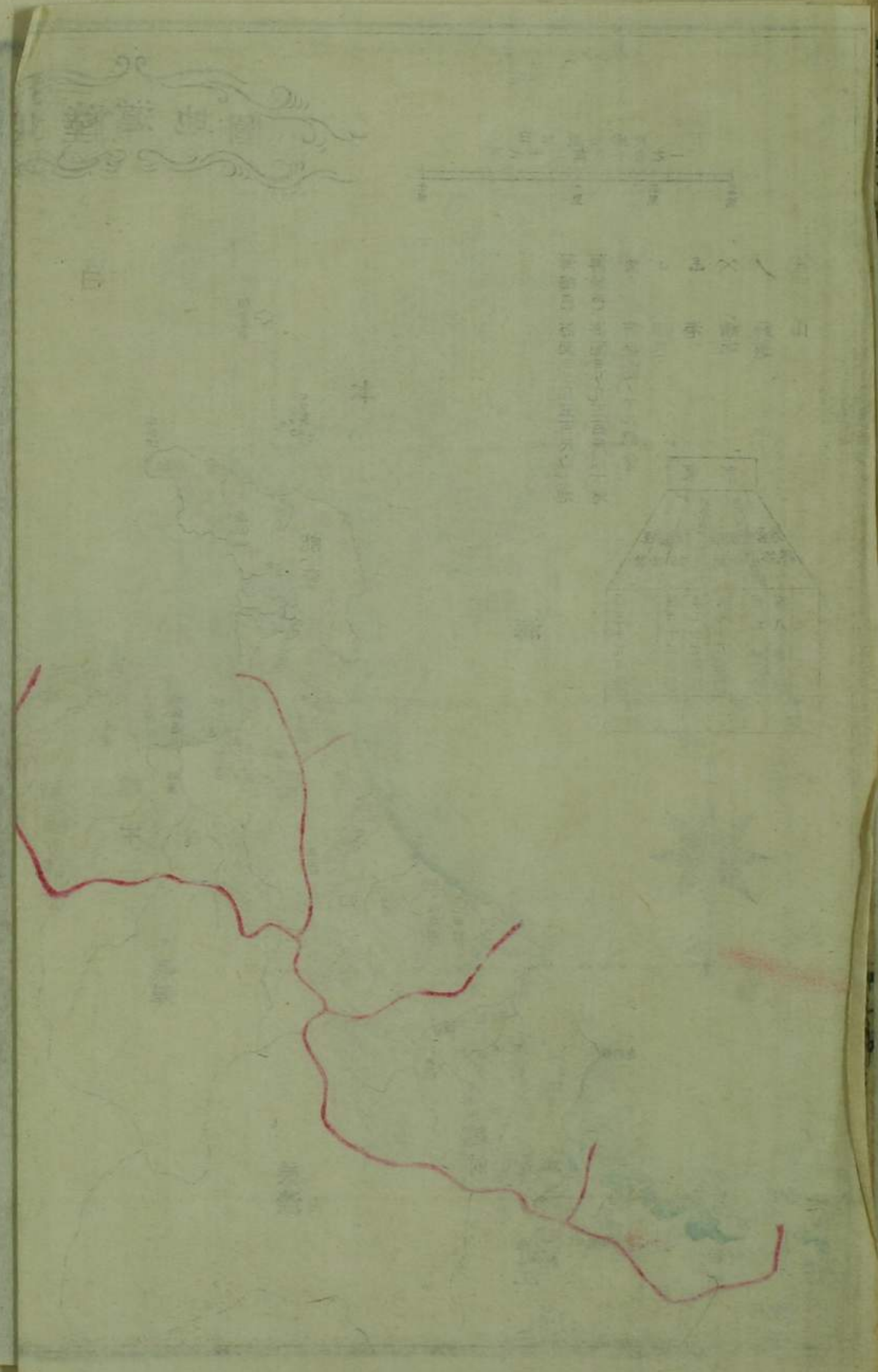
べし、
碓氷嶺以東なる上野、下野の二國と、東海道の箱
根山以東なる相模、武藏、上總、下總、常陸の六國
を併せて、東海道を之を關東、又坂東と稱し、
本道をしてハ之を山東と稱す。

北陸道

位置

第五 北陸道

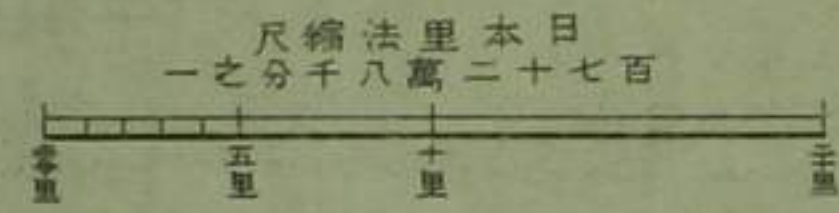
東山道の西北、日本海の岸に連れる諸國を北陸道と稱す、西の方より序を追ひて、其の國を列擧すれど、其の位置を知るに便かるべし、即ち若狹、越前、加賀、越中、越後、次第に東北に延び、能登を、加賀の東、越中の西より半嶋状を成して、日本海に突出し、佐渡に、越後の西北に當れる日本海中の一嶋なり、此等の地方は、通じて北國とも稱ふるあり、全道中、越後が最大國なり、其の面積は、殆ど他の六國を合せたるものも等し。



小學地理書 卷之二

三十八

北陸道地圖



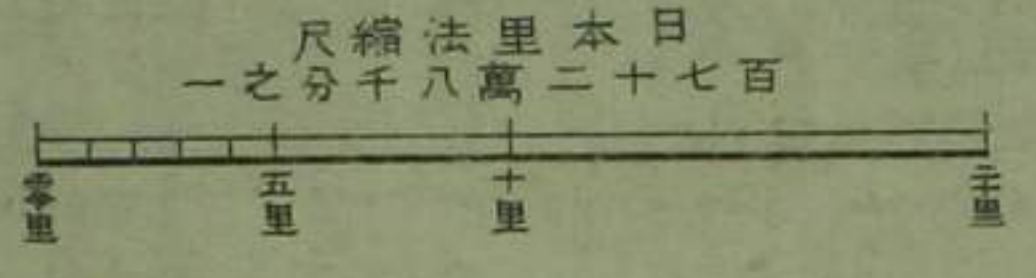
薄樺色 海面ヨリ九五百尺以上地
薄緑色 海面ヨリ九五百尺以下地

府縣廳ノアル都會
郡邑
港
鑛坑
鐘道
山

京	東
山	道
百八里餘	百九里餘
百七十八里餘	百七十二里餘
百六十二里餘	百三十九里餘
石川	福井
富山	新瀉



北陸道地圖



薄樺色 海面ヨリ九五百尺以上地
 薄綠色 海面ヨリ九五百尺以下地
 府縣廳ノアル都會
 都邑
 港
 鑛坑
 鑛道
 山

京 東			
海路	陸路	陸路	陸路
百八里餘	百九里餘	百二十七里餘	百六十二里餘
新潟	富山	石川	福井



地勢

全道の東南、即ち東山道の境、ハ一帯の山脈連亘、其の支脈分れて、各國の境域をなす、且其の内部ハ蔓延す、其の間を貫流する大河も、概東山道ハ發源して、日本海ハ注ぐ、此等の川河の兩傍ハ平野闊多し、地味豊饒あり、殊ハ越後地方ハ、渺茫たる沃野遠く連りて、凡、四十里の間、山岳の起隆、或見ざる處あり、而して其の海岸も六十餘里の間、殆一直線にして、著しき屈曲なく、唯若狹、越前、能登の海岸ハ、纔の岬灣あるのみなり、故ハ良港ハ乏し、

山岳

全道中、高山大岳、極めて多く、殊ハ著名なるものを、加賀の白山、越中の立山なり、此の兩山ハ、駿河の富士と並べ稱して、世ハ知らざるものなく、中ハ、白山ハ、高、八千九百尺、白雪常に峯ヲ埋みて消えむ、これ其の名ヲ得たる所以あり、立山ハ、白山より殆三千尺低し、然れども山中處々ハ火坑多く、硫煙を噴出し、地獄谷と稱ふる處あり、越後ハ御神樂嶽、朝日岳、飯豊山、及妙高、燒山の火山あり、越前の荒嶋山、越智岳、白樺山、能登の寶達山、石動山、高洲山、若狹の三十三間山を、何れも峻嶮ある

江河

山岳

此のあり、又加賀の釋迦嶽、大日、醫王、越中おえ、劔嶽、礪波、鷲羽の諸山あり、佐渡の金北山も、金銀を多く出せ、以て古より名高し、本道の江河も、越後、信濃、阿賀川あり、信濃川の源、或信濃に發して、凡て一百里の間を流る、本嶋



佐渡金山の圖

山岳

湖沼

第一の大河なれども、信越の國境に激流多き故、以て、運漕の便も、利根、北上の二川に及ぶ、岩代より來る阿賀川も、又本道の大河あり、越中おえ、神通川、射水川、常願寺川、黒部川あり、神通川は、下流に船橋の設ありて、名高し、越前の安居川は、九頭竜、足羽、日野川の合流せるものなり、河幅甚廣し、而して其の九頭竜川も、名高き船橋あり、上は、掲ぎたる江河も、北陸七大河の稱あり、若狭にも、北川、南川、加賀の、犀川、手取川、淺野川あり、本道の湖沼も、皆海岸ありて、概瀉と稱するも

岬港

の多し、若狭の三方湖、越前も北瀨の入江、加賀の木場瀨、今江瀨、柴山瀨、河北瀨、能登の邑知瀨、越後の福嶋瀨、佐渡の越の湖あり、中にも加賀の柴山瀨、河北瀨、越後の福嶋瀨を甚大にして、河北瀨も多くの魚類を産し、福嶋瀨も近傍の泥炭の産地多し、若狭の小濱の港あり、其の西北は松崎、赤礁崎、峙り、越前の立石崎と越前崎との間は、敦賀の港あり、又加賀の境界は近く、阪井の港あり、敦賀港は北國の良港にして、北陸諸國の貨物、茲は輻

輳し、且近江の湖北に通ずる汽車、有るを以て、頗る繁盛あり、能登の半嶋國あれば、岬港從て多し、珠洲崎遠く日本海に突出せ、其の西南は輪嶋岬あり、此の岬内は輪嶋港あり、南に七尾港あり、越中に伏木港、越後の新潟港あり、此の港は五港の一にして、外國との貿易の場なれど、其の繁盛あるをいふに、云ふに待たざれども、信濃川の下流に當るを以て、港内は土砂堆積して、水浅く、大船を泊し難し、佐渡を固より嶋國にして、四方海に面せ、故に岬は澤崎、春日崎、濡木崎あり、港は夷湊相

海灣

川、小城あり、小城を越後へ航する津渡なり、本道の西北に當れる海は日本海と名く、潮汐の干満少く、夏時を安穩かれども、冬時を波濤荒くして、航海不便ならん、殊に能登の珠洲崎の近傍を、岩礁砂洲相列り、海濤極めて荒し、舟人相戒めて、日本海第一の危険と云ふ、又同國東方の内海は七尾灣と云ふ、

嶋嶼

本道より嶋嶼極めて少く、佐渡を除きては、能登の北にある舩倉嶋及七ツ嶋と、越後の西北に河る粟生嶋とのみあり、

都會

金澤

加賀の金澤を、本道の最大都會ありて、犀川を右に、浅野川を左に、市街の廣大にして繁盛なる所と、尾張の名古屋に亞ぐべし、人口十萬七千餘、石川縣廳の在る所にして、鎮臺、兵營、諸學校、病院あり、

新潟

越後の新潟は、信濃川の左岸にありて、人口三萬七千餘、新潟縣廳のある處にして、且外國互市場たるを以て、市街相接し、頗る宏壯なる學校、病院等あり、越前の福井、越中の富山を繁盛する都會ありて、各縣廳の在る處なり、而して富山を、高岡、魚津と

其の他の都會

共小、越中の三都會と稱ふ、越後の三條、長岡、新發田、高田、柏崎、加賀の大聖寺、小松ハ、皆緊要なる都邑なり、

名所

本道ハ、名所舊跡の記述べきもの少ク、若狹の小濱の沖ハ、外面と名づくる岩嶋あり、越前九頭竜川の舟橋ハ、世ハ名高く、其の傍ハ新田義貞が祭れる藤嶋神社あり、又越中の俱利伽羅峠ハ、木曾義仲が平軍ヲ鏖メセ、古戰場なり、越中、越後の國界ハ、親不知とて名高キ險處あり、即チ斷崖の下、纔ハ路を通シ、崖腹ハ洞穴ヲ穿チ、激浪來

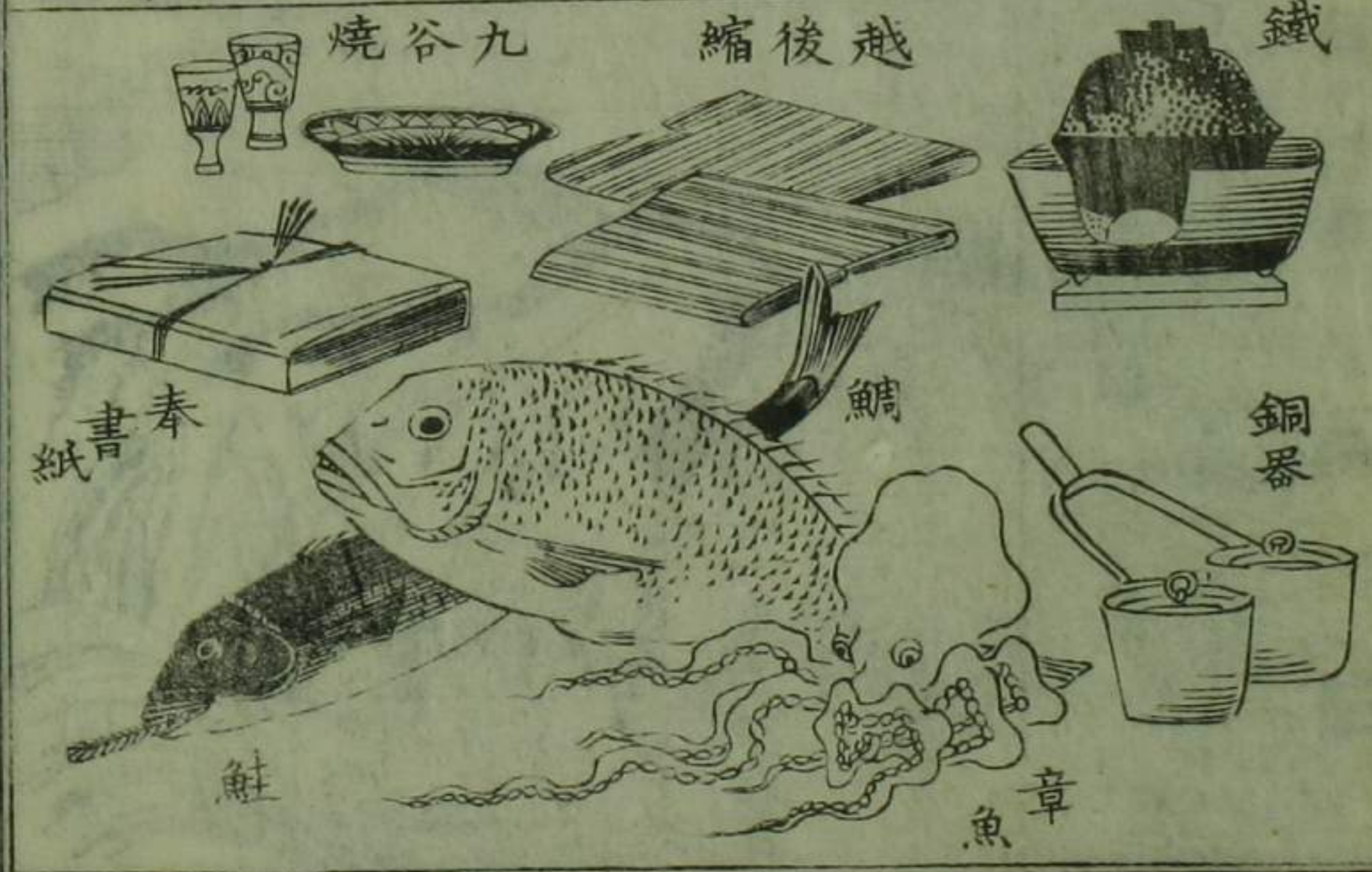
産物

る時ハ此の中ハ避け、其の退クヲ待チ、過ぐと云ふ、佐渡ハ、順徳天皇を奉葬せる眞野の山陵あり、天然物ハ、佐渡の金銀、越後の石腦油を主トシ、海ハ、鯛、鰈、鯔、鱈、烏賊、章魚、鮭等多く、製造品ハ、若狹の若狹塗、越前の



親不知の圖

奉書紬、加賀の九谷焼、加賀絹、金澤の象眼細工、能登の輪鳴塗、越中の銅鐵器、越後の越後縮、上布、五泉平等ふして、最有名なるもの、佐渡の金銀あり、又藥品、越中の富山及佐渡も多く、紙類、越前の奉書、越中の鳥の子、加賀の杉原皆良品なり。



氣候

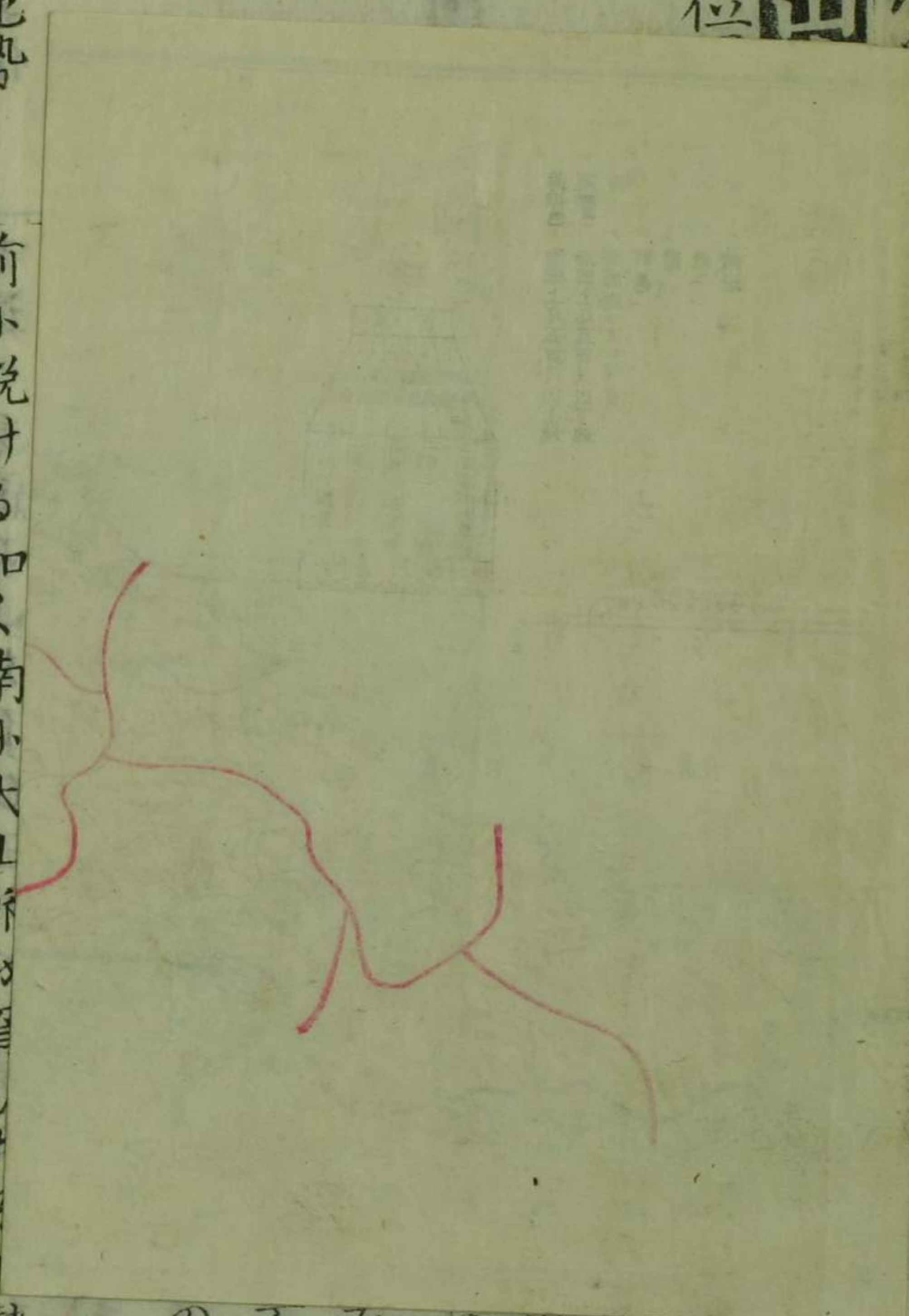
附説

本道へ、東南小山を負ひ、西北へ北海へ向ふが以て、寒氣甚強し、故に冬時積雪丈餘に達し、山村僻邑に言ふも更にして、市街と雖雪も埋もれて、簷下纔に行人を通るに至る處あり、殊に越後の高田近傍を、最降雪多き地ありと云ふ。越後への天然の奇觀あり、即ち火井とて、地中より火氣が發する者是あり、此の火、或は燈に用ゐ、或は煮焚の用に供まべし、又石腦油の涌きて出づる井、或は鹽の出づる井あり、石腦油を、土俗呼て臭水と云ふ、山梨

山位

地勢

前不説ける如く南に大山脈ありて北に地勢か



畿北の北に之の石見の海

山岳

れど、丹波を殊ふ山多く、但馬、因幡、伯耆、出雲、北
東、不從ひて漸く低く、河水盡く北に注ぐ、石見
を之に異りて、山脈國中に起伏して、到る處に
丘陵相望り、地勢斯の如きを以て、地味を一般
に、礫確にして、伯耆の西北部を除きて、外米穀不
適する處少し、
山岳南方を連亘せれども、甚大なるもの阿らば、丹
後の大江山を丹波の界に接して、古昔山陰の官道
不當りて、以て名高く、但馬の冰山を因幡播磨に
跨りて聳え立ちたり、大山を伯耆に著名にして、山

山陰道

位置

第六 山陰道

山陰道の古來山陽道と併せて中國と稱へて畿内北陸道の西に連れる地方あり而して畿内北陸道より來る大山脈其の中央を通過して此の兩道の境界を劃る其の山北を山陰道といふ之に屬する國八あり即ち丹波山城の西に在りて丹後其の北に接し但馬因幡伯耆出雲石見又其の西に連る隱岐を嶋國とて伯耆出雲の海上にあり

地勢

前説ける如く南に大山脈を負ひたる地勢か

山岳

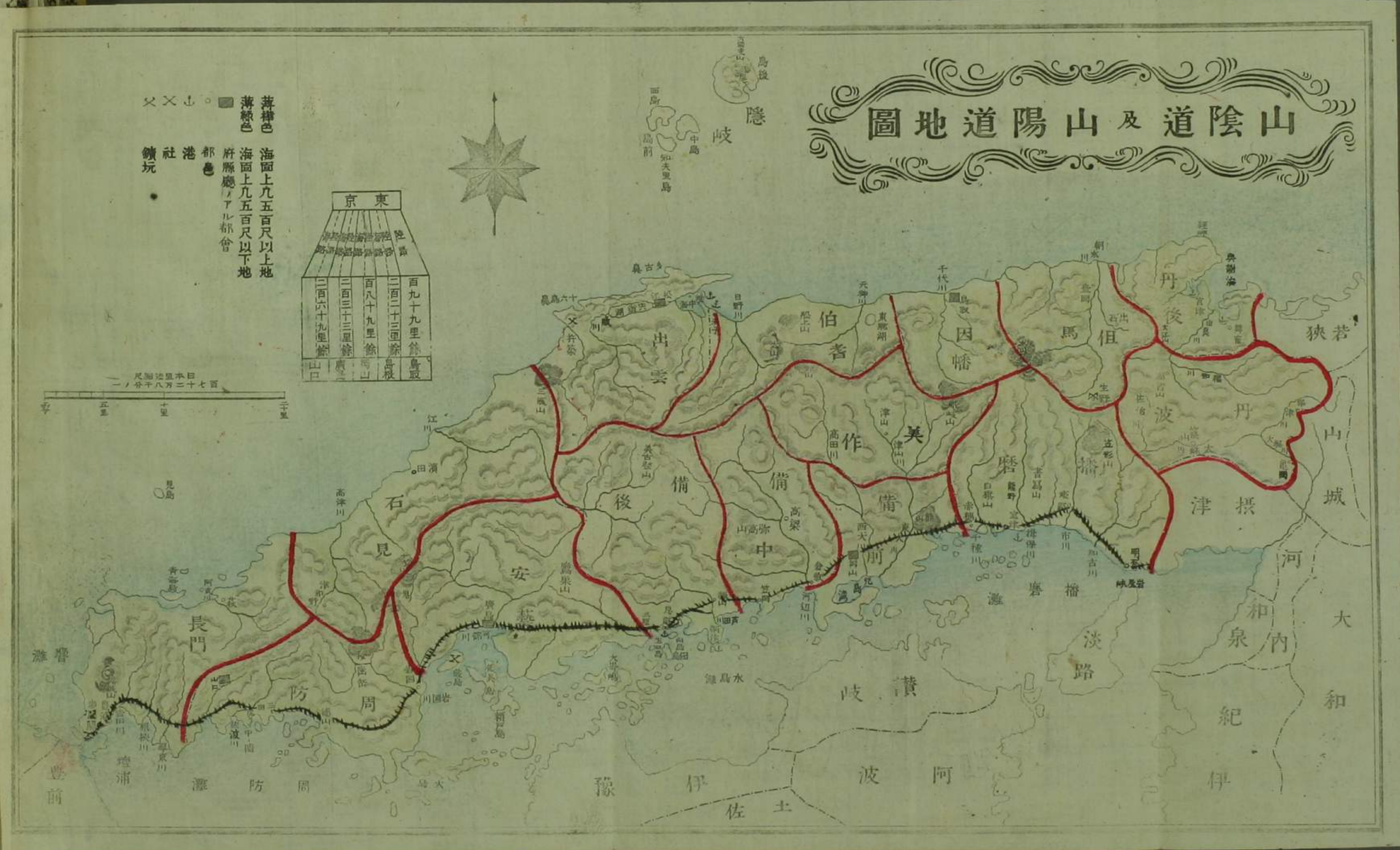
れど丹波を殊に山多く但馬因幡伯耆出雲に北を流る水は漸く低く河水盡く北に注ぐ石見を之に異りて山脈國中に起伏して到る處に丘陵相望り地勢斯の如きを以て地味を一般に礪確にして伯耆の西北部を除きて外米穀に適する處少し

山岳南方を連亘せしむるもの阿らば丹後の大江山を丹波の界に接して古昔山陰の官道に當りて以て名高く但馬の冰山を因幡播磨に跨りて聳え立てり大山を伯耆に著名にして山

位置 **山陰道**

第六 山陰道

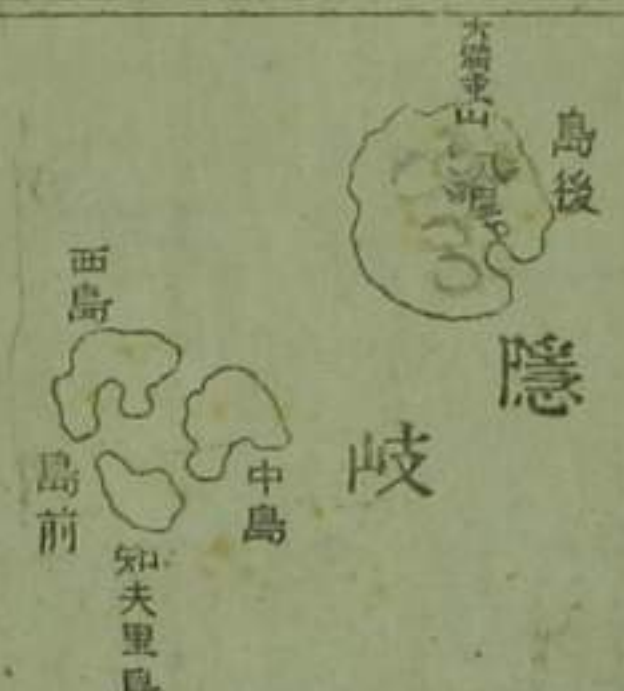
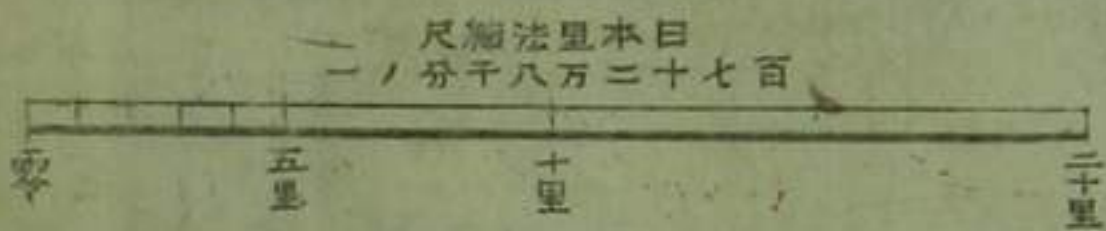
山陰道ハ古來山陽道と併せて中國と稱へて畿内北陸道の西に連れる地方あり而して畿内北陸道より來る大山脈其の中央を通過して此の兩道の境界を劃る其の山北を山陰道といふ之に屬する國八あり即ち丹波山城の西に在りて丹後ハ其の北に接し但馬因幡伯耆出雲石見又其の西に連る隱岐を嶋國とて伯耆出雲の海



山陰道及山陽道地圖

薄緑色 海面上九五百尺以上地
 薄黄色 海面上九五百尺以下地
 社 港 郡 府 縣 廳 / アル 都會
 鑛 坑

京 東	
陸	百九十九里餘 鳥取
陸	二百二十三里餘 高松
陸	百八十九里餘 岡山
陸	二百三十三里餘 廣島
陸	二百六十九里餘 山口



河湖

陰道第一の高峯あり、其の東北の船上山を名和長年の古蹟存し、出雲の三瓶山を石見の境に崛起せり、又隱岐を丘陵頗多きれども、唯大満寺山名あるのみあり、川も甚大あらば、丹波に福知、保津、大珠、佐治の四川あり、福知は丹後、保津は畿内、大珠は佐治を山陽に入る、丹後に由良川、但馬に朝來川、因幡に千代川、伯耆に日野川あり、出雲を川に、簸の川湖に穴道、湖中の海あり、其の風景も富めり、石見に名高き江川を、山陰道第一の大河にして、舟楫の

港灣及岬

利極めて多し、

海岸一帯屈曲少く、唯丹後の東北、伯耆の西北に稍あり、丹後に經岬、遠く斗出して、與謝の海に包む、與謝は有名の勝地なり、此の灣中に宮津、舞鶴の二要港あり、又出雲を嶋根の半嶋突出して、伯耆の境の港を擁せ、此の他出雲に多古鼻、十六嶋鼻あり、れども著大とせざるに足らば、

都會

松江及鳥取

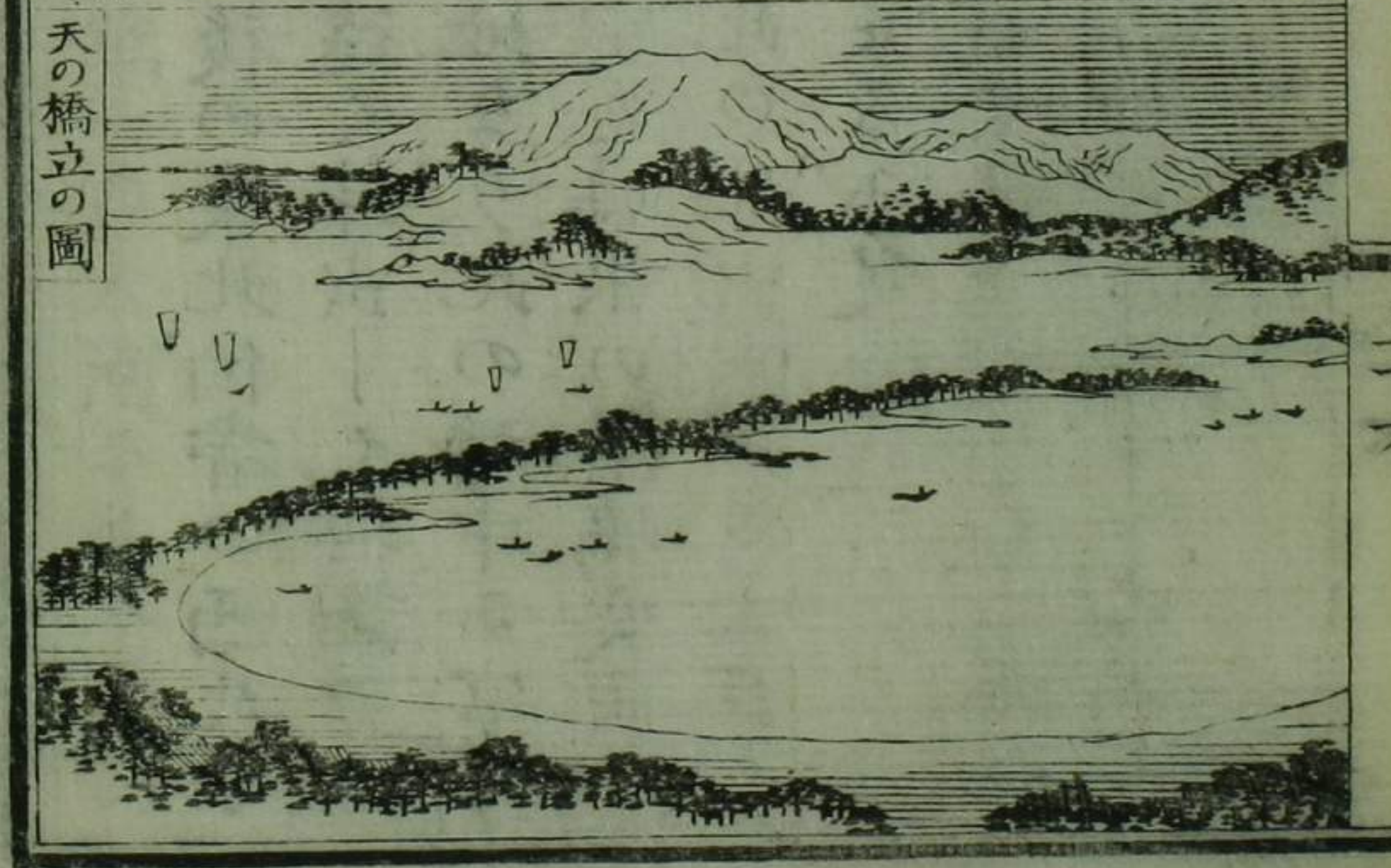
出雲の松江を、市街繁盛、風光絶佳にして、山陰道第一の都會と稱せ、次を因幡の鳥取にして、其の縣廳の在る處なり、

其の他の都邑

其の他、丹波の龜岡、丹後の宮津、舞鶴、伯耆の米子、但馬の豊岡、出石、石見の濱田、津和野を皆緊要の都邑と稱すべし、

名所

我が國三景の一と稱へらるゝ天の橋立を、丹後不在りて、與謝の海、延出たる長洲なり、白沙、青松、海波と相映し、風景



天の橋立の圖

氣候

畫みも寫し難し、又此の國も眞名井原あり、之は元伊勢と稱ふ、賽者常も絶えぬ、但馬の生野の銀山も、我が國第一の銀坑あり、其の城崎の温泉も、効驗頗著し、出雲も名高き杵築の大社、日御崎の社あり、石見も高角山及床浦の勝地あり、又隱岐の知夫里の港も、伯耆の船上山と共し、元弘の古跡として、其の名青史も赫多し、本道も、南山を負ひ、北海も面せるが以て、寒氣強く雪降るおと多し、殊も丹波も、山岳の間も在れど、寒冷もして雲霧深し、

産物

但馬石見の銀、伯耆出雲の銅鐵ハ、全道第一の産物あり、但馬の出石の陶器、豊岡の柳行李、出雲の人參、十六嶋海苔、及因幡伯耆の白珊瑚も、皆世小名あり、又丹波より煙草、茶、丹後より縮緬、撰絲、石見より半紙が、出石、隱岐を産物とすれども、木材



附説

の良あるもの多し、其の他生絲、蠟、漆、蜂蜜ハ、處々小多く、沿岸の魚産え、松江の鱸が始として、其の利莫大なり、
本道ハ上古より、世小顯れたる地方ありて、神代の事蹟を傳ふるもの多し、又中世以後、群雄の割據して争戦せし古跡少からば、
隱岐ハ、全嶋丘陵多く、地勢礪确みして、佐渡の如き利源あり、故小土地未甚闢多む、
石見も地勢礪确みして、米穀小適せざる處多し、故小村里到る處甘薯を種り、貧民を之を常食と

するもの多しといふ、

山陽道

位置

地勢

第七 山陽道

一帯の山脈を以て、山陰道と境域劃り、内海に臨める地方を山陽道といふ、其の畿内と接せる國を播磨とす、又其の西に美作、備前あり、備前の南に備前、美作を北あり、此より備中、備後、安藝、周防、長門の五國次第に逐ふて西に連る、而して長門を中國の西端とす、三方に海を繞せり、山陰道と相反し、長門を除きて外を皆北境に山脈を負ひ、南に至るに隨ひて漸く低し、其の山を高くして峻きもの少く、其の川を大あらざれ

山岳

ども運漕便利のもの多し、但美作を、山岳國內ふ
蟠結し、周防、長門、丘陵處々ふ起伏を、又海岸ハ
岬灣出入甚しく、名港巨泊數多し、其の海上を嶋
嶼星の如く碁の如く散布錯置し、比類稀ある
好風景なり、
播磨の笠形山、美作の那木の山、安藝の十方山等
を、山陰道の氷の山、大山等と脈々連ね、全道中
の主山なり、又美作の蛭山、備前の熊山、備中の彌
高山、備後の美古登山、周防の秘密岳、長門の鬼城
山を、各其の國ふ秀でたり、

江河

播磨ふを、加古川、市川、揖保川、千種川の四流、何れ
ども加古川、市川尤名高し、美作の津山川、高田川
を共ふ、備前ふ出で、津山の東大川とあり、高田
の西大川とある、備中の河邊川、安藝の可部川と
拮抗し、備後の蘆田川、之ふ亞ぐ周防ハ、岩國川、
頗有名あり、佐波川を長門の阿武川、厚東川と
共ふ、大流と稱するに足らば、

海灣及港

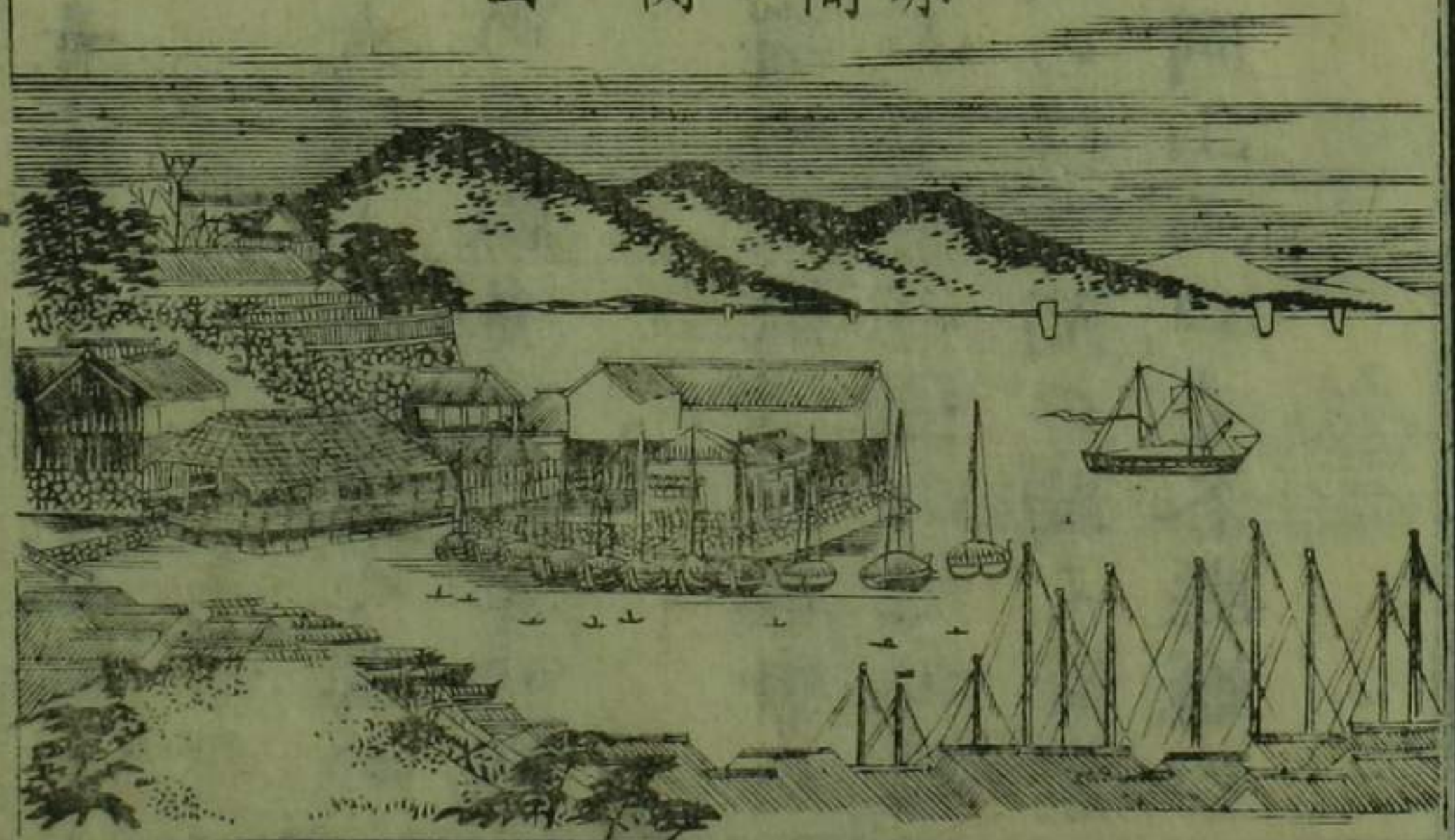
本道と四國との間、湛ふる海水を、之を瀬戸の
内海と名づく、此の内海ハ、名の如く四邊、殆陸
地を繞し、只明石、鳴戸、速吸、早鞆といへる四の瀬

嶋嶼

戸ふて、外洋ふ連れり、瀬戸を即ち海峡なり、其の播磨ふ近き所を播磨灘といひ、備中、備後ふ巨をる邊を水嶋灘といふ、又周防の海上を之を周防灘と稱ふ、斯く入り込みたる海水おれば、常に風和き波穏み、航客席ふ坐屯る如く、長汀曲浦の眺望も、却て旅愁を慰むるふ足る、港を播磨ふ室の津あり、備後ふ鞆の津、尾の道あり、皆中國の名港あり、周防の中の關を、甚稱屯るふ足らざれども、長門の赤間の關ハ全道第一の巨泊なり、嶋嶼を前ふもいへる如く、遠近ふ星布碁置して、

數ふるふ遑何らば、今只其の尤著名なるものを舉げん、尾の道港の前、面ふ、向嶋院嶋、生口嶋あり、少し離れて大崎嶋横をる、安藝の嚴嶋を、世ふ知らざるものなく、瀬戸嶋、能美嶋ハ之ふ隣りて、頗大あり、而して周防の大嶋を更ふ最大なりと

赤間の關の圖



學地里書 卷之三

四十一

都會

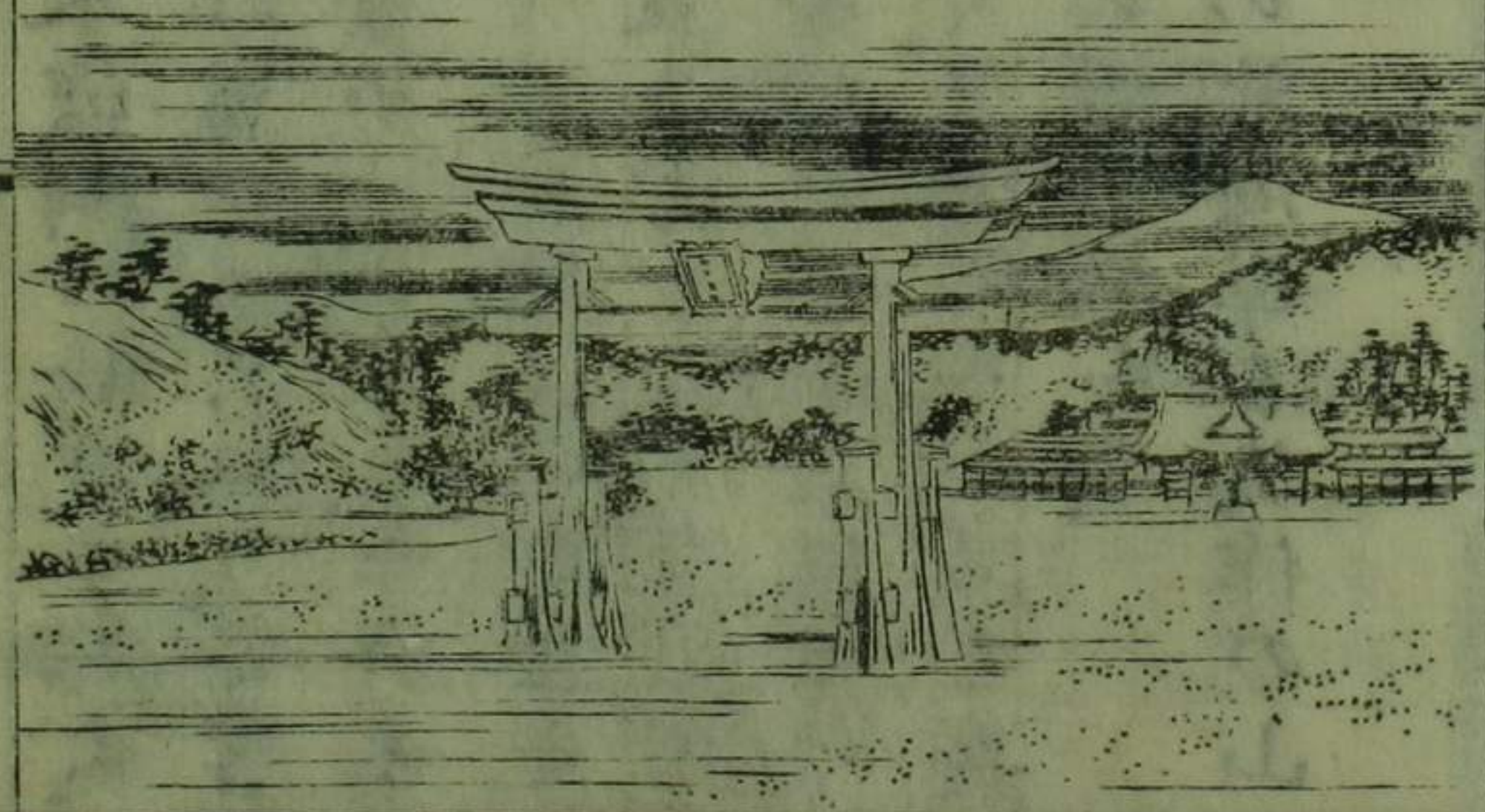
其の他の都會

いふ、又長門の北岸近く青海嶋ありて、見嶋を遙の北ふ屹峙せり、安藝の廣嶋を、土俗中國の大阪と誇稱して、其の市街の繁榮ある、中國第一の大都會なり、廣嶋縣廳此不在り、備前の岡山、播磨の姫路を廣嶋ふ亞げる都會ふして、播磨の明石、美作の津山、備後の福山、尾の道、周防の山口、岩國、徳山、長門の萩、赤間の關を皆繁華と稱すべし、中に就きて岡山、山口を各縣廳の在る處なり、

名所

攝津の須磨の浦傳ひふ播磨ふ入れむ、此ふも又白沙青松相連りて、須磨ふ劣らぬ勝地あり、是舞子の濱よして名高き明石を其の西なり、それより西の高砂の曾根と共ふ古松の名地ありて、石の寶殿も此ふあり、又書寫山を、獨姫路の北ふ聳

嚴嶋の圖



氣候

ゆ備前の藤戸の渡ハ、佐々木盛綱の騎渡せし處
 不して、吉備の神社ハ、結構壯麗、世不名あり、安藝
 不名高き巖嶋也、我が國三景の一ありて、市杵嶋
 姫祀れる社あり、崖不倚り水に臨みて眺望絶
 佳あるを以て、松嶋、天の橋立不劣ることなく、周
 防の岩國川不架したる錦帯橋ハ、俗不算盤と呼
 びて、世不知らざるものなく、又其の檀の浦を長
 門の赤間の關と、共不有名の古戰場あり、
 氣候を概溫和なり、但長門の北海岸と、美作の山
 間を稍寒し、

産物

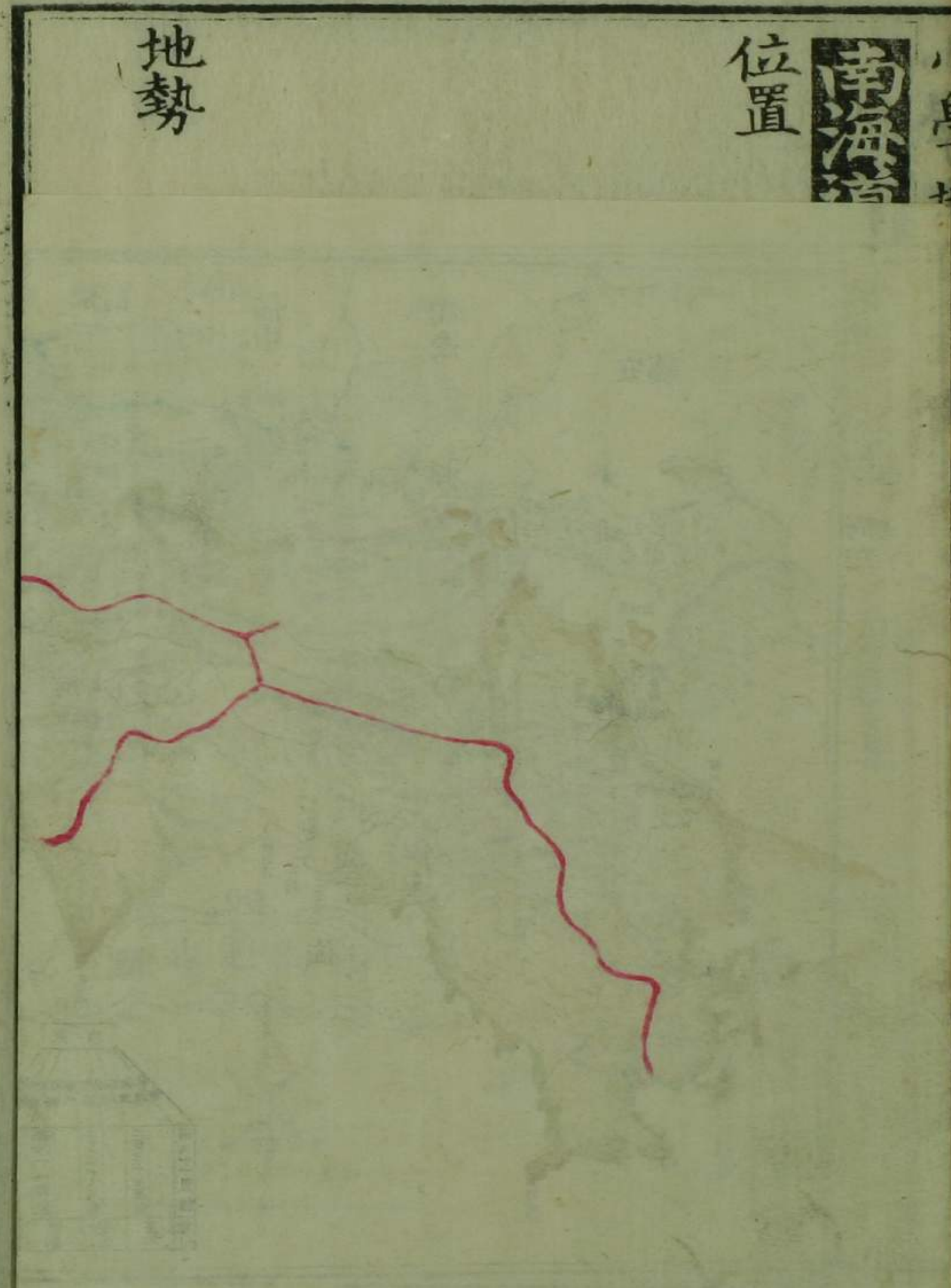
礦物を播磨、美作、備中、備
 後、安藝より鐵、炭産し、其
 の他處々より、銅、蠟、石、石
 炭を出せ、長門の赤間硯
 ハ、殊不名高し、織布の類
 也、全道頗綿布不富みて、
 名あるもの多けれども、
 播磨の明石縮、高砂染、周
 防の岩國縮布、木綿ハ、人
 の尤稱するものありて、



南海道

位置

地勢



地ふとの西及て

山岳

沿岸大低斷崖成す、淡路を、山低く河細く、地味概して肥沃あり、四國を、大山脈東西小亘り、江河多く源成、此小發屯、其の間肥沃の平野少あらば、又沿岸ハ、屈曲出入甚多し、
 紀伊を、高山極めて多し、中あも高野山、大塔の峯、八鬼山、龍門山、最名高し、淡路ハ、山の大なるものなく、唯先山稍著れたり、四國を、阿波ハ雲邊寺山、劍山あり、讃岐の象頭山ハ世小知らざるものなく、土佐ハ、三瀧、矢筈の二峯あり、伊豫の石槌山を、四國第一の大山なり、其の瓶森山亦名あり、

地理書

卷之三

四十五

南海道

位置

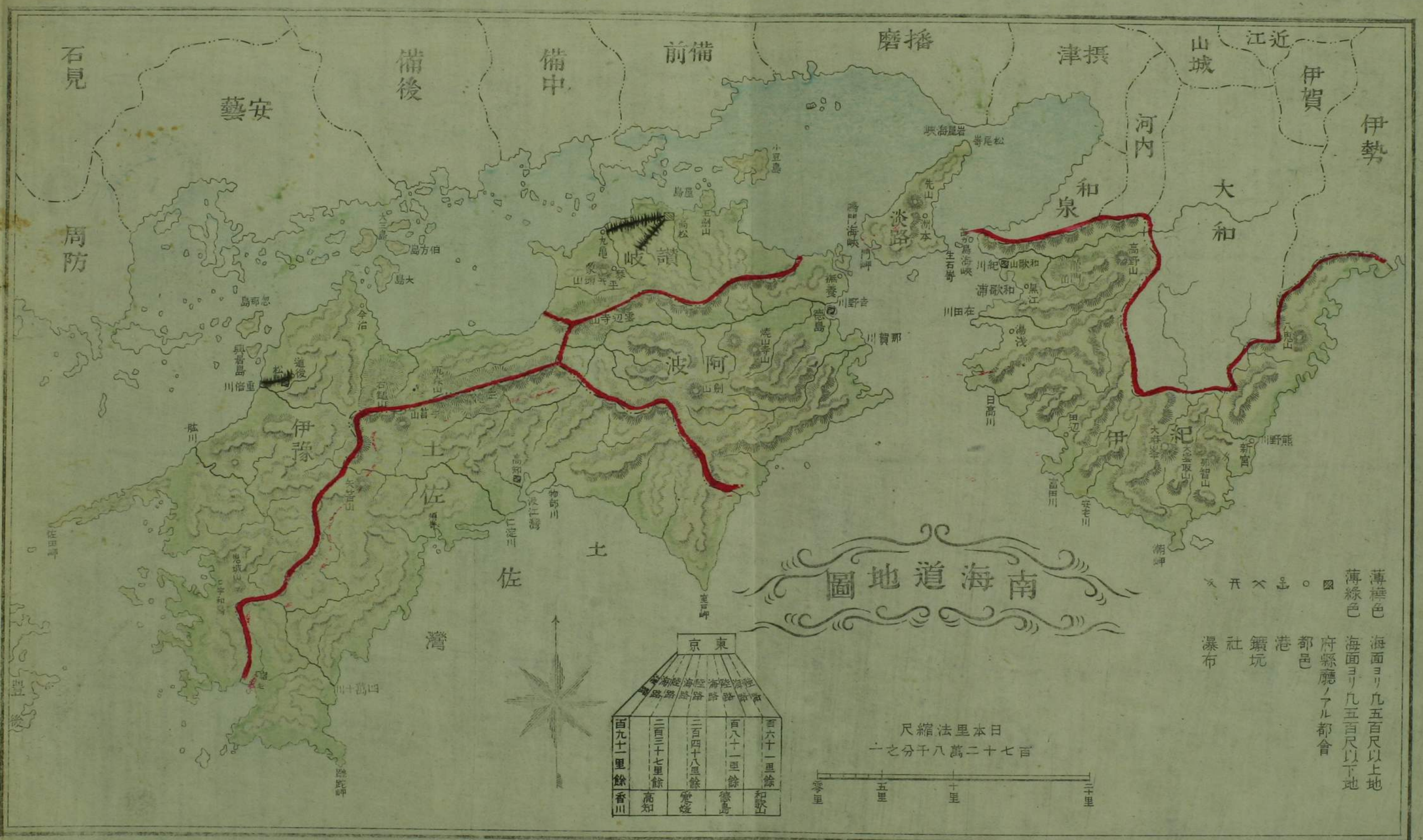
第八 南海道

南海道ハ、三の相離れたる陸地より成り立つ地
方ありて、六の國之に屬す、畿内と東海道の南に
接したる國也、紀伊と、茅渟の海と、瀬戸内海と
の間にある嶋也、淡路とあり、海峽を隔て、其の
南に横れる大嶋を、阿波、讃岐、伊豫、土佐の四國と
し、阿波と讃岐とを東にあり、土佐と伊豫とを西
にあり、之を併せ名けて四國嶋といふ、
紀伊ハ、山脈大和より來り、西南に亘りて海に及
ぶ、故に州内僅小の部を除くば、盡く山地ありて、

地勢

山岳

沿岸大低斷崖也、淡路を、山低く河細く、地味
概して肥沃あり、四國を、大山脈東西に亘り、江河
多く源也、此に發せ、其の間肥沃の平野少あらば、
又沿岸に、屈曲出入甚多し、
紀伊を、高山極めて多し、中にも高野山、大塔の峯
ハ、鬼山、龍門山、最名高く、淡路ハ、山の大なるもの
なく、唯先山稍著れたり、四國を、阿波に雲邊寺山、
劍山あり、讃岐の象頭山ハ、世に知らざるものな
く、土佐に、三瀧、矢筈の二峯あり、伊豫の石槌山
を、四國第一の大山なり、其の瓶森山亦名あり、



南海道地圖

京	東	德島	高知	香川
百六十一里餘	百八十一里餘	二百四十八里餘	二百三十七里餘	百九十一里餘
和歌山	德島	高知	香川	

尺縮法里本日
一之分千八萬二十七百

零里 五里 十里 二十里

薄樺色 海面ヨリ九五百尺以上地
薄綠色 海面ヨリ九五百尺以下地
府縣廳ノアル都會
都邑
港
鑛坑
社
瀑布

江河

紀の川、日高川、熊野川、在田川を、紀伊の名高く、阿波の吉野川、阪東太郎を對し、四國三郎と稱し、河道の廣き、舟楫の利ある、四國第一なり、土佐の四萬十川、仁淀川、之を亞ぐ、其の他阿波の那賀川、伊豫の重信川、肱川、土佐の物部川、皆著名あり、紀伊の和歌の浦、古來有名の入江ありて、潮岬を、此の國の中央に有る大岬なり、淡路の生石崎、松尾崎、門の岬の三岬ありて、松尾を播磨を對ひ、生石を、紀伊を對ひ、門の岬は、阿波に向ひて、突出を、生石と紀伊との間、苦み鳴海峡あり、由良の

岬灣

海峡ともいふ、又門の岬と阿波の間、小鳴門海峡あり、鳴門を、大鳴門、小鳴門の唱ありて、海水渦を成し、潮聲雷の如く、航客の膽を、して冷からしむ、讚岐を、志度の浦、最名高く、伊豫を、佐田の岬、頗長し、土佐の蹉陀岬と、室戸岬を、遙に相對して、土佐

鳴門の圖



嶋嶼

の灣を抱く、此灣昔時を陸地ありしが、嘗て劇き地震の爲に陥りて海となれり、故に其の水甚深あらば、讃岐伊豫の海上に、數百の嶋嶼あり、中に就きて讃岐の小豆嶋、鹽飽嶋、伊豫の大嶋、大三嶋、伯方嶋、興居嶋、忽那嶋等、土地肥沃にして人口多く、世に著きたり、紀伊の和歌山を、和歌の浦と臨みて市街繁盛、風景佳く、本道第一の都會あり、和歌山縣廳此に在り、

都會

和歌山

徳嶋

其の他の都會

阿波の徳嶋に、徳嶋縣廳の在る所にして、四國第一の都會あり、讃岐の高松、土佐の高知、伊豫の松山、皆其の縣廳の在る所にして繁榮の都會たり、其の他紀伊の田邊、阿波の撫養、讃岐の丸龜、多度津、伊豫の今治、宇和嶋、土佐の宿毛、須崎を皆海灣に臨みたる良港にして、並に繁盛あり、淡路を都邑の大あるものあり、唯其の洲本稍稱するに足る、紀伊の和歌の浦を、明光の浦ともいひ、洲崎の松原、玉津嶋の社を、と見え渡りて、古來勝景の譽高

名所

高野の金剛峯寺、及粉川寺ハ、佛徒の常に稱道する所ありて、熊野の社を、神威儼然たる靈蹟あり、又其の那智の瀧ハ、我が邦ハ雙あき大瀑あり、其の名水聲と共に高し、讚岐ハ、屋嶋志度の浦ハ、源平の古戰場あり、白峯ハ、崇徳天皇の舊蹟あり、



那智の大瀧の圖

氣候

又象頭山の金毘羅神社ハ、社殿の壯麗、下野の日光ハ讓らば、伊豫ハ名高き道後の温泉ハ、古來人の稱する所ありて、土佐の吸江の入江ハ、風光絶佳あり、又淡路ハ、神代の古蹟といひ傳ふる地あり、

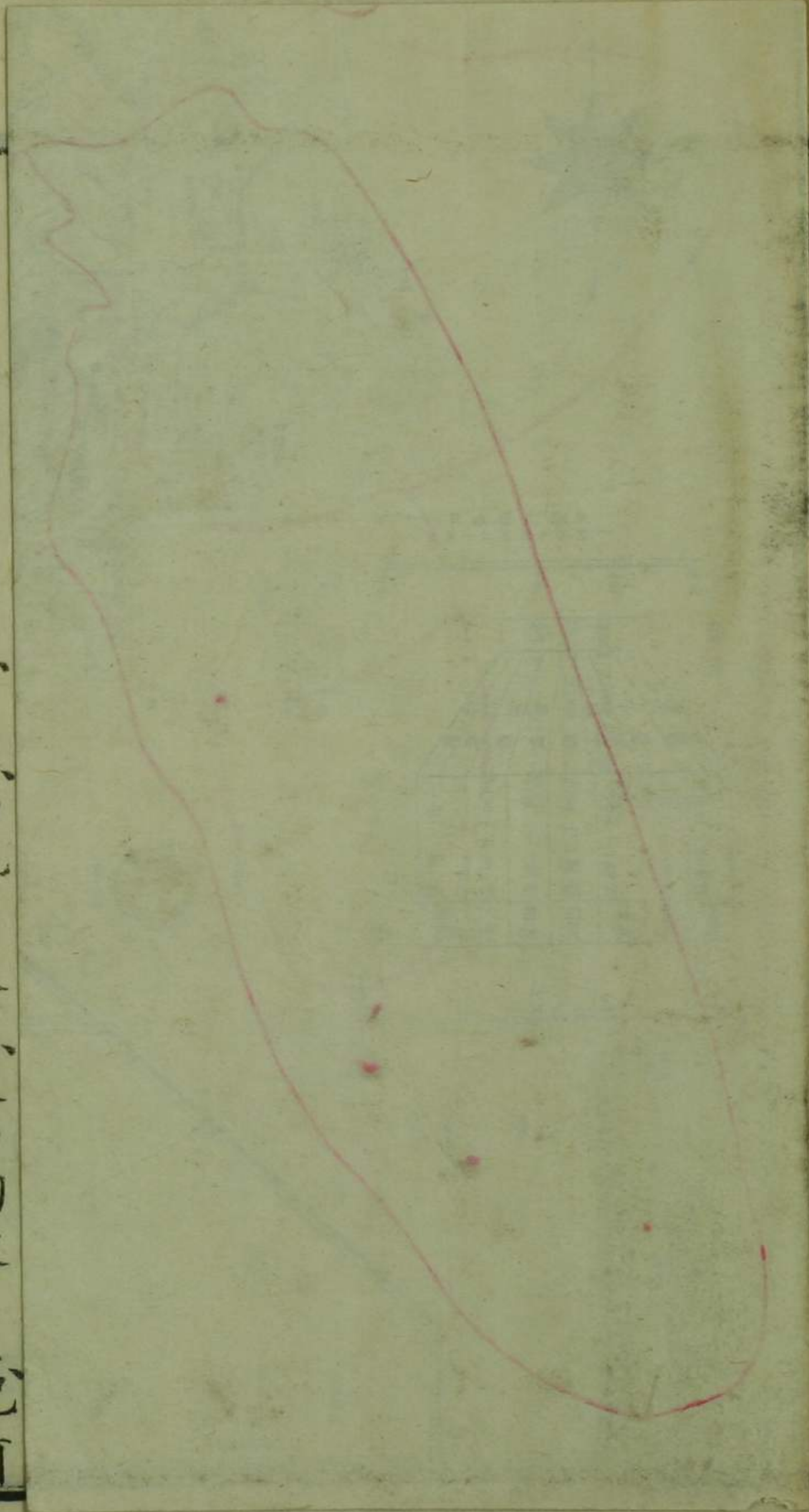
産物

氣候ハ、山陽道ハ比たれば一層温暖あり、然れども紀伊、伊豫の山間ハ、雪多くて、較寒冷なる所あり、
産物ハ、紀伊の蜜柑、材木、阿波の藍、土佐の紙を輸出の最盛なるものと云、又紀伊、淡路の綿布、漆器

土佐伊豫讃岐の砂糖鹽
 を著名にして伊豫ハ兼
 て紙産、土佐を珊瑚
 堅魚、出、其の他四國
 を處々銅石炭の礦坑
 あり、
 漁業を到る處皆盛み
 て、紀伊土佐の海岸、其の
 利尤夥し、鯛鯨を捕獲
 す、



南端小至り、一を西北小走り、更南走りて肥前



の南端小至り、高山大岳處々小聳ゆる者多し、又
山脈の間小ハ、多くの江河ありて、各方小貫流を、
其の大なるものハ、僅々一二小過ぎざれども、兩
傍を概肥沃の平原あり、殊小肥前の東部の海濱
より筑後小連りて、本道中最大の沃野あり、肥後
の西北部の平野之小亞ぐ、又海岸ハ日向城除き
て外を岬灣出入り、嶋嶼其の間小碁布を、良港從
て多し、
筑前小寶滿山、筑後小高良山あり、高良山ハ平野
の中に屹立し、其の山脈小續きて箕尾山あり、豊

山岳

西海道

位置

第九 西海道

本道ハ本嶋四國嶋の西南不在りて九州嶋及他
の二嶋嶼ヲ併せ多る十一ヶ國よりある其の位
置を肥後ハ中央不在る大國ありて薩摩大隅其
の南ハ横リ東南を日向東北ヲ豊後と云豊後の
西北ハ豊前ありて其の西を筑前と云筑前の南
ハ肥前肥後あり壹岐ハ肥前の西北ハある孤嶋
ありて對馬を更ハ其の北ハあり

地勢

東部の連山一ハ南走りて豊後より大隅薩摩の
南端ハ至り一ハ西北ハ走り更ハ南走りて肥前

山岳

の南端ハ至り高山大岳處々ハ聳ゆる者多し又
山脈の間ハ多くの江河ありて各方ハ貫流を
其の大なるものハ僅々一二ハ過ぎざれども兩
傍を概肥沃の平原あり殊ハ肥前の東部の海濱
より筑後ハ連りて本道中最大の沃野あり肥後
の西北部の平野ハ亞ぐ又海岸ハ日向ヲ除き
て外ハ岬灣出入り嶋嶼其の間ハ碁布を良港從
て多し

山岳

筑前ハ寶滿山筑後ハ高良山あり高良山ハ平野
の中に屹立し其の山脈ハ續きて箕尾山あり豊

小澤地理書 卷之二 終



第九 西海道

西海道 位置

本道の、本嶋四國嶋の西南不在りて、九州嶋及他の二嶋嶼を併せ多る十一ヶ國よりある、其の位置を肥後へ、中央不在る大國よりて、薩摩、大隅、其の南へ横り、東南を日向、東北を豊後とて、豊後の西北へ豊前よりて、其の西を筑前とて、筑前の南へ肥前、肥後あり、壹岐を、肥前の西北へある孤嶋よりて、對馬を更へ其の北へあり、

東部の連山、一を南走りて豊後より大隅、薩摩の南端へ至り、一を西北へ走り、更へ南走りて、肥前

地勢

尺縮法 里本日 一之分千八百二十七

陸路	陸路	陸路	陸路	陸路	陸路	海路
三百八十四里餘	二百六十七里餘	三百四十一里餘	三百一十一里餘	三百二十八里餘	三百一十六里餘	三百二里餘
長崎	博多	佐賀	熊本	大分	福岡	福岡

西海道地圖

薄樺色 海面ヨリ凡五百尺以上地
 薄綠色 海面ヨリ凡五百尺以下地
 府縣廳ノアル都會
 都邑
 港
 山
 燈臺
 坑
 社



西海道位置

第九西

地勢

本道ハ本嶋四國
 の二嶋嶼ヲ併せ
 置テ肥後ハ中央
 の南ハ横リ東南
 西北ハ豊前ハ
 ハ肥前肥後アリ
 マシテ對馬モ更
 東部の連山一モ
 南端ハ至リ一モ





西海道地圖

薄樺色 海面ヨリ凡五百尺以上地
 薄綠色 海面ヨリ凡五百尺以下地
 府縣廳ノアル都會
 都邑
 港
 山
 鑛坑
 燈臺
 社



西海道 位置

第九 西海道

本道ハ本嶋四國嶋の西南不在りて九州嶋及他
 の二嶋嶼或併せ多る十一ヶ國よりある其の位
 置を肥後ハ中央不在る大國ありて薩摩大隅其



江河

前の英彦、豊後の文珠、鶴見、祖母嶽の諸山を、皆嶮峻あるものなり。肥前、肥後、多良嶽、温泉岳あり。肥後、肥前、阿蘇、涌蓋、白鳥、江代の諸山あり。日向の霧嶋山、西南大隅の國界、本道第一の高山なり。其の他、市房山、速日嶽、法華山あり。大隅、高隈山、薩摩、開聞嶽、紫尾山、壹岐、魚釣山、對馬、三岳あり。而して霧嶋、阿蘇、鶴見を、火山なり。筑前、遠賀川、筑後、筑後川、矢部川あり。筑後川を、本道中第一の大河にして、之を、阪東、太郎、四國

岬港

三郎と併稱して、筑紫、二郎と稱す。源、豊後、發して、肥前の國界を過ぎて、海に注ぐ。豊前、山國川、驛館川、豊後、大分川、大野川あり。大分川を、筑後川とて、九州の山脈を南北に區劃せり。肥前、川上川、松浦川、肥後、菊池川、白川、緑川、玖摩川あり。玖摩川を、著名の急河にして、中間、三十三の激湍あり。日向、五箇瀬川、美々津川、一の瀬川、大淀川、大隅、肝付川、薩摩、川内川あり。中、就きて、大淀川、川内の二川を、較大あり。筑前の博多、肥前の長崎を、本道、著名の港あり。

神戸、大阪と日々汽船の往復あり、中にも長崎と五港の一ふして、我が國外國貿易場の最古き者なれど、其の名世ふ著れたり、此の港の西南に突出せる岬を野母崎といふ、豊前の仲津、肥前の伊萬里、薩摩の麿嶋等も皆良港あり、薩摩の八野間崎、開聞崎ありて、大隅の佐多岬と相望む、豊後の關崎を、伊豫の佐田岬と對し、海上僅々三里ふ過き、豊前の西北ふある部崎も、燈臺の設置あり、

海灣及海豊前の部崎と、長門の下の關との間ふ、早鞆の瀬

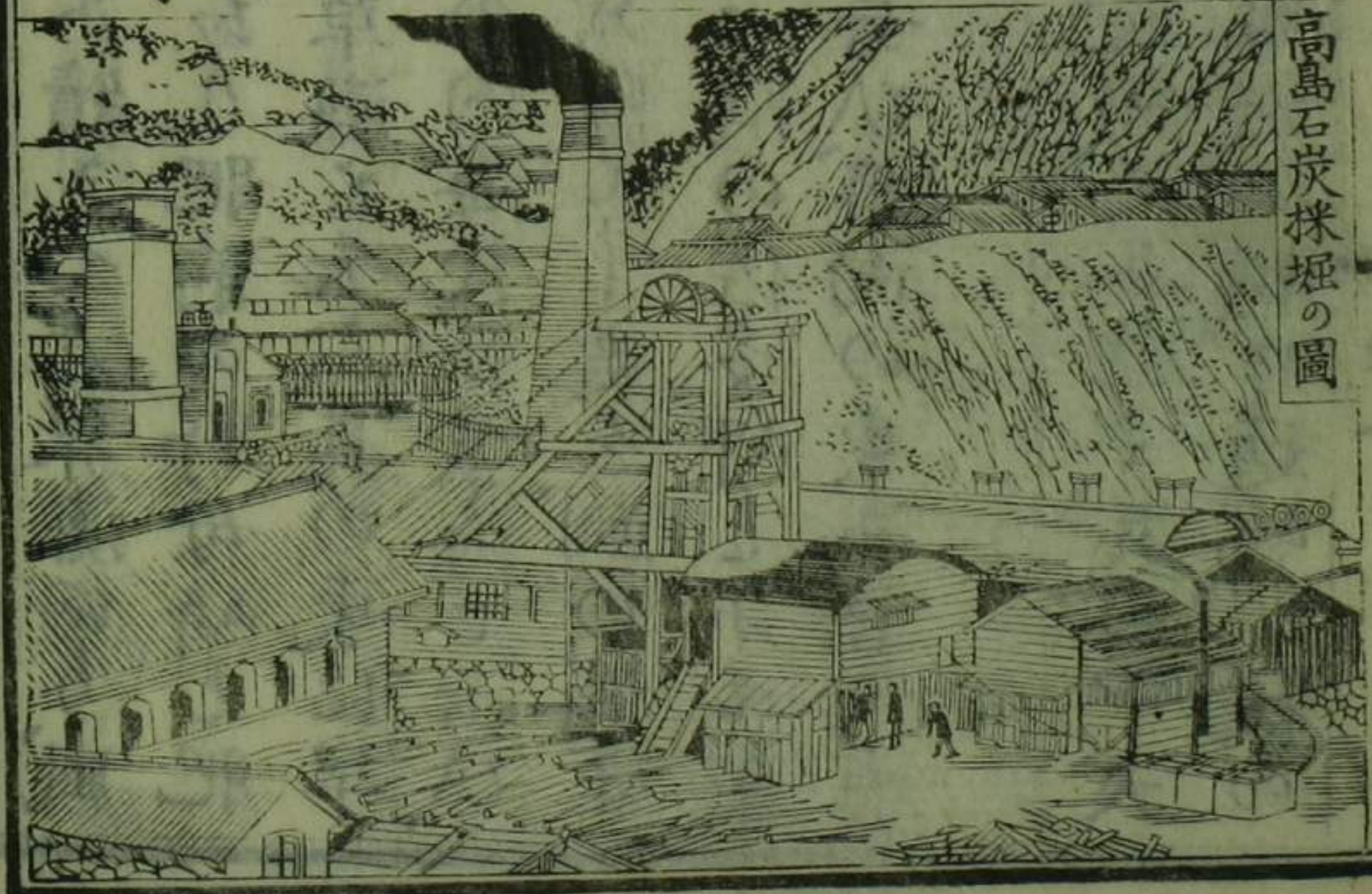
峽

戸あり、其の西北の響灘ふ續きて、玄界灘あり、風浪險惡、舟人の戒むる處あり、肥前の野母崎と肥後の志岐岬との間を、天草灘と云ふ、其の東に早瀬の瀬戸あり、其の瀬戸の内海を筑紫海と云ひ、筑紫海の西ふ一の地峽を隔て、處を鯛の浦と云ふ、又薩摩の開聞岬と、大隅の佐多岬とみて包擁せるものを、麿嶋灣と云ひ、日向の東ふ亘りたる邊を日向灘と云ふ、

嶋嶼

嶋嶼を、肥前最多く、薩摩、大隅之ふ亞ぐ、其の中犬あるものを、肥前の平戸嶋、福江嶋、中通嶋、肥後の

天草嶋、大隅の櫻嶋、種子嶋、屋久嶋、薩摩の甑嶋、長嶋等ありて、福江、中通の二嶋ハ、其の近傍の諸嶋を合せて五嶋と稱し、天草嶋を上下二嶋ありて、下嶋を大ありと云、又櫻嶋を中央に噴火山あるが以て、其の名高く、肥前の高嶋を甚小なれども、



高島石炭採掘の圖

都會

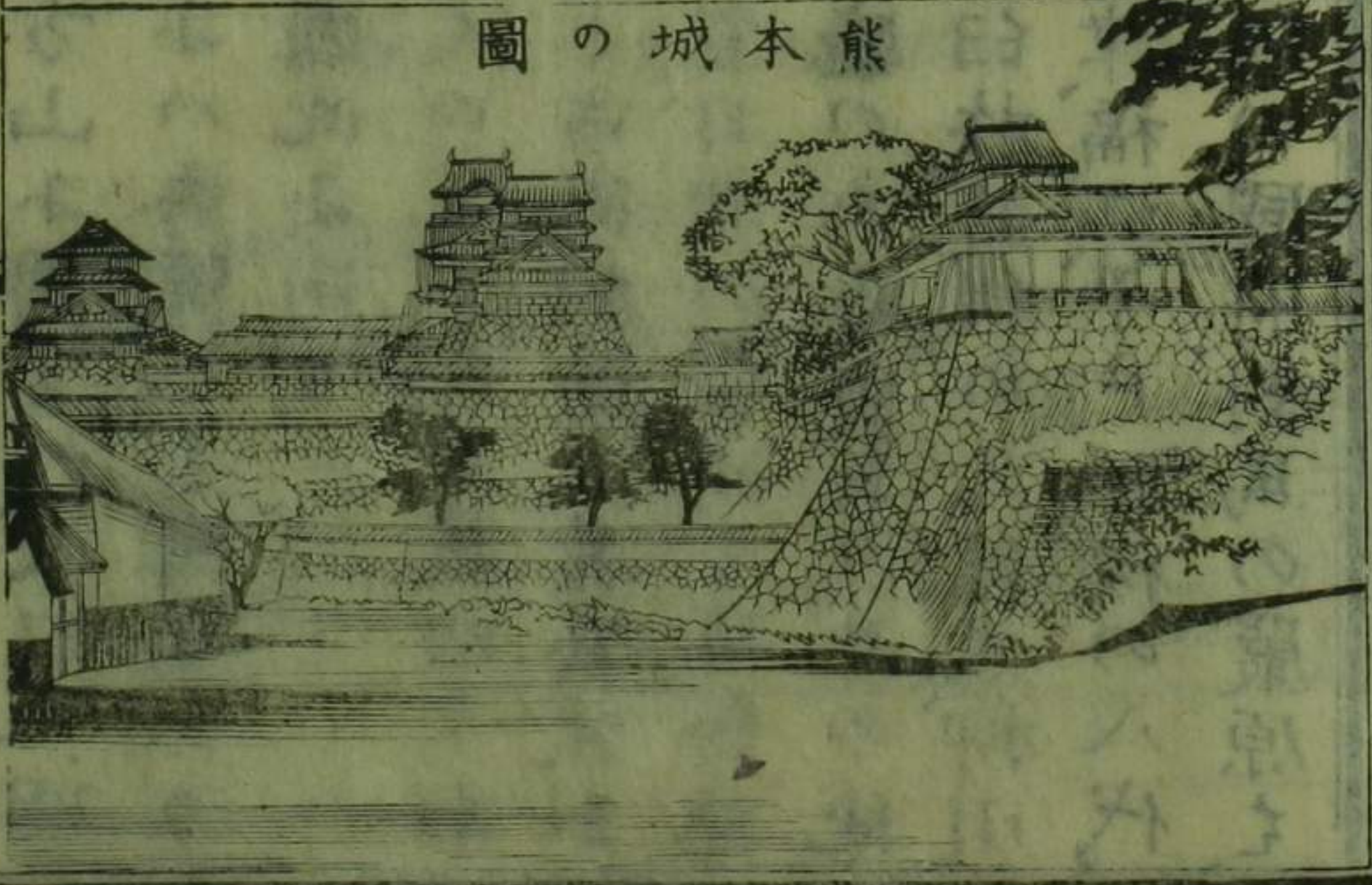
有名の石炭坑あるが以て世に著る、大隅の肥後の熊本ハ、九州の一大都會ありて、白川の北岸に臨み、人口四萬五千、縣廳及鎮臺あり、此の城をむろし加藤清正の築きたるものにして、著名あり、

熊本

長崎

肥前の長崎を深く入り

熊本の城の圖



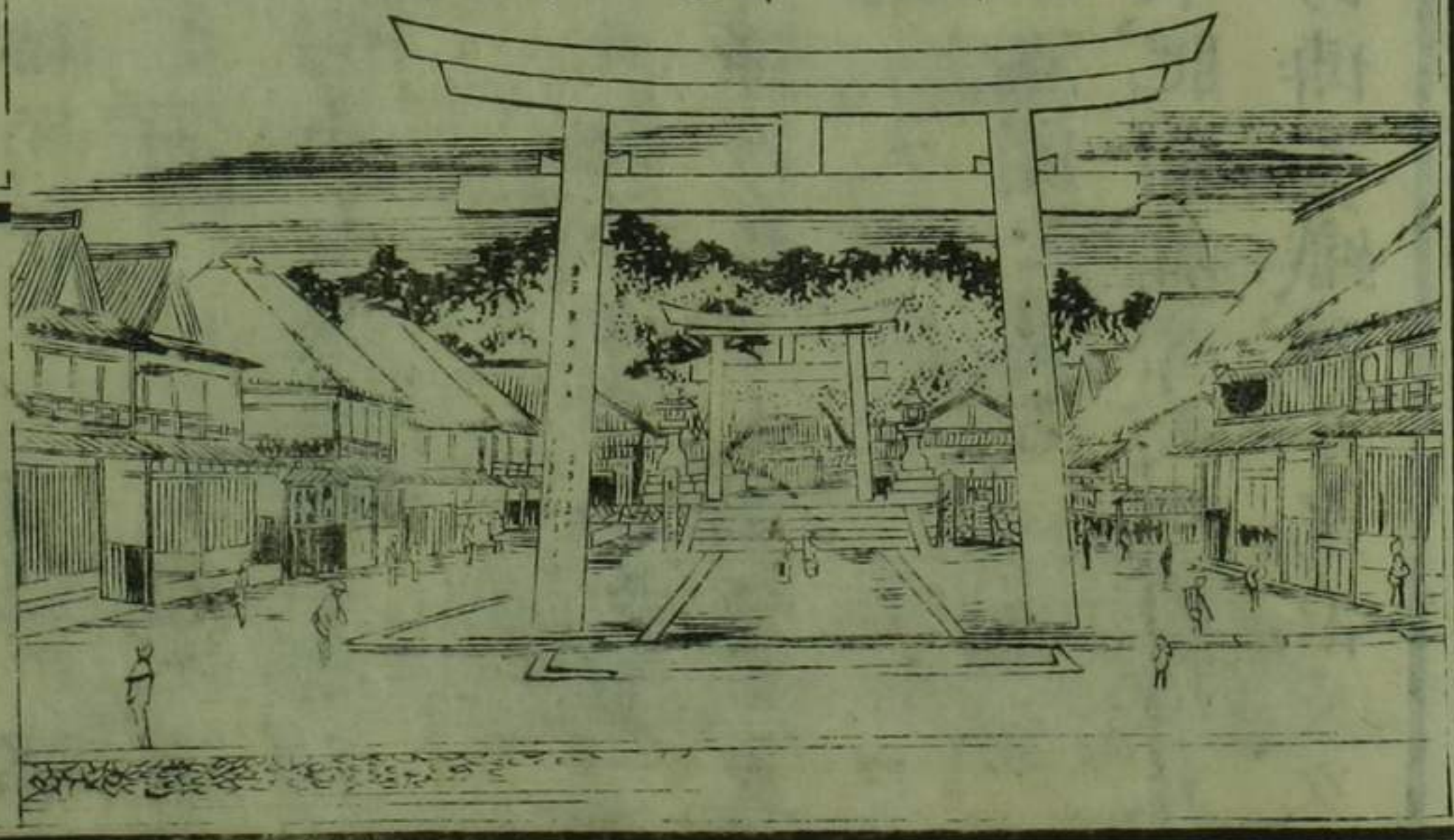
其の
他の
都會

込みたる灣頭ふ臨み、三方山に圍まれ、人口凡四
萬、市街甚賑をしく、山腰ふい秀麗ある樓閣あり
て、風光甚美なり、長崎縣廳此ふあり、
薩摩の鹿嶋を、本道中最人口多く、凡五萬四千あ
り、筑前の福岡も、博多港と市街相連り、甚繁盛な
り、豊後の大分、肥前の佐賀、日向の宮崎も皆緊要
なる都會ふして、共小縣廳のある處あり、此の他、
豊前の小倉、中津、豊後の臼杵、筑後の久留米、柳川、
肥前の嶋原、大村、深堀、唐津、福江、平戸、肥後の八代、
牛深、日向の延岡、都城、大隅の國府、對馬の嚴原も、

名所

本道著名の都邑あり、
名所舊跡の名高きもの
を擧ぐれば、筑前の博多
の北ふい、海の中道とて、
白砂、青松相連り、箱崎、香
椎の神社、海邊に臨み、風
景甚佳し、宰府に、昔太宰
府の故趾ありて、菅原道
真を祀りたる祠あり、肥
前の名護屋に、豊太閣の

太宰府天神大通大町の圖



氣候

産物

朝鮮征伐の時築きたる故跡尚存せり、豊前の耶馬溪を、山國谷と稱へ、溪間を洞門巨岩相列り、羅漢寺等頗奇勝の地あり、日向を高千穂とて、神世帝都の故跡あり、

氣候は豊前筑前及肥前の北部は、南方山を負ひ、北方海を向ふが以て、寒冷強けれども、南部に至るに従ひて、漸次温暖を増し、大隅薩摩に至れば、漸く熱く、二月の半、櫻花の満開を見る、

肥前筑前の石炭、肥後の米、肥前薩摩大隅の煙草、世に名あり、織布は筑前の博多織殊に名高く、久

留米、忍之、小次ぎ、豊前の小倉織を、近頃名ありて、實あり、多くの他の地方より織出せり、陶器は、肥前の有田焼、薩摩の薩摩焼等ありて、殊に有田焼を、世に伊萬里焼と稱えて、精巧を極め、外國輸出品中の貴重なるものなり、其の他、鯉節、砂糖、蠟燭



生蠟等を本道有名の産物なり、又漁業頗盛にして、殊に肥前の海中に於てハ、鯨を捕獲する處と多し、

附説

上世を全嶋を筑紫と總稱し、其の後太宰府を筑前に建て、全道の政務を掌らるめられしが、聖武帝の時、太宰府を廢して鎮西府を置られし事あり、是より全嶋を鎮西とも云へり、然れども西海道の名ハ蓋し文武帝の巡察使を置られし時より始りしからん、

琉球

第十 琉球

位置及名稱

琉球を薩摩海の西南に散布せる一帯の嶋嶼の總名ありて、大嶋沖繩嶋及先嶋の三群に大別し、即ち大嶋の一群を喜界、永良部、及徳嶋等の屬嶋ありて、最九州に近し、沖繩嶋を中央の一大嶋にして、惠平屋、慶良間、及久米等の諸嶋之に屬し、先嶋を最遠き西南の一群にして、宮古、石垣、入表、與那國等の諸嶋あり、

地勢

琉球群嶋を、其の位置遠く相隔り、風土間、異なる處あれども、概してこれを論ずれば、一般に山谿

山河

崎嶇として、平地少く、唯海岸小狭小ある平野あるのみなり、又高山、大川の稱すべきものあり、徳嶋の井の川、嶽剥嶽を、高各二千尺以上小達し、諸嶋の中最高山あり、大嶋の住用川を亦諸嶋中第一の大河と云、

都會及港

那覇港

諸嶋中都會及港泊と稱すべきもの少く、唯沖繩嶋の那覇港を、西南の海岸小臨み、人口凡一萬餘、縣廳の在る處にして、船舶常に輻輳し、市街繁盛なれども、港内水浅く、處々小暗礁ありて、大船は入るゝと能わざ、

首里

其の他の港泊

氣候

首里を、那覇の東五十町、人口凡四萬餘、舊琉球王の居城の在りし處なり、王子、按司、士族の邸宅相連り、頗繁盛の都會あり、
運天港を、嶋中第一の良港なれども、其の近傍小繁盛ある都會なきを以て、碇泊の船舶少し、久米泊も亦小都會なかり、
氣候暖熱にして、冬雪霜を見ず、盛夏の候は、炎威酷しなれども、海風常に多きを以て、凌ぎ易し、又夏秋の際、颶風暴雨の屢到ることあり、其の氣候如此なれども、草木周歲凋落せず、芭蕉、椰樹、榕樹

産物

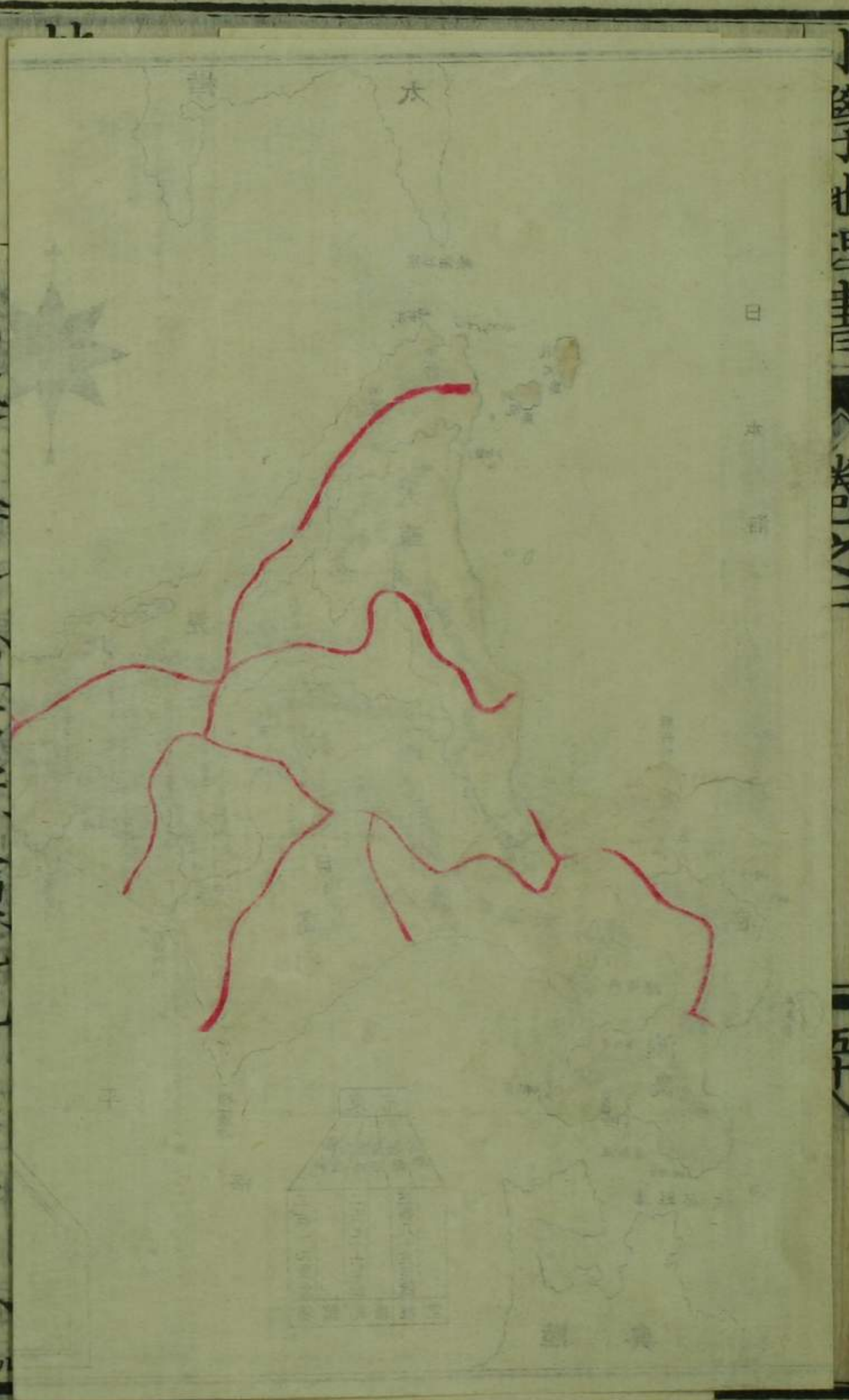
蘇鐵、椶櫚等の熱地の植物繁茂し、其の他本島の産物も異なる草木あり、動物も亦飯匙と稱する毒蛇ありて、人畜を害するものと多く、又蚊蠅の類も常々蟄むることあり、農産物も亦甘薯を第一とし、此の他甘藷、落花生、藍、烟草の類多く、又蘇鐵



附説

を植ゑて、其の實は食む、製造品も亦上布、小緑布、芭蕉布、泡盛、黒砂糖、鹽豚、疊表、朱塗の漆器等あり、大嶋群嶋を、往時より薩摩に附屬せしむ、現今を鹿嶋縣の所轄たり、沖繩及先嶋郡嶋ハ、舊琉球王の領地ありて、我が國に朝貢し、又支那にも通じて、殆ど兩屬の有様ありしが、明治五年全く我が國に歸せ、乃其の王族華族に列し、次て沖繩縣を置き、て全嶋を管轄せしむ。

くハ迅く奔れり、但石狩、天鹽、北見の沿岸ハ頗



廣大ある平地あり、殊ハ石狩川下流の兩傍次第
一と云、又海岸ハ渡嶋根室を除キバ岬灣の出入
甚少、

山岳

前説の如く、山岳を高峻のもの多し、尻別岳を膽
振、後志ヲ跨る高山あり、又石狩の夕張岳、石狩
岳、天鹽の天鹽岳、北見の利尻岳、釧路の雄阿寒岳、
渡嶋の駒岳、亦其の名高し、此の他膽振の有珠岳、
北見の宗谷岳等ハ、各其の國ハ有名ある峻岳あり、

川河

石狩川を、石狩岳より發して、其の長百四十余里、

第十一 北海道

位置

北海道ハ蝦夷嶋と稱して本嶋の東北海峽を隔てたる地方あり之ハ屬せる國を西南端ハ渡嶋あり本嶋ハ對屯其の東北ハ隣りて膽振後志ありて後志の東ハ石狩あり天鹽を其の北なり又膽振の東ハ日高十勝釧路根室の四國相連る而して北見を根室より西北ハ横たはる又千嶋を根室の北端より斷續したる群嶋あり全道開墾したる處少く山を概峻く聳え川を多くハ迅く奔れり但石狩天鹽北見の沿岸ハ頗

地勢

山岳

廣大ある平地あり殊ハ石狩川下流の兩傍次第一と云又海岸ハ渡嶋根室を除くハ岬灣の出入甚少、前説の如く山岳を高峻のもの多し尻別岳を膽振後志ハ跨る高山ありて又石狩の夕張岳石狩岳天鹽の天鹽岳北見の利尻岳釧路の雄阿寒岳渡嶋の駒岳亦其の名高し此の他膽振の有珠岳北見の宗谷岳等ハ各其の國ハ有名ある峻岳あり

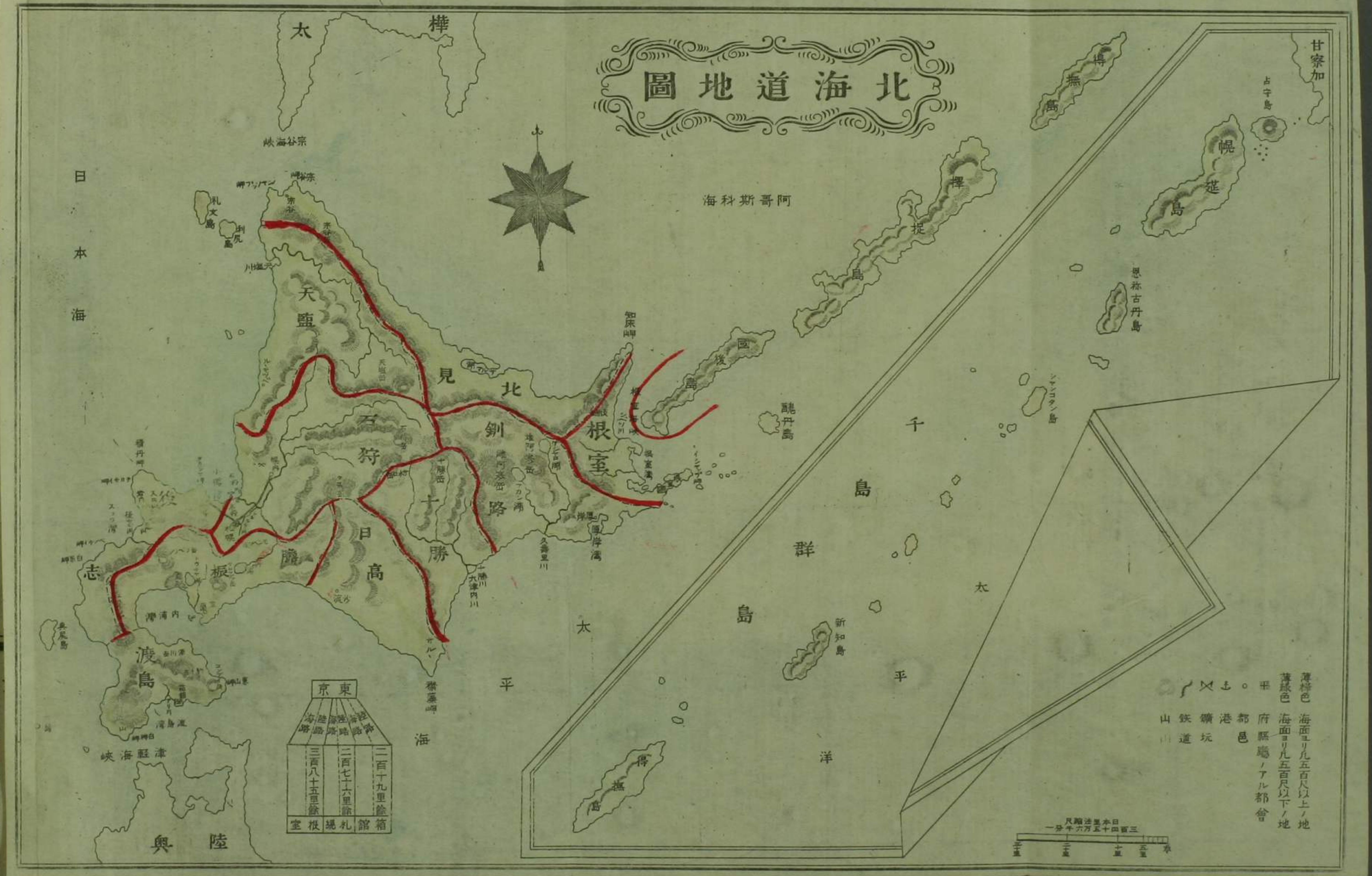
川河

石狩川を石狩岳より發して其の長百四十余里

位置

第十一 北海道

北海道ハ、蝦夷嶋と稱して、本嶋の東北海峽を隔てたる地方あり、之ハ屬せる國を、西南端ハ渡嶋あり、本嶋ハ對峙、其の東北ハ隣りて膽振、後志あり、後志の東ハ石狩あり、天鹽を其の北なり、又膽振の東ハ、日高、十勝、釧路、根室の四國相連る、而して北見を、根室より西北ハ横たはる、又千嶋



室根	三十八十里餘	二百里餘	二百九十里餘
根室	二百七十里餘	二百六十里餘	二百五十里餘
釧路	二百四十里餘	二百三十里餘	二百二十里餘
日高	二百一十里餘	二百十里餘	二百十里餘
石狩	二百十里餘	二百十里餘	二百十里餘
天鹽	二百十里餘	二百十里餘	二百十里餘

北海海道地圖



阿哥斯海

日本海

樺太

宗谷海峡

加察甘

占守島

幌筵島

恩祢古丹島

得撫島

擇捉島

靑丹島

千島

島

群

島

太

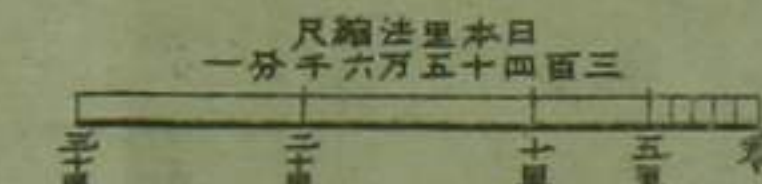
平

洋

得撫島

京東	海路	陸路	海路	陸路	海路	陸路
二百九十九里餘	二百七十六里餘	三百八十五里餘	二百七十六里餘	二百七十六里餘	二百七十六里餘	二百七十六里餘
箱館	札	現	根	室	根	室

薄綠色 海面より凡五百尺以上ノ地
 薄綠色 海面より凡五百尺以下ノ地
 府縣廳ノアル都會
 郡邑
 港
 鑛坑
 鐵道
 山



湖沼

峽

岬灣及海

我が國第一の大河あり、下流舟楫の利又少からず、天鹽の天鹽川、十勝の十勝川之に亞ぐ、其の他後志の後志川、釧路の釧路川亦巨流たり、湖沼の巨大なるもの少からば、大抵皆深山幽谷の間ありて、巨樹四圍を蔽ひ、水色紺碧、風景極めて佳なり、中にも膽振の洞爺湖、千歳湖、釧路の阿寒湖、北見の猿馬湖等、名高く、而して猿馬湖の海邊に在りて、全道第一の大湖あり、岬灣及海、本道と本嶋との間をなせる一帯水を、津輕峽といふ、此の海峡中、突出したる渡嶋の兩角、二

山岳

川河

廣大ある平地あり、殊に石狩川下流の兩傍、第一と云、又海岸の渡嶋、根室を除くば、岬灣の出入甚少、前説の如く、山岳を高峻のもの多し、尻別岳を膽振、後志に跨る高山ありて、又石狩の夕張岳、石狩岳、天鹽の天鹽岳、北見の利尻岳、釧路の雄阿寒岳、渡嶋の駒岳、亦其の名高く、此の他、膽振の有珠岳、北見の宗谷岳等、各其の國に有名なる峻岳あり、石狩川も、石狩岳より發して、其の長百四十余里、

湖沼

峽

岬灣及海

我が國第一の大河なり、下流舟楫の利又少からず、天鹽の天鹽川、十勝の十勝川之に亞ぐ、其の他後志の後志川、釧路の釧路川亦巨流たり、湖沼の巨大なるもの少からば、大抵皆深山幽谷の間ありて、巨樹四圍を蔽ひ、水色紺碧、風景極めて佳なり、中にも膽振の洞爺湖、千歳湖、釧路の阿寒湖、北見の猿馬湖等、名高く、而して猿馬湖、海邊に在りて、全道第一の大湖あり、本道と本嶋との間をなせる一帯水を、津輕峽といふ、此の海峡中、突出したる渡嶋の兩角、二

岬あり、其の東にありもの、或惠山岬といひ、西にありものを白神岬といふ、此の二岬、小擁き成せる灣を、渡嶋灣と稱ふ、又膽振の惠登毛岬を、内浦灣を抱き、後志の辨慶崎と於加毛井崎の壽津灣に臨む、辨慶崎の南に白糸崎ありて、於加毛井崎の北に積丹崎あり、又有名なる小樽灣を、石狩川の注口ありて、其の南に高嶋岬あり、日高の襟裳岬を、根室の納紗布岬と共に、長く太平洋に延出し、納紗布岬の北に根室灣あり、又厚岸灣、釧路の名泊ありて、宗谷、知床の兩岬を、北見に著る、

嶋嶼

此の宗谷岬の前ある海峡を、宗谷海峡と呼び、根室と千嶋との間を、根室海峡と呼ぶ。千嶋を、根室の東北に連ねられる二十有餘の嶋嶼の總稱あり、就中國後、擇捉、得撫、新知、恩祢、古丹、幌筵の六嶋大ふして、國後の最根室に近接せ、而して極北の小嶋を、占守嶋といふ。此の千嶋群嶋の外に、數嶋あり、奥尻嶋、大嶋を、渡嶋、後志の海上に並峙し、禮文嶋、利尻嶋、共北見、天鹽の海上に並び、而して皆甚大からば、

都會

渡嶋の函館を、五港の一ありて、舊函館縣廳の在

函館

りし處あり、人口二萬三千有餘を包有し、商業の盛ある市街の賑ひき、蝦夷第一の都會たり。此地に五稜郭と稱ふる堡塞の墟あり、壯大嶮固の名高し、札幌を石狩川の下流にあり、此の府を、舊開拓使本廳あり、今北海道廳を置く、後來繁榮の景狀ありて、市街の繁華、函館に亞ぐと謂ふ可し、此の府より小樽、幌内を通る鐵道あり、根室を、舊根室縣廳の在りし所ありて、稍開きたる都邑といふべし、渡嶋の福山、江差、後志の小樽、岩内、膽振の室蘭、釧路の厚岸を、皆盛ある都邑と

札幌

其の他の都會

氣候

稱はる不足れり、
全道の氣候を甚寒く、冬時ハ、寒暖計氷點より下
る處とありて、積雪數尺、海水爲不凍合、船を行
るべからざるに至る、其の酷烈、想像するも餘あ
るべし、

産物

産物を、天然物不富めども、人造品甚少、漁業ハ、
本道第一の利源ありて、就中、鮭、鱒、大口魚、青魚、鱒、
昆布、最多く、膾炙獸、臘虎、鯨魚の海産、其の名高し、
又、礦物不てハ、石炭、鐵、炭、出處多と極めて多く、殊
不後志の石炭坑を、蝦夷の金庫と稱ふる不至れ

附説

り、椴檜の巨材、樺、落葉松
の奇木、共不有名の産物
ありて、農産ハ、後來盛大
の望あり、
本道を、古昔より蝦夷人
の住せし地方ありて、木
嶋人を多く、其の西南部
に居住す、故に函館、松前
邊を論ず、松前より札
幌に至る間を、村邑部落



相望み、世に稱する如き寂寥の境とい覺え、然れども、其の東北部の内地に入れば、峻嶮の層嶺、渺漠の廣野、終日人少逢をざる處ありて、本嶋人の始めて此の地に來るもの、蓋驚愕を感さん、而して此等の處に、他日繁榮福祉を與ふる種子あれば、滿目蕭條の景趣も、自雍和の想を生せしむる不足るものあり。

蝦夷人の風俗を、本嶋人と大に異あり、身體毛深く、女は口傍手臂黥、獸皮或は木皮にて製したる粗服を著多、陋穢の茅屋に住み、獵漁を以て

生計營みて農業を知らず、斯の如き蠻民も昔時を甚強大にして、本嶋にまで侵入せしことあり、然れども今の頗、其の數を減じ、本道十七萬餘の人口中に、土人を僅々其の十分の一を占むといふ。



蝦夷土人の圖

斯く日小開多月小進む故に、舊開拓使を置き、之を支配せしめ、續きて札幌函館根室の三縣

或設けしは、明治十九年又之或廢し、北海道廳を置きて、全道を管轄せしむ。

新撰小學地理書卷之二終

定價金三拾錢

明治十七年十月廿九日版權免許 同二十年二月五日改正再版
同二十年八月三日訂正三版御届 同廿一年十月 四版出版

編者 岐阜縣平民

同 福岡縣平民

出版人 大阪府平民

發兌人 同

同 同

森 孫一郎

鹿兒島縣鹿兒島山下町二百五十二番地寄留

豐岡 俊一郎

大阪東區谷町五丁目四十三番地

松村 九兵衛

南區心齋橋筋二丁目四十三番地

森 本專助

東區南久太郎町四丁目十三番地

石井 鉤三郎

大阪東區備後町四丁目

吉川 半七

東京南傳馬町一丁目



